
プリキュアオールスターズ～雷の仮面と嵐を呼ぶ幼稚園児!!～

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ〜雷の仮面と嵐を呼ぶ幼稚園児！〜

【Nコード】

N5235Q

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

正義の戦士・プリキュア

雷の仮面・仮面ライダーヤイバ

嵐を呼ぶ幼稚園児・野原しんのすけ

突如出会った三人、その三人の大切な人が悪の組織・メデューサにさらわれた、友人を救うためここに有り得ない組み合わせの若者達が立ち上がる。

第1話 雷の出会い

ある青年が道を歩いていた、彼は武藤蒼牙、フリーターで自由気ままに暮らしている、そして彼は悪の組織プロトに改造された改造人間、そして仮面ライダーヤイバとしてプロトを壊滅させたのだ、そんなある日……

蒼牙「ああ、暇だなあ……1人じゃあなあ。」

アイリは発掘探検隊に就職し今孤島の遺跡の調査に行き、龍一は榊原と共に有給休暇をとり釣り旅行に出てるという。

蒼牙「くく、寂しい……おっ!？」

蒼牙は急に飛び出して来た女の子にぶつかってしまった、女の子はぶつかった勢いでしりもちをついた。

????「うわわ!？痛た……ごめんなさい!！」

蒼牙「だっ、大丈夫?」

????「いやあ、よそ見してて……痛っ!？」

????はしりもちをついた際に手に切り傷をってしまった。

蒼牙「怪我してるじゃないか!？」

????「大丈夫ですよ、もとは私が悪いんで……」

蒼牙「そんな事ないよ、今手当てするからさ。」

蒼牙は????に偶然持っていた消毒液とバンソーコーで手当てをした。

????「すみません、何から何まで……」

蒼牙「気にしないで……ねえ。」

????「はい？」

蒼牙「どこかで会った事ある？」

????「え?いや……無いと思いますけど……」

蒼牙「そう……(ん?)どこかで会ったような気がするんだけどなあ。(君名前は?)」

????「私は桃園ラブ!!あなたは？」

蒼牙「武藤蒼牙だよ。」

すると2人は異様な気配を感じとった。

ラブ(なっ、何?)

蒼牙(何だ……この気配は?)

そう思った瞬間後ろから黒い人型の物体がいた、それは姿を変え力マキリようなの姿になった。

ラブ「え！？」

蒼牙「何だあの怪人！？」

するとカマキリ怪人がしゃべった。

カマキリ怪人「私達の邪魔になる者よ、切り刻む！！」

蒼牙「何だよお前は！！」

蒼牙はヤイバスパーカーを取り出そうとしたが

ラブ「蒼牙さんは逃げて！！」

蒼牙「え！？」

ラブは携帯電話のような物を取り出した。

ラブ「チェインジ！！プリキュア！！ビートアップ！！」

ラブは桃色の光に包まれ姿を変えた。

蒼牙「あっ！？思い出した！！」

ラブ「ピンクのハートは愛あるし！！もぎたてフレッシュ！！
キュアピーチ！！」

ラブは伝説の戦士プリキュアの1人キュアピーチだった。

ピーチ「早く逃げて！！はああ！！」

ピーチはカマキリ怪人に殴りかかったが防がれカマキリ怪人はカマを振り回す、ピーチは何とかかわした。

ピーチ「危ない！？はあ！！たあ！！」

ピーチの攻撃はヒットしていくがカマキリ怪人もカマを振り回す。

蒼牙（なに鑑賞にひたつてんだよ俺は・・・早く助けないと！！）

ピーチ「きゃあ！？」

蒼牙（！？）

ピーチはカマキリ怪人のカマで足をやられた、血が垂れ痛みを耐える。ピーチ、それを良い事にカマキリ怪人はカマをピーチに向ける。

ピーチ「くっ・・・」

カマキリ怪人「死ね！！」

その時

蒼牙「やめろ！！」

カマキリ怪人「？」

ピーチ「そっ、蒼牙さん！？早く逃げて！！」

蒼牙「そんなわけにはいかない！！君が死ねば君の友達や家族が悲しむ・・・そんなのは嫌なんだ！！」

ピーチ「蒼牙・・・さん？」

カマキリ怪人「人間に何が出来る？」

すると蒼牙はヤイバスパーカーを取り出した。

蒼牙「残念だけど、俺はただの人間じゃないんでね。」

蒼牙はヤイバスパーカーを装着した。

蒼牙「変身！！」

「change YAIIBA!!」

蒼牙の体は雷に包まれた。

カマキリ怪人「何！？」

ピーチ「何が起こってるの！？」

雷がおさまると蒼牙の姿は変わっていた、コレが悪の組織プロトから世界を救った雷の仮面・仮面ライダーヤイバだ。

ヤイバ「今日がお前の命日だ！！」

ヤイバは剣を取り出しカマキリ怪人を斬りつける。

カマキリ怪人「ぬお！？かつ、仮面ライダーだと！？」

ピーチ「蒼牙さん？蒼牙さんなの！？」

ヤイバ「そうだよ？君は休んでな。」

するとカマキリ怪人はカマを振り下ろしてきた、ヤイバは剣で受け流していく。

ヤイバ「はっ！！たあ！！でやああああ！！」

ヤイバは会心の斬撃はカマキリ怪人にヒットした。

カマキリ怪人「おのれえ！！」

カマキリ怪人はカマを投げてきた。

ヤイバ「ラブちゃん！！伏せて！！」

ピーチ「うわわ！？」

カマは伏せた2人の頭上を飛んでいった、ヤイバは身を起こす。

カマキリ怪人（馬鹿め。）

するとヤイバは

ヤイバ「ラブちゃん！！まだ伏せてて！！」

ピーチ「！？」

なんとカマはブーメランのように戻ってきた、ヤイバはそれを上手く掴み取った。

カマキリ怪人「馬鹿な!？」

ヤイバ「返すぜ!!」

蒼牙はカマを投げ返した、カマはカマキリ怪人にヒットした。

カマキリ怪人「ぎゃあ!？くっそお!!」

次にカマキリ怪人は無数のカマを投げてきた。

ヤイバ「どっから出した!？」

しかしその時

ピーチ「悪い悪いの飛んでいけ!!プリキュア!!ラブサンシャイ
イイイン!!!!」

ピーチは桃色のエネルギーを発してカマを一掃した。

カマキリ怪人「なああ!？」

ヤイバ「ありがとうなラブちゃん!!」

「Y A I B A c h a r g e ! !」

ヤイバの右足に雷が流れる、ヤイバは飛び上がり空中回転する。

ヤイバ「ライダーキック!!」

ヤイバのライダーキックはカマキリ怪人に直撃、カマキリ怪人は爆散した、2人は変身を解いた。

蒼牙「ふう、助かったよラブちゃん。」

ラブ「いや、こっちこ・・・痛っ!？」

蒼牙「あっ、足をやられたんだっただね。」

蒼牙はラブの足の傷をガーゼで押さえ包帯を巻いた。

ラブ「あの・・・蒼牙さん、今のって・・・」

すると

蒼牙「思い出したよ、君はプリキュアの桃園ラブちゃん、やっぱり一度会ってたんだ。」

ラブ「え?でもそんな記憶は・・・」

「多分別世界じゃないかしら?」

蒼牙「?、あっ!!!!」

ラブ「せつな!!!!」

声をかけたのはラブの友達東せつな、キュアパッションだ。

せつな「蒼牙さん……ですよね？」

蒼牙「う……うん。」

せつな「多分あなたが出会ったのはもう一つのプリキュアの世界の私達だと思います。」

ラブ「ああ、パラパラってやつだね？」

蒼牙「いや……パラレルワールドだろ？」

ラブ「あれ？」

突然出会った蒼牙とラブ、何故2人は出会ったのか？
そして2人はまだ知らない、自分たちがもう1人の少年と3人で世界を救う事になる事を……

????「アークシオンか・め・んく　正義の……。」

つづく

第2話 嵐を呼ぶ幼稚園児

ラブ、せつな、蒼牙は喫茶店に向かっていた。

せつな「そんな事があったの？」

ラブ「うん、約束してたのに寝坊しちゃって・・・ていうか何で蒼牙さんも？」

蒼牙「まあ、俺も話を聞きたいからついてきたって事で。」

三人は喫茶店につくとラブの親友の1人キュアベリー蒼野美希が慌てていた。

美希「あつ、ラブ!!」

ラブ「美希たん!!あれ?ブツキーは？」

美希「それが大変なのよ!!」

.....

1時間前.....

美希と山吹キュアバイン祈里は一足早く喫茶店についた。

美希「おはようブツキー。」

祈里「おはよう美希ちゃん、ラブちゃんとせつなちゃんは？」

美希「寝坊じゃない？」

2人は会話をしていると何やら後ろから嫌な気配を感じた。

美希「何？」

祈里「わからな・・・きゃあ!？」

すると祈里の影から黒い人型の物体が現れ蛇のような姿になり祈里の動きを封じた。

美希「ブツキー!？」

蛇怪人はしゃべりだした。

蛇怪人「近づくな、こいつを絞め殺すぞ？」

祈里「うう・・・」

美希「あなた・・・何もの!？」

蛇怪人「言うだけ無駄だ、こいつは預かるよ。」

すると蛇怪人は祈里とともに影の中に沈んでいく。

祈里「み・・・美希ちゃん・・・た・・・すけ・・・」

美希「ブツキー!？」

・・・

蒼牙「まさかあのカマキリ怪人と何か・・・」

美希「あの・・・あなたは？」

説明中・・・

美希「蒼牙さんか・・・お願いがあり 蒼牙「祈里ちゃんを助けてほしい。」!？」

蒼牙「でしょ？最初からそのつもりだよ。」

三人は喜びの表情をした。

ラブ「あっ、でも一体どこに・・・」

美希「せつな、アカルンで行ける？」

せつなはアカルンを使った。

せつな「ブツキーの所へ。」

・・・

4人は光が消え辺りを見渡す、さすがに正確な場所にはいけなかったがちゃんとワープしていた。

蒼牙「ん？ここは？」

ラブ「どこだろう？」

せつな「二この近くにブッキーが？」

美希「？」

するとある歌が聞こえてきた。

????「アゝクシヨンか・め・んゝ 正義のかゝめゝんゝ」

せつな「子供？」

蒼牙「聞いてみよう、ねえぼく？」

赤いTシャツと黄色の短パンの少年は振り向いた。

????「ん？あんた誰？」

蒼牙「あ、あんた？（汗）」

ラブ「ねえ、ここどこだかわかる？」

すると少年は

????「おっほーい！！綺麗なお姉さん三人組ゝ！！」

少年はラブに飛びついてきた。

ラブ「え！？あわわ、危ない。」

ラブは何とか少年を抱っこする。

????「ねえねえお姉さん、ラーメンにはネギ入れるタイプ？」

せつな「ふ、不思議な子ね。」

美希「そ、そうね。」

戸惑う一同、そしてようやくラブが

ラブ「ねえ、ここどこだかわかる？」

????「ん？お姉さん達転校？」

せつな「転校？」

蒼牙「それを言うなら観光だろ？ていうか観光じゃないよ。」

????「そうとも言う、ここは埼玉県春日部市だぞ。」

美希「埼玉県!？」

せつな「春日部市!？」

蒼牙「これまた意外な所に飛ばされたなあい。」

ラブ「へえ、埼玉県かあ。」

すると

????「ねえねえ、オラの父ちゃんと母ちゃん知らない？」

美希「お父さんとお母さん？」

せつな「私達も今来たからわからないわ、え〜と・・・」

????「ん？オラの名前？おお、べつたり忘れてたゾ。」

蒼牙「すっかりね。」

少年は名乗りだした。

????「オラ、野原しんのすけ！！ピチピチできゅーとなら歳！！
しんちゃんってよ・ん・で」

ラブ「しんちゃんよろしく、私桃園ラブ！！」

美希「蒼野美希よ。」

せつな「私は東せつな、よろしくね。」

蒼牙「武藤蒼牙だよ。」

しんのすけ「ほうほう、ラブちゃんに、美希ちゃんに、せつなちゃんに、そうくんか。」

蒼牙「そ、そう君？まあ良いか。」

すると空から何かが降ってきた。

せつな「なっ!?!」

しんのすけ「お？」

美希「あ、あれって・・・」

????「久しぶりね。プリキュア。」

ラブ「ノーザ!？」

そう、現れたのはかつてラブ達が倒したはずのノーザだった。

しんのすけ「誰?あのおばさん?」

蒼牙「さあ?」

ノーザ「命知らずがいるみたいね。」

せつな「何故あなたが!？」

ノーザは答えた。

ノーザ「教えてやろう、私は組織メデューサの首領に復活させてもらったのだ。」

しんのすけ「面倒さ?」

ノーザ「メデューサだ!!おのねえ、生意気なガキめ。」

ラブ「しんちゃん逃げて!!」

蒼牙「行くぞ！」

「チェインジ！！プリキュア！！ビートアップ！！」

蒼牙「変身！！」

ラブ達はプリキュアに、蒼牙は仮面ライダーに変身した。

しんちゃん「おお！！かつちよいい！！」

ピーチ「ピンクのハートは愛あるし！！もぎたてフレッシュ！！キュアピーチ！！」

ベリー「ブルーのハートは希望のしるし！！摘みたてフレッシュ！！キュアベリー！！」

パッション「真っ赤なハートは幸せの証！！熟れたてフレッシュ！！キュアパッション！！」

「レッツ！！プリキュア！！」

ノーザ「1人見たことのない奴がいるわね、まあ良いわ。」

4人はノーザに攻撃を仕掛ける。

ピーチ「はあ！！」

ヤイバ「でやあ！！！！」

しかしピーチとヤイバの攻撃は簡単にかわされ反撃をくらう。

ヤイバ「うお!?!」

ピーチ「きゃあ!?!」

ベリー・パッション「ダブルプリキュアキイイック!」

しかしその攻撃は受け止められてしまい投げ飛ばされてしまった。

ベリー「きゃあ!?!」

パッション「うう!?!」

ノーザ「ははは!?!やはり1人足りなければ力をだせないか。」

ピーチ「!?!、まさかメデューサなの!?!ブッキーをさらったのは!?!」

ノーザ「あら?言わなかったかしら?」

ヤイバ「だったら返してもらおう!?!」

ヤイバは雷を右足に溜め込む。

ヤイバ「だああ!?!」

キックは見事にノーザに直撃した、しかしノーザは2、3歩後退しただけだった。

ノーザ「へえ、やるわね!?!」

ノーザは手から長い針を飛ばした、それはヤイバの両肩に突き刺さる。

ヤイバ「があ!?!」

その勢いでヤイバは壁に打ちつけられてしまった、ポタポタと血が落ちる。

ピーチ「蒼牙さん!?!このお!?!」

ベリー「たあ!?!」

パッション「はあ!?!」

三人の攻撃むなしくかわされ、ノーザの攻撃をくらう。

ピーチ「ああ!?!」

ベリー「いやあ!?!」

パッション「きゃあ!?!」

ノーザは倒れ込んだ三人のプリキュアのうちパッションの首を締め上げる。

パッション「う・・・あ・・・」

ピーチ「パッション!?!」

ヤイバ「お前!!やめろ!!」

ノーザ「黙れ、ふふっ・・・ラビリンスの裏切り者イース、まずはお前からだ!!」

そしてノーザはパッションを地面に叩きつける。

パッション「ああ!?!」

ベリー「パッション!!」

ノーザ「死ね!!裏切り者!!」

その時

しんのすけ「やめろ!!」

ノーザ「?」

ピーチ「しんちゃん!?!」

ヤイバ「何やってんの!!早く逃げて!!」

しんのすけ「嫌だゾ!!もうせつなちゃん達やそつくんをいじめるのはやめろ!!」

パッション「しんちゃん・・・」

ノーザ「ふん、力のないガキに何ができる。」

しんのすけ「アクション仮面がいつも言ってるぞ！優しい心の人に悪い奴はいないって！！お前みたいな真っ黒おばさんは悪い奴だゾー！！」

ノーザ「・・・その口叩けなくしてやるぞ。」

ノーザはしんのすけに近づいていく。

ピーチ「あっ！！ダメ！！（くっ、体が動かない・・・）」

ノーザ「生意気なガキがあ！！」

ノーザがしんのすけを襲おうとしたその時、黄色の玉がしんのすけに入り砂が飛び散る。

ノーザ「！？」

ベリー「なっ、何！？」

パッション「砂？」

その砂は集まりブタの姿になった。

しんのすけ「おお！！ブリブリざえもん！！久しぶりぶり〜」

どうやらそのブタはブリブリざえもんというらしい。

ブリブリざえもん「！！！！」

ブリブリざえもんが手をかざすと砂が発せられベルトとパスのよう

な物になった。

ヤイバ「はっ!?!」

ピーチ「あれは?」

しんのすけ「ブリブリざえもん、一緒に戦ってくれるの?」

ブリブリざえもん「!!!」

ブリブリざえもんは頷いた、そしてしんのすけはベルトを装着しボタンを押すとパニックパニック言いたくなる音楽がなりパスを構築する。

しんのすけ「行くゾ!!変・・・体!!!」

しんのすけはパスをベルトにかざした、するとブリブリざえもんはしんのすけに乗りうつった、しんのすけは紫色のスーツに包まれ装甲はブリブリざえもんの顔、顔は目のあたりは仮面に包まれていないがハートかおりかそんなような形の桃色のゴーグルが取り付けられた。

ピーチ「し、しんちゃん!?!」

ベリー「なんで!?!」

パッション「すごい・・・」

蒼牙「ていうか変身じゃなくて変体かよ・・・」

しんのすけ「オラ!!! 参上!!!」

そう、しんのすけはブリブリざえもんの力を借り仮面ライダーしん王に変身したのだ。

つづく

第2話 嵐を呼ぶ幼稚園児（後書き）

次回、しん王VSノーザ！！

第3話 しん王VSノーザ(前書き)

9 割茶番です(汗)

第3話 しん王VSノーザ

しんのすけはしん王に変身した。

ヤイバ「まじかよ、しかも尻丸出っして（汗）。」

しん王「そう君！今お助けするゾー！！」

しん王はベルトの鼻を顔につけ鼻 ずを飛ばした。

ヤイバ「ぬお！？汚っ！？」

するとヤイバをうちつけている針が解けヤイバは解放された。

ヤイバ「ぐっ・・・はずれたか。」

ピーチ「ナイスしんちゃん！！」

しん王「いやあ、それほどでも」

するとノーザがしん王に襲いかかる。

ノーザ「調子にのるなガキが！！」

しかししん王はノーザの攻撃をかわした。

ノーザ「なに！？」

しん王「けつだけアタアアックー！！」

しん王はヒップアタックを繰り出しノーザの顔面に直撃した。

ノーザ「ぶふっ！？ふざけるなああ！！」

ノーザは爪を立ててしん王に斬りかかるがしん王は剣？を取り出し攻撃を受け止めた。

パッション「剣！？」

ピーチ「しん王は剣を使うんだ！！」

ベリー「……ん？いや、あれは……」

ヤイバ「見間違い……じゃない！？」

しん王「オラの武器！ーブリブリ千歳飴だゾ！！」

ノーザ「ち、千歳飴ごときに私の攻撃が！？」

ベリー「何の茶番？これ……（汗）」

パッション「さ、さあ。」

ヤイバ「でも今なら奴を！！」

しん王「オラが倒すゾ！！」

しん王はパスをベルトにかざす。

「フルチャージ!!」

しん王の千歳飴もといしん王ソードにエネルギーがたまる、そしてしん王はソードを高く投げジャンプしなんとおりで掴んだ。

ピーチ「なんて筋力!？」

ヤイバ「・・・もう何でも良いや。」

しん王「しん王斬り!!」

しん王はそのままノーザを切り捨てた。

しん王「スタツ!!」

ノーザ「おのれえええ!？」

ノーザは爆散した、一同ピーチ以外は啞然としていた。

ピーチ「しんちゃんすごーい!!」

ベリー「あのノーザが・・・」

パッション「あり・・・かな?」

ヤイバ「良いのか・・・作者(汗)」

ターザン「良いの。」

.....

その頃

「さっさと歩け!！」

祈里「痛い!!!やめてよ!!!きゃあ!?!」

祈里は牢屋にほうり込まれた。

「そこで大人しくしてろ!！」

祈里「ち、ちよっと!?!?!?!ここは、どこ?」

すると背後に気配を感じた、祈里は振り向くとそこには傷だらけのキュアドリーム（夢原のぞみ）がいた。

祈里「ドリーム!?!」

ドリーム「……祈里……ちゃん?」

恐らくひどい扱いを受けたのだろう、ドリームの体はアザだらけになり、口には殴られた後のように少し血がついていた。

祈里「ひどい……どうして?」

するとドリームは口を開いた。

ドリーム「他にも……捕まってる人がいるの……助けないと……」

牢屋の外から声が響いた。

????「こらあー!!開けろお!!俺は係長だぞお!!」

????「私はその妻よ!開けなさい!!」

祈里「本当だ・・・助けないと・・・って両手繋がれてる・・・。」

ドリーム「このままじゃ・・・祈里ちゃんも・・・。」

????「お前みたいになるなあ。」

ドリーム、祈里「!?!」

.....

しんのすけ「きつと父ちゃんと母ちゃんも祈里ちゃんみたいにさらわれたに違いないゾ!!」

蒼牙「確かに可能性は高いな。」

ラブ「私達でなんとかして助けだそう!!」

美希「でもまずは体制を整えないと。」

せつな「だったらアカルンで・・・あれ?」

蒼牙「どうした?」

UJU<

第3話 しん王VSノーザ（後書き）

次回、アイリ登場！！そして奇跡が起こる！！

青年「あつ、大丈夫か!？」

.....

????「う・・・うん・・・」

????「あ・・・あれ？」

女「気がついたのね。」

アイリ「良かった〜(ってほのかと舞じゃない!?でも私に気づかないって事は別人?)。」「

そうその女の子達はプリキュアである雪城ほのか(キュアホワイト)、美翔舞(キュアイーグレット、ウィンディ)だったが別世界のプリキュアのため2人はアイリを知らない。

ほのか「あ・・・あなた達は?」「

隊長「君たちは海辺に打ち上げられていたんだ。」

舞「そうだったんですか、ありが・・・」

しかしその時、海からタコのような怪人が現れた。

アイリ「!?!？」

青年「な、なんだあ!?!？」

タコ怪人「・・・死ぬ。」

タコ怪人は腕を青年に向ける。

隊長「危ない!!」

そのタコの腕は青年をかばった隊長の体を貫いた。

隊長「ぐああ!?!」

女「隊長!?!」

隊長「に……逃げろ……」

隊長は倒れ込んでしまった。

ほのか「そんな……」

舞「こんな所まで……」

アイリ「あなた達!! 逃げるわよ!!」

2人は何か知ってるようだったが今は逃げるしかない。

女「きゃあ!?!」

アイリ「ああ!!」

女はタコ怪人の腕に首を巻きつけられ、締め上げられる。

青年「やめろ!!」

アイリ「駄目！！」

しかし女は顔を真つ赤にしながらい腕の力が抜けたように垂れ下がった。

タコ怪人「死ぬ。」

青年「このやろう！！」

舞「駄目！！」

青年「先に行け！！」

青年はタコ怪人に向かって走る。

アイリ「逃げるわよ！！」

ほのか「そんな！？」

アイリ「彼が私達のために身を捨ててるのよ！！」

2人は戸惑いながらアイリに連れられ逃げる。

青年「うわあああああ！？」

ほのか、舞「！？」

2人は振り向きそうになったが

アイリ「振り向いたら駄目!!」

2人は後ろから目をそらしアイリについていく。

.....

2人は泣きながらアイリに頭を下げていた。

アイリ「ち、ちょっと待ってどういう事？」

アイリ達は発掘調査中の遺跡に隠れた。

ほのか「本当にごめんなさい!!」

舞「私達、あの怪人に追われていたんです・・・私達が連れてきたものなんです・・・その結果、あなたの友達を・・・」

アイリ「そうだったの・・・でもほのかと舞は悪くないわ、悪いのはあの怪人。」

ほのか「でも・・・あれ？」

2人はある事に気がついた。

舞「私達名前言いましたっけ？」

アイリ「あ・・・そうだったわね、実は信じられないかもしれないけど、私あなた達に会った事があるの。」

舞「え?でも、そんな記憶・・・」

アイリ「多分別世界だけどね、特にほのかにはお世話になったわ。」

ほのか「私に……」

アイリ「そう、そういえば何であなた達はあの怪人に追われていたの？」

アイリがそう問いただし時

「見つけた……」

三人「!？」

タコ怪人が三人を見つけてしまった。

タコ怪人「殺す。」

ほのか「どうしよう……」

舞「これじゃあ変身できない。」

アイリ「奥に進んで!！」

遺跡の奥に逃げるが行き止まりでありついに追い詰められてしまった。

タコ怪人「あきらめろ……」

ほのか「なぎさ……ごめん。」

舞「咲・・・」

アイリは息苦しくなった。

アイリ（このままじゃ・・・2人は死んでしまう・・・嫌だ・・・
私はこの子供を守らなくちゃいけない・・・絶対に！！）

アイリはポケットに手を当てると何かが入ってるのに気づいた。

アイリ「これは・・・」

タコ怪人「死ね・・・」

タコ怪人が腕を伸ばし三人を襲う。

ほのか、舞「いやあああああ!?!」

アイリ（お願い・・・お願い!!）

するとマゼンタ色の光が腕攻撃を防いだ。

タコ怪人「ま、まぶしい・・・」

ほのか「な、何?」

舞「うう・・・!?!」

目の前には光に包まれたマゼンタ色でキラキラと宝石のように輝く
ツインテールの髪、白とマゼンタ色の衣装、衣装の胸には青い宝石

にマゼンタ色の花びらがついた物をつけた女が立っていた。

「……この時を待っていたわ。」

タコ怪人「？」

舞「あ、あなたは？」

ほのか「まさか……」

「そ、教えてあげるわ……私は、全ての光の集大成！！キュアデ
イリー！！！」

そう、アイリは断罪者から受け取ったデイリーモードでキュアデ
イリーへと変身したのだ。

デイリー「よおし、久しぶりに派手に行くわよ。」

タコ怪人「死ぬ。」

タコ怪人は腕を伸ばしてきたがデイリーはそれを受け流し懐に入る。

タコ怪人「！？」

デイリー「これは調査隊みんなの分よ！」

デイリーはタコ怪人に蹴りを叩き込んだ。

デイリー「そしてこれがほのかと舞を泣かせた分！！！」

ディリーはタコ怪人の顔面を殴る。

ディリー「そしてこれが・・・」

「アタックライド！！インパクト！！」

タコ怪人「！？」

ディリー「あたしの分よ！！」

ディリーはタコ怪人を衝撃波で吹き飛ばした。

ほのか「す、凄い・・・」

舞「強い・・・」

するとディリーはカードをディリーモードで読み込ませた。

「アタックライド！！イリユージョン！！」

ディリーは分身を作りそれぞれ別のカードを使った。

「キュアライド！！ブラック！！ホワイト！！」

するとディリーはブラックとホワイトの衣装に変わった。

ほのか「キ、キュアホワイトにブラック！？」

舞「まさか他のプリキュアの力を使えるの！？」

「ファイナル・マックスライド!!! ママママールスクリュー!!!」
2人のデイリーは手をつなぎキュアブラック、キュアホワイトの必
殺技、プリキュアマーブルスクリューを放った。

デイリー「はああああああ!!!」

タコ怪人は光と共に消滅、デイリーはもとの姿に戻った。

.....

その頃

祈里「きゃあああああ!?!」

ドリーム「もうやめて!?!」

祈里は牢屋の中で怪人達に襲われていた、殴られ蹴られ、ひどい時
には怪人達に噛みつかれたり爪で斬られたりした。

祈里「うう.....」

ドリーム「ひどい... 祈里ちゃんは生身の人間なのに...」

すると謎の者が口を開く。

「????」まあ、こつすれば言うこと聞くだろ、今日は退くぞ。」

謎の者と怪人達は去って行った、祈里は倒れ込んだ。

ドリーム「祈里・・・ちゃん・・・ひどい怪我・・・何とかしないと・・・」

祈里はかなりの拷問を受けたのか少量であるが血を流しながら気を失ってしまっていた。

ドリーム（どうにかして脱出しないと・・・）

・・・

一方別の牢屋では

???「おいおい、何で俺らさらわれてんだ？みさえ。」

???「知らないわよ！！しっかりしてよ係長野原ひろし！！」

・・・

アイリ「なぎさと咲がさらわれた！？」

アイリはほのかと舞から自分達のパートナーであるなぎさ（キュアブラック）、咲（キュアブルーム、ブライト）がさらわれた事を聞いた。

ほのか「はい、それとのぞみさんも、3人を救おうとりんさんとかれんさんとで協力したんですけど・・・」

舞「返り討ちあってしまって・・・」

アイリ「そうだったの・・・（のぞみになぎさに咲か・・・一か八

かあの2人と話し合ってみよう。()。「

ほのか「アイリさん？」

アイリ「ついてきて。」

ほのかと舞はアイリに連れられて孤島を出た。

つづく

第4話 光の集大成（後書き）

次回、龍一と榊原登場！！

第5話 拳と炎と水

場面は変わってここは海、龍一と榊原は船に乗り釣りを楽しんでいた。

龍一「なかなか釣れるなここら辺。」

榊原「ははは、大漁大漁・・・ってああ!？」

榊原は海に浮いている丸太にしがみつきながら流れる茶髪と青色の女の子がいた。

龍一「やばい!!引き上げるぞ!!」

榊原「浮き輪浮き輪・・・あつた!!」

・・・

龍一「おい、大丈夫か?」

???「・・・ん、んん?」

???「「」は?」

2人の女の子は目を覚ました。

榊原「海に浮いていたんだ、驚いたよ。」

龍一「君達名前は?」

????「水無月かれんです。」

????「夏木りんです。」

榊原「かれんさんにりんさんか・・・」

龍一「ああ、やっぱり。」

龍一は何かわかったような口調だった。

かれん「や、やっぱり?」

龍一「何だよ、忘れたのか?」

りん「いや、会った事ないと思うんですけど・・・」

榊原「どうしたんだ龍一?」

龍一「うそ・・・だってキュアルージュとアクアだろ?」

かれん、りん「!?!?」

そう、彼女達水無月かれん、夏木りんはキュアアクアとキュアルー
ジュなのだが彼女達は別世界のプリキュア、龍一の事を知るはずも
なく驚いている。

かれん「あなた・・・一体?」

龍一「ええ?本当に知らないの?」

すると船が大きく揺れ出した。

榊原「うお！？なんだあ！？」

りん「あつ、あれ！！」

りんが指を指した先に巨大なサメがおり、船に体当たりをしていた。

かれん「きゃあ！？」

榊原「自然体じゃないぞあの大きさ！？」

龍一「このやろう！！変身！！」

龍一は仮面ライダーケンに変身し、海に飛び込んだ。

りん「なっ、何今の！？」

かれん「変身した！？」

・・・

ケン（このやろう！！船から離れる！！）

ケンはサメに殴りかかるが水中では上手く動けず苦戦する。

ケン（くっ、うあ！？）

ケンはサメに体当たりされ船にあげられた。

ケン「チツ、水中かよ、かれんにりん、手伝ってくれ。」

榊原「まさかこの子達お前が前に言った・・・」

榊原はプリキュアの事を龍一に聞いていた。

かれん「今はやるしかないみたいね。」

りん「そうですね、いきましよう!!」

「プリキュア!!!メタモルフォーゼ!!!」

2人は光に包まれ姿を変えた。

ルージュ「情熱の赤い炎!!!キュアルージュ!!!」

アクア「知性の青き泉!!!キュアアクア!!!」

ケン「よし、榊原は船を動かしてくれ。」

榊原「はいよ・・・って命令するな!!!」

榊原は船を動かしルージュとケンは身構えてアクアはサファイアアローを構える。

アクア「そこよ!!!」

アクアはサファイアアローを放った、見事の中サメは飛び上がった。

ルージュ「プリキュア！！ファイヤーストライク！！」

ケン「ドラゴン・スクリュー！！」

炎の球と龍がサメを襲い消滅させた。

.....

かれん「あなた・・・一体？」

龍一「俺は炎舞龍一、本当に知らないんだな。」

りん「うん。」

榊原「俺は榊原だ、多分パラレルワールドだろ。」

龍一「ああ、なるほど。」

かれん「確かにつながるかも。」

榊原はまず陸地に上がろうと船を走らせる、その途中に話を聞いた。

龍一「そうか、のぞみが・・・」

かれん「はい、私達5人で助けようと思ったんですけど・・・」

りん「振り返ちにあってしまって・・・」

榊原「なるほどな、他の3人は？」

りん「こまち、うすら、くるみとは離れ離れになってしまった。」

龍一「仕方ないな一緒に助けに行くか？」

りんとかれんは目を輝かせた。

りん「ほ、本当に!？」

かれん「ありがとうございます!！」

龍一「いいよいよ、一応蒼牙に連絡とってみよう。」

.....

その頃しんのすけ達は野原家に着いた所だった。

しんのすけ「お?かすかべ防衛隊のみんなじゃないかあ、どうしたの?」

そこにはしんのすけと同じ幼稚園に通いかすかべ防衛隊を結成している風間トオル、桜田ネネ、佐藤まさお、ボーちゃんがいた。

トオル「しんのすけ!！」

まさお「僕達のママやパパが怖い怪物にさらわれたちゃったんだ!」

ネネ「しんちゃんのパパ達は!？」

ボー「しんちゃん……その人達は?」

しんのすけ「さすがそう君、ひまわりに認められたゾ。」

美希「この兄妹似てるわね。」

.....

一同は落ち着くためにリビングに集まりお互いの状況を話す。

まさお「じゃあ蒼牙さん達がいればママ達を助けられるかも!！」

しんのすけ「当然だゾ!!なんせ入れ歯とマニキュアだからね!！」

蒼牙「いや!!ヤイバだよ!？」

ラブ「それにマニキュアじゃなくてプリキュアだよ!？」

するとポーちゃんが

ポー「蒼牙さん・・・携帯・・・なってる。」

蒼牙「え?ああ、ごめん。」

蒼牙は携帯にでる、龍一だ。

蒼牙「龍一、どうしたんだ?」

龍一『実はよ・・・って事なんだ。』

蒼牙「え!?!なら境遇は同じなのか!？」

龍一『同じ?・・・まさかお前も!?!』

蒼牙「ああ、一度合流しよう、今埼玉県春日部市にいる。」

龍一『埼玉県!?!またとんでもない所にいるな、わかった、着いたら連絡する。』

蒼牙は携帯をきると次はアイリから連絡がきた、内容は同じだった。

アイリ『わかったわ、埼玉県ね。』

蒼牙「ああ、頼む。」

蒼牙達は他の仲間と合流する事になった。

第5話 拳と炎と水（後書き）

次回、あの方奇跡の復活！！

第6話 黒い雷、再び

ある森の中、謎の光の粒子が集まり人の形を作っていく、そして完全に形ができ光が消えるとそこにはある男がいた。

????「・・・へえ、不思議な事が起こるもんだな。」

????は風を感じた。

????「風、太陽、植物、空、水、火、土・・・全ての地球の力が俺を作ったのか?、でも何で?」

すると何やら2人の焦って走る足音が聞こえる。

????「?」

足音の主1「きゃあ!」

足音の主2「大丈夫!? 掴まって!!」

????は足音の方向を向いた、すると桃色のツインテールの女の子にメガネをかけた黒紫色のロングヘアの女の子が草村から出てきて膝をつく、ひどい息切れをしていた。

????「どうした?」

足音の主2「かくまって!! 追われているの!!」

????「はあ?」

.....

草村から黒い服の男が出てきた。

黒い男「おい！！女2人はどこだ！？」

????「女？知らないな。」

黒い男「とぼけるな！！」

女の子2人は草村に隠れている、しかし桃色のツインテールの女の子は木の枝を踏んで折ってしまった。

足音の主1（あっ！？）

????（はあ、馬鹿が。）

黒い男「そこか！！」

黒い男が草村に近づこうとすると????は黒い男の前に立つ。

黒い男「邪魔だ、どけ！！」

????「邪魔なんてしてないね、俺の立っているところを無理やりお前が通ろうとしてるだけだ。」

黒い男「おのれ逆らうか！！」

すると黒い男は鳥のような姿をした怪人になった。

鳥怪人「警告だ、女を引き渡せ。」

足音の主2（最悪の状況だわ。）

足音の主1（どうしましょう!?!）

すると????は黒いバックルを取り出した。

????「ちょうどいい、腕がなまってないか試させてもらっせ。」

鳥怪人「?」

????はバックルを装着した。

????「変・・・身。」

「change SYAIBA!!」

すると????は黒い雷に包まれて黒い装甲の姿に変わった。

足音の主1（ええ!?!）

足音の主2（あれは・・・）

鳥怪人「な、なんだ!?!貴様は!?!」

黒い装甲の????は赤いマントをなびかせながら答えた。

????「俺はタクヤ、またの名を仮面ライダー・・・シャイバ!!」

そう、彼はかつて蒼牙達のために命を捨てた男、タクヤであり仮面ライダーシャイバだった。

足音の主2（仮面ライダー？）

足音の主1（一体何が・・・）

鳥怪人「邪魔者は死ね！！」

鳥怪人はシャイバに襲いかかるがその攻撃をかわすと同時蹴り落とした。

シャイバ「はっ！！」

鳥怪人「ぐあ！？」

シャイバ「そんな程度か？」

鳥怪人「おのれなめるなあ！！」

鳥怪人は羽を広げされを針のように飛ばした。

シャイバ「はああ！！」

しかしシャイバは剣で全て叩き斬ったのだ。

鳥怪人「なっ、何！？」

シャイバ「とどめだな。」

「SYAIBA charge!!」

シャイバは剣に黒い雷を集める。

鳥怪人「おのれええええええ!!」

鳥怪人はそのまま突っ込んでくる。

シャイバ「でやあああ!!!」

しかしシャイバはそのまま鳥怪人を真つ二つにした、鳥怪人は爆散した。

足音の主1「す、凄いです。」

足音の主2「彼は一体・・・」

シャイバは変身を解いた。

タクヤ「もう出て来いよ。」

2人は草村から出てきた。

タクヤ「名前は？」

足音の主1「わ、私は花咲つばみです。」

足音の主2「私は月影ゆりよ。」

タクヤ「俺はタクヤ・・・お前ら普通の人間じゃないだろ？」

タクヤは2人から何かを感じとった。

ゆり「そう、私達は伝説の戦士プリキュアなの。」

タクヤ「プリキュアか・・・なるほど、でも何故追われていた？」

つぼみ「私達の仲間がああ鳥怪人の一味にさらわれてしまったんです。」

ゆり「でも相手は強敵で返り討ちにあってしまって・・・」

タクヤ「そうか・・・どうする？」

タクヤはいきなり2人に聞き出した。

ゆり「な、なにが？」

タクヤ「だから、俺も協力するかって聞いてんだよ。」

2人は驚いた、鳥怪人をあっさり倒した人物が協力してくれるからだ。

つぼみ「本当ですか!？」

タクヤ「嘘に聞こえるか？」

ゆり「いえ、よろしく頼むわ。」

こうしてタクヤは2人に協力する事になった、するとタクヤは何かを感じとった。

タクヤ「・・・埼玉県か。」

つばみ「え？」

ゆり「埼玉県に何かあるの？」

タクヤ「ああ、行こうぜ。」

三人は埼玉県に向かう事になった。

・・・

その頃

「さあ、入ってる。」

祈里「く・・・」

ドリーム「ああ・・・」

祈里、ドリームは拷問を受け牢屋に入れられた、ついにドリームは変身が解けた。

のぞみ「はあはあ・・・大・・・丈夫？」

祈里「う・・・うん、なん・・・とか・・・」

のぞみは口から血が垂れ、祈里は頭から血が垂れていた、体中はポロボロだった。

のぞみ「?・・・他にも・・・誰かいるのかな?」

すると目の前に明堂院いつき(キュアサンシャイン)、来海えりか(キュアマリン)が通った。

祈里「え!?!?・・・いつきちゃんに・・・えりかちゃん?」

しかし2人は祈里達気づかず通り過ぎた。

のぞみ「まさか・・・他のプリキュアの・・・人達も?」

祈里「それだったら・・・まずいかも・・・」

すると隣から声が聞こえる。

???「絶不調なり・・・」

???「2日間飲まず食わずって・・・ありえない。」

祈里達は「え?」と思った。

のぞみ「・・・もしかして、なぎさちゃんに咲ちゃん?」

???「え?その声ってのぞみ?」

祈里「私もいるわ。」

????「祈里まで!？」

そう、隣の牢屋に入れられていたのは美墨なぎさ（キュアブラック）、日向咲（キュアブルーム、ブライト）だった。

咲「かなり弱ってる声してる・・・大丈夫？」

のぞみ「そっちもだよ。」

壁を通して互いに今までの事を話した。

.....

場面は変わって埼玉県。

蒼牙「そろそろ来るな、あっ!？」

目の前から龍一と榊原、アイリそしてプリキュアメンバーが走ってきた。

龍一「蒼牙!!」

アイリ「良かった、無事にたどり着いたわ。」

榊原「だがまさか埼玉県に来るとはな。」

プリキュアメンバーは蒼牙達にあいさつをし現状を話した。

蒼牙「そうかみんな仲間が・・・」

りん「はい、何とかしないと・・・」

舞「でも敵のアジトがわからないんじゃ。」

龍一「こまったな。」

ラブ「ですね。」

するとしんのすけが

しんのすけ「いや〜ん、綺麗なお姉さんがいっぱい」

アイリ、プリキュア「はい!?!」

トオル「こら!?!しんのすけ!?!」

しんのすけ「ねえねえお姉さん、茹で玉子は半熟?完熟?」

アイリ「蒼牙・・・この子は?」

蒼牙はため息をつき話した。

ほのか「この子がノーザを!?!」

かれん「信じられない。」

龍一「まあ良い、でどうする?」

蒼牙達は悩む、すると後ろから

「そのための俺だな。」

一同「え？」

後ろにはタクヤ、つぼみ、ゆりがいた。

ゆり「話は聞かせてもらったわ。」

蒼牙「タ・・・タクヤ？・・・何で!？」

タクヤ「地球が俺を復活させたとも言っておこう。」

龍「何だそりゃ？」

アイリ「でも敵のアジトがわかるの？」

タクヤ「ああ、ていうかプリキュアが知ってるだろ。」

一同は「あつ、そうだ。」と言わんばかりに納得した。

つぼみ「だったら早くに行きましょう!！」

榊原「善は急げだな。」

蒼牙「榊原さん、しんちゃん以外の子供達をお願いします。」

榊原「わかった、でもその赤ちゃんどうする?。」

蒼牙「あつ!？」

ひまわりはまだ蒼牙にひつついたままだった。

しんのすけ「榊原おじさん、これ。」

榊原「おじさん・・・まあいいや、綺麗なネックレスだな。」

するとひまわりは目を輝かせ榊原にひつついた。

かれん「き、綺麗物とイケメン好き・・・」

ゆり「凄い赤ちゃんね。」

トオル「しんのすけ！！頼んだぞ！！」

ネネ「ママ達を助けて！！」

まさお「お願いしんちゃん！！」

ポー「しんちゃん・・・頑張つて。」

しんのすけ「ぶー！！ラジャー！！オラにおまかせ！！」

タクヤ「よし、案内頼むぞプリキュア。」

プリキュア一同「はい！！」

一同は仲間を救うべく敵アジトに向かった。

UJU

第6話 黒い雷、再び（後書き）

全50話ぐらいは書きます。多分

第7話 アジト（前書き）

今回は次回のバトルの準備のためかなり短めです、ご了承ください。

第7話 アジト

メデューサアジト

あるコソコソした戦闘員がいた。

????「ちょっと響!こんなんで大丈夫なの!?(小声)

????「大丈夫だよ奏、ちゃんと変装してるし。」

????「そういう事じゃなくて!これでなぎさ達を助けられるの
かって!」

????「大丈夫だつて言ってるでしょ!頭固いのよ奏は!」

????「何よそれ!」

????「何よ!」

他の戦闘員「おいお前ら!」

????達「ひつ!?!失礼しましたあゝ!」

.....

蒼牙達はプリキュア達の案内でついにアジトにたどり着いた。

ほのか「ここになぎさ達がいるわ。」

龍一「さっそく突入だな。」

しかしゆりが

ゆり「ちよつと待って、入り口が2つあるわ、どう分かれるか話し合いましょう。」

しんのすけ「そうだゾ!!!三軒通りだゾ!!!」

かれん「それを言うなら作戦会議ね。」

しんのすけ「そうとも言う」

タクヤ（そうとしか言わん。）

.....

話し合いの結果

蒼牙、しんのすけ、ラブ、ほのか、舞、アイリ

龍一、かれん、りん、つぼみ、ゆり、タクヤ
に決定した。

龍一「よし、行くうぜ!!!」

一同「おう!!!」

.....

その頃、ある心地よい風が吹く草原ではこまち、うらら、くるみ、ひかりが倒れていた、そこにある青年が駆けつけた。

青年「ハッ！？君達大丈夫か！？しっかりとるんだ！！」

つづく

第7話 アジト(後書き)

次回、蒼牙sideのバトル!!

第8話 救出

蒼牙達はメデューサアジトに潜入、奥へと進んでいく。

戦闘員「なあ！？ボス！！謎の人物達がアジトに潜入しました。」

????「モニターに表示しろ。」

メデューサアジトにある全てのモニターに場面が映された。

なぎさ「あっ！？」

咲「ま・・・舞！！」

祈里「ラブちゃん！！」

のぞみ「あの人は・・・誰？」

・・・

戦闘員が蒼牙達を食い止めるべく走りだす。

蒼牙「戦闘員か！？」

アイリ「あくまでも邪魔する気ね！！」

ラブ「どいて！！みんな行くよ！！」

しんのすけ「やっつけるゾ！！」

蒼牙、ラブ、アイリ、しんのすけは戦闘体制に入る。

蒼牙「変身!!」

アイリ「プリキュア!! スキャニング・チェンジ!!」

ラブ「チェインジ!! プリキュア!! ビートアアップ!!」

しんのすけ「変々体!!」

ほのかと舞は下がり戦いを見守る。

ヤイバ「ふっ! はっ!!」

ヤイバは剣で戦闘員を切り捨てていく。

「アタックライド!! プラスト!!」

ディリー「でやあ!!」

ディリーはロッドから光弾を放つ。

ピーチ「プリキュア!! ラブサンシャイイイン!!」

桃色のエネルギー波で戦闘員を一掃する。

しん王「力と技の風車が回る!! 父よ母よ妹よおお!! へっくしよ
おおおん!!」

しん王はベルトの鼻を付けどこかの風見志郎のような言葉を言っ
てはな ずを飛ばしそれにより戦闘員は動けなくなった。

ヤイバ（かわいそう・・・）

・・・

奥へ奥へと進みある部屋に出たヤイバ達、そこには何かがいた。

ヤイバ「何だ？」

デイリー「なんだか・・・不気味ね。」

その何かとは鋼鉄の鎧を身に付け凄まじい存在感で斧を持ちただじ
っと座っているだけだった。

ピーチ「・・・何もしない？」

すると

しん王「おお！！かつちよいい！！オラも鎧着たああい！！！！」

しん王が何かにしがみつく。

ほのか「し、しんちゃん！！！！」

舞「危ない！！」

すると何かは突然動き出ししん王に斧を振るった。

しん王「うわわわ!？」

しん王は慌てて斧をかわしヤイバのもとに戻った、そうその何かはタートナック(友情出演)だった。

ヤイバ「突然動き出したぞ!！」

しん王「もう、オラが抱きついたからって照れなくても良いのに。」

舞「しんちゃん・・・多分それ違う。」

タートナックは動きはゆっくりだがその凄まじい威圧感に一同はおされてしまう。

ディリー「とにかくやるしかないわね。」

ピーチ「行くよ!!--はあ!!--」

ピーチはタートナックを殴りつけるが

ピーチ「いいいいったあああい!？」

タートナックの鎧はかなりの強度で打撃ではびくともしない、タートナックは斧を振るった。

ディリー「危ない!？」

ピーチ「くっ・・・きゃあ!？」

ピーチは斧を避けようとしたがリーチが意外と大きく腕を斬られてしまった。

ヤイバ「ラブ!!」

「change dash!!」

ヤイバはダッシュモードでピーチを高速移動で助け出す。

ヤイバ「ラブ!!大丈夫か!？」

ピーチ「なん・・・とか・・・うう!？」

ピーチの腕からはだらだらと血が流れだす。

しん王「よくもラブちゃんを!!」

ほのか「どうすれば・・・」

デイリー「やるしかないわ!!」

デイリーはカードを使う。

「アタックライド!!スラッシュ!!」

デイリーのロッドから光の刃が出現しそれでターゲットナックを斬りつける、ターゲットナックの鎧が斬れ落ちた。

デイリー「やった!!」

しかしプリキュアメンバーは

舞「あれ？」

タートナックから斬れ落ちた鎧は胸の部分だった。

ほのか「あの鎧の下の模様……どこかで……」

ピーチ「まさか!？」

するとしん王は

しん王「もしかしてお仲間？」

ピーチ「うん、多分だけど……サンシャインだよ!！」

一同「!？」

舞「まだ確証はないけど……」

ヤイバ「なら少し我慢してくれ。」

ヤイバは剣を構える、そして走り出しタートナックの振るった斧をかわし頭部の兜を斬り落とした、すると黄色のツインテールが垂れ下がった、それは目の輝きのないキュアサンシャインだった。

しん王「おお! !べっぴんさん! !」

ヤイバ「お前な……」

ピーチ「サンシャイン!!わかるでしょ!?ピーチだよ!!」

サンシャイン「う・・・み・・・んな・・・くっ・・・うおおお!!」

ヤイバは斧で斬りつけられてしまい、壁に叩きつけられた。

ヤイバ「ぐあああ!?!」

斬りつけられたところからは血が流れ出す、しかしヤイバふらふらな状態でなんとか傷口をおさえながら体制を立て直す。

デイリー「蒼牙!?!」

ほのか「意識が戻ってない?」

舞「どうやら鎧を外さないとダメみたい。」

ピーチ「蒼牙さん出来ますか!?!」

ヤイバ「当たり前だ!!」

しん王「オラもべっぴんさんをお助けするゾ!!」

ヤイバはふらふらしながらだが立ち上がる。

ヤイバ「行くぞ!みんな!!」

するとデイリーはカードを2枚取り出す、そしてカードを読み込ませる。

「ファイナル・キュアライド！！ホホホホワイト！！イイイীগレット！！」

デイリーはほのかと舞の後ろに立つ。

デイリー「ちよつと我慢してね？」

デイリーは2人の背中をトンと叩くと2人の体は輝きだした。

ほのか「ええ！？」

舞「な、何！？」

すると2人の姿はなんとプリキュアになった。

ヤイバ「おお！！」

ピーチ「凄い・・・」

しん王「ほのかちゃんと舞ちゃんかわいい」

ホワイト「デイリー、これは？」

ীগレット「何で私達・・・」

デイリー「私の・・・いや、私達の力よ。」

ホワイトとীগレットは戦闘体制に入りサンシャインの鎧を攻撃する。

ホワイト「はあ!！」

イーグレット「たあ!！」

2人で同じ箇所を集中攻撃しダメージを蓄積させていき一部の鎧を外した。

サンシャイン「うおおおおお!！」

ヤイバ「弱ってきてるな・・・くっ!！」

ピーチ「蒼牙さん!!無理しない・・・うう!！」

2人は斬られてしまった箇所をおさえる。

ヤイバ「お前もな。」

ピーチ「いじわる・・・」

しん王「オラにお任せだゾ!！」

しん王はブリブリ千歳飴もといしん王ソードを取り出す。

ヤイバ「しんちゃん?」

ピーチ「何を・・・」

しん王「ブリブリ〜ブリブリ〜ラブリー!!千歳飴えええ!！」

すると千歳飴が伸び2人の傷をふさいだのだ。

ヤイバ「な、なんでもありがよ。」

ピーチ「ありがとうしんちゃん!」

しん王「どういたまして」

デイリー「行くわよ!」

「ファイナルアタックライド!! デイデイデイデイリー!! ホホホ
ホワイト!! イイイイーグレット!!」

デイリー「プリキュア!」

ホワイト「トリプル!」

イーグレット「スター!」

三人「ライトオオオ!」

三人は手をつなぎまばゆい光を放ちサンシャインの動きを封じ込める。

ヤイバ「今だ!」

しん王「こつじ!」

ピーチ「行くよ!」

ヤイバはライダーキック、しん王はしん王斬り、ピーチはラブサン

シャインを鎧目掛けて放ち全ての鎧を砕いた。

.....

サンシャイン「うう・・・？」

蒼牙「大丈夫？」

サンシャイン「あ、あなたは？それにみんな！？何で・・・」

一同はサンシャインに説明した。

サンシャイン「そんな、私みんなになんてひどい事を・・・」

ホワイト「気にしないで。」

蒼牙「悪いのはメデューサだ。」

しんのすけ「大丈夫！！いつきちゃんは悪くないぞ！！！！」

サンシャイン「ありがとう、しんちゃん。」

アイリ「それでサンシャイン、敵の事わかる？」

サンシャインはうつむいたまま答える。

サンシャイン「ごめんなさい、何も覚えてないわ。」

ピーチ「そう・・・」

蒼牙「まあ仕方ないさ、とりあえずいつき、一緒にみんなを助けに行こう。」

サンシャイン「はい!~!」

蒼牙達はサンシャインを連れてアジトの奥に進む。

つづく

第8話 救出（後書き）

次回は龍—side

第9話 救出2

龍一達はアジトの奥に進んでいく。

龍一「この先には一体何が・・・」

りん「絶対みんなを助け出すわよ!!!」

かれん「油断は禁物よ。」

ゆり「そうよ。」

つぼみ「がんばりましょう!!!」

タクヤ（ていうかあいつら大丈夫か？）

.....

タクヤが心配しているあいつらというのは。

ベリー「もう、何でなの？」

パッション「わからないわ。」

ベリーとパッションだ、何故か見張り役を頼まれた。（というかただ単に作者がメンバーに入れ忘れただけである。）

ターザン「ごめんなさい。」

.....

その頃龍一達は謎の部屋にたどり着いた。

タクヤ「なんだか不気味だな。」

するとゆりは何かを感じとった。

ゆり「?.....何かくるわ!??」

すると現れたのは目の輝きを失ったキュアマリンだった。

つぼみ「マリリン!??」

りん「でも.....様子が可笑しい」

かれん「どういう事?」

すると龍一とタクヤは

龍一「まあ、考えられるのは.....」

タクヤ「メデューサに操られているって事だな。」

一同は驚愕した。

つぼみ「そんな、どうすれば.....」

タクヤ「慌てるな、見ろ、胸の宝石。」

一同はマリンの胸の宝石を見た、すると本来緑色の宝石がまっ黒に染まっていた。

ゆり「なるほど、マリンを浄化すれば戻るかもしれないわね。」

りん「私達なら絶対出来る!！」

龍「行くぞ!!!！」

「プリキュア!!!メタモルフォーゼ!！」

「プリキュア!!!オープンマイハート!!!」

「変身!!!」

一同は変身し戦闘体制に入る。

ブロッサム「マリン!!!目を覚ましてください!!!」

ブロッサムはマリン目掛けて攻撃を仕掛けるがかわされマリンシュートで吹き飛ばされた。

ブロッサム「きゃあ!?!」

するとムーンライトがつづく。

ムーンライト「シルバーインパクト!！」

マリンはシルバーインパクトをかわすがアクアが

アクア「プリキュア！！サファイアアロー！！」

サファイアアローですかさず攻撃をする、マリンは攻撃を防ぎきる。

シャイバ「はあ！！」

シャイバはその隙に攻撃を仕掛けるが受け止められ投げ飛ばされた。

シャイバ「うわあ！？」

ケン「りん！！」

ルージュ「わかった！！」

ケンとルージュが身構える。

ルージュ「プリキュア！！ファイヤーストライク！！」

ケン「ドラゴン・スクリュー！！」

炎の球と龍がマリンを襲うがマリンは手で弾き飛ばしブルーフォールテウエーブで反撃した。

ケン「うわあ！？」

ルージュ「きゃあ！？」

マリンはかなりの強敵だった、大勢でかかっても手こずるほどだった。

ケン「なんて奴だ。」

ムーンライト「これは骨が折れるわ。」

ブロッサム「なんとか助け出したい!!」

シャイバ「それはみんな同じだ。」アクア「でも攻撃が効かないんじゃない。」

ルージユ「!!!、来るよ!!」

マリンは一同に突っ込んできた、なんとか攻撃を受け止めたりかわしたりで場をしのごう。

シャイバ「そうだ、龍一!!」

ケン「わかってる!!!いけるかもな!!」

2人は何かに気づいたようだ。

ブロッサム「な、何かわかったんですか!?!」

ルージユ「何!?!」

シャイバ「まあ見てろ!!」

ケン「はあ!!」

ケンはドラゴン・スクリューを放ったがマリリンがそれを跳ね返す。

ケン「でやあー!!」

しかしケンはドラゴン・スクリューを跳ね返す、マリンは再び跳ね返すの繰り返しだった、その際にシャイバは後ろからライダーキックを打ち込む、マリンは地面に叩きつけられる。

ブロッサム「ええ!? 不意打ち!？」

ムーンライト「おそらくマリンの特徴を利用したんだわ。」

ルージュ「特徴?」

ムーンライト「マリンは目の前の事に集中しすぎてしまったのよ、その際に別方向から攻撃を仕掛ける。」

アクア「たしかにえりかって単調なところが多いわね。」

ルージュ「私達も行こう!!」

マリンの特徴を考えた戦法でマリンをおす。

ケン「よっし!!とどめ・・・」

シャイバ「待て!! ブロッサム、パートナーのお前がやれ。」

ブロッサム「はい!!」

ブロッサムはタクトを構える。

ブロッサム「プリキュア!!! ピンクフォルテウェーブ!!!」

ブロッサムの本殺技は見事マリんに直撃し悪の力を浄化した。

.....

マリン「ううん、ぐらぐらする。」

つぼみ「マリン！..！」

マリン「あれ？つぼみちゃん、それにみんな！？っていつかあなた達は？」

一同は事情を説明する。

マリン「まじ！？うわぁごめん！..！」

タクヤ「お前は悪くないよ。」

龍一「気にすんな。」

ゆり「マリン、何か覚えてる？」

マリン「ううん、まったく。」

りん「そう。」

かれん「仕方ないわ、とりあえず先に進みましょう、マリンも一緒に。」

マリン「当然！..！メデューサをこらしめない気がすまない！..！」

龍一「よし、行くか!」

龍一達はマリンと共に奥に進む。

.....

その頃、こまち、うらら、くるみ、ひかりは変身し青年とメデューサアジトの近くにいた、そして青年のもう一つの姿を目の当たりにし驚愕していた。

ミント「まさか・・・あの人が・・・」

レモネード「信じられません・・・。」

ローズ「でも凄い。」

ルミナス「プリキュアが集合して苦戦した怪人達を1人で・・・」

青年の放った黄色の光線が怪人達を一掃した。

青年「さあ君たち、先へ進もう!」

つづく

第9話 救出2（後書き）

青年の正体がわかった人もいると思いますがまだ名前は出さないでください！！お願いします！！

第10話 新たな戦士

蒼牙組と龍一組は奥に進むとはちあわせになった、どうやら通路は繋がっていたようだ。

蒼牙「あ、龍一。」

龍一「おお、蒼牙。」

かれん「サンシャインがいるわ!!」

りん「良かった。」

アイリ「マリンもいる!!」

しんのすけ「おお!!小さくてかわいい」

マリン「しんちゃんだね。」

すると謎の次元から怪人達があらわれた。

蒼牙「あれは!？」

ラブ「なんか真ん中にボスみたいなのがいるよ。」

そのボスのような者が語りだした。

「???」愚かな者共よ、よくここまでできたな、まあこいつらを救うためだろうがな。」

赤いマントを身に着けた????はのぞみ、祈里、なぎさ、咲を出した。

ほのか「なぎさ!」

舞「咲!」

咲「あ、舞!」

なぎさ「ほのか、お腹へった。」

????「のんきな奴だ。」

りん「のぞみ!絶対助けるからね!」

のぞみ「りん・・・ちゃん?」

ラブ「ブッキー!安心して!」

祈里「ラブ・・・ちゃん?」

タクヤ「ひどい事しやがるな、体中ボロボロじゃないか。」

アイリ「許せない!」

????「面白い物を見せてやるっか?」

ゆり「面白い物?」

???は手を上げるとのぞみ達は隣の個室にワープさせられた。

なぎさ「な、何ここ?」

すると部屋に空いている穴から大量の水が流れ出した。

のぞみ「!!!、何!?!」

祈里「まさか・・・」

舞「溺死させる気!?!」

・・・

個室側の壁が透明になりその一部始終を見られるようになった、?
???は4人が死ぬ場面を見させようというのだ。

???「時間は10分程度か。」

蒼牙「やめる!?!」

ラブ「みんな!?!」

しんのすけ「行くゾ!?!」

一同は変身し怪人達を倒していく。

ディリー「ディリー・インパクト!?!」

ムーンライト「シルバーインパクト!?!」

ピーチ「プリキュア！！ラブサンシャイン！！」

ホワイト・イーグレット「ダブル！！プリキュアキック！！」

ブロッサム「プリキュア！！ピンクフォルテウェーブ！！」

マリン「プリキュア！！ブルーフォルテウェーブ！！」

サンシャイン「プリキュア！！ゴールドフォルテバースト！！」

プリキュア達は怪人達を次々に倒していく。

ヤイバ・シャイバ「ライダースラッシュ！！」

ケン「ファイタートルネード！！」

???「ほう、あの怪人達を一掃するとはやるな、だが・・・」

???は次元をこじ開けて強敵を呼び出した。

しん王「とう！！しん王斬り！！」

しん王は怪人達を倒していくが強敵の攻撃を受けてしまった。

しん王「おわああ！！」

ピーチ「しんちゃん！！」

ピーチがしんのすけを受け止める。

しん王「あの怪物強いゾ!!」

怪人「貴様らは大人しく仲間の死に様を見ている。」

ヤイバ「やらせるか!!」

しん王「オラも行くゾ!!」

ピーチ「みんなを助ける!!」

三人は怪人達に立ち向かった。

.....

祈里「まずいわ・・・もう膝まで来てる。」

水は祈里達の膝までたまっていた。

なぎさ「このままじゃ本当に死んじゃう!？」

咲「あきらめちゃダメだよ!!」

のぞみ「出口を探そう!!」

4人は必死に出口を探すが見つからない、と同時に焦りが生まれて
いた。

.....

一方、別の部屋のモニターからある青年とミント達が祈里達の様子を見ていた、何とか水を止められないかどうか考えていたようだ。

青年「ダメだ、直接あの部屋に入るしかない。」

ミント「でもどうやって?」

ローズ「そうだ、地図よ!! 地図を探して!!」

青年はモニターをアジトの地図に映し変えた。

レモネード「あ、部屋の反対側に通路があります!!」

ルミナス「これを使いましょう!!」

青年「よし、私はこの通路を探す、ミント君達はしんのすけ君達を助けに行ってくれ!!」

ミント達「はい!!」

ミント達はヤイバ達のもとに向かう。

.....

ヤイバ「ぐああああ!!」

しん王「うわああああ!!」

ピーチ「きゃああああ!!」

三人は怪人に苦戦していた。

???「馬鹿が、既に勝敗は決まっている。」

しん王「うう、体が動かないゾ・・・」

ヤイバ「ちくしょう・・・」

ピーチ「このままじゃ・・・」

アクア「まずいわ!? 水がもう肩にまでたまってる!!」

シャイバ「何としてでも食い止めるぞ!!」

怪人「愚かな。」

怪人は爆発を起こしシャイバ達もさえ動けなくした。

シャイバ達「ぐあああ!!?」

???「終わりだ、おい戦闘員、こいつらを連れていけ。」

???の側にいた2人の戦闘員はヤイバ達に近づくと途中で足を止めた。

???「?、何をしているさっさと連れていけ!!」

すると

戦闘員1「ごめん、それはできないわ。」

「???」「!?!」

戦闘員2「この人達は私達の大切な友達だから。」

2人の戦闘員は戦闘服に脱ぎ捨てた、普通の格好をした女の子2人だった。

ピーチ「あ、あなた達は!!」

戦闘員?1「久しぶり!!」

戦闘員?2「今助けるわ。」

「???」「何者だお前達は!?!」

戦闘員?1「教えてあげるわ、私は北条響!!」

戦闘員?2「私は南野奏、そして私達は!!」

響は何かを掲げ奏は何かをそれに付けた。

「レッツプレイ!!プリキュア・モジュレーション!!」

すると2人の体が輝きだし響はピンクの衣装と髪、奏は白の衣装に黄色の髪になった。

ヤイバ「おお。」

しん王「かわいい〜」

ピーチ「来てくれた！」

響「爪弾くは荒ぶる調べ、キュアメロディ!!!」

奏「爪弾くはたおやかな調べ、キュアリズム!!!」

「届け!!!二人の組曲!!!スイートプリキュア!!!」

そう、響と奏は新たな戦士・スイートプリキュアだった。

メロディ「行くよリズム！」

リズム「うん!!!」

2人は怪人達に挑みおしていく。

ケン「っ、強い・・・」

シャイバ「さすがだな。」

???（馬鹿め。）

スイートプリキュアの2人はついに怪人達を倒した。

メロディ「次はあんたよ!!!」

リズム「・・・ってメロディ!!!水が!?!」

そう、気づけば祈里達を閉じ込めている部屋の水がついには祈里達

を飲み込み始めていたのだ。

ケン「やべえぞ!?!」

ヤイバ「早くしないと!?!」

メロディ「水を止めなさい!?!」

メロディは???に殴りかかるがあっさりかわされ溝を蹴られ口から血を吐き出して吹き飛ばされた。

メロディ「きゃあ!?!」

リズム「メロディ!?!やめなさい!?!」

つづいてリズムが連続攻撃を仕掛けるが全て受け止められ???の爪で腕を切られてしまい腕から血を流す。

リズム「ああ!?!」

???「スイートだか何だか知らんが・・・我の前では無力だ!」

???は波動を出し2人もろともヤイバ達も吹き飛ばした。

ヤイバ達「ぐああああ!?!」

ヤイバ達はもう限界が近かった。

???「我が名はスペイラー!?!このアジトの首領!?!貴様らは我に葬られるのだ!?!」

ヤイバ「く……そ……」

ピーチ「う……動けない……」

しん王「オラ……立てないゾ。(お願い……助けに来て……ア……)」

ブロッサム「い……祈里さん達が……」

部屋には完全に水に満たされた部屋で浮きながら苦しんでもがく祈里達が出た、そしてついには祈里達は動かなくなってしまった。

ピーチ「あ……ああ!？」

しん王「い、祈里ちゃん!？」

ヤイバ「うわああああああああああああああああああ!？」

しかしその時、緑色の円盤がスペイラーを襲う、スペイラーはそれをかわす。

スペイラー「おっと、何だ?」

それはミント達だった、何とかヤイバ達のもとにたどり着いたのだ。

ミント「みんな!……」

レモネード「しっかりしてください!……」

デイリー「こ、こまち達……」

ホワイト「なぎさや……咲が……」

すると

ローズ「安心して。」

ルミナス「なぎささん達は助かります。」

一同「えっ？」

スペイラー「ど、どういう事だ!？」

その時、水に満たされた部屋の壁が何者かに壊され水が全て流れ出た。

メロディ「!？」

リズム「な、何!？」

ヤイバ「何だ……あの人は……」

空けられた穴から見えたのは青の体に緑色のボディ、赤いショートパンツに手足、そして顔が下半分出た青の仮面に黄色の複眼、それを見たしん王は

しん王「ア……ア!!」

^U^U

第10話 新たな戦士（後書き）

ちょっとスイートの扱いが酷かったかな？次から気をつけよう。

次回、青年の正体が明らかに！！

第11話 無敵のヒーロー

祈里「……ぐっ、ゲホゲホ！」

のぞみ「……あれ？」

なぎさ「私達……」

咲「生きてる？」

4人は生きていた、青年が間一髪で救ってくれたのだ。

イーグレット「良かった……」

マリン「でも……」

ムーンライト「彼は一体？」

スペイラー「何者だ！！貴様！？」

青年「教えてやろう、私の名は無敵のヒーロー！！アクション仮面
！！！」

しん王「アクション仮めええん！！！」

しん王はアクション仮面に飛びつく。

アクション仮面「やあ、しんのすけ君立派な姿だね。」

しん王「助けにきてくれたんだね!？」

ヤイバ「アクション・・・仮面？」

ケン「仮面ライダーでは・・・なさそうだな。」

シャイバ「だが敵ではないみたいだな。」

デイリー「しんちゃんの知り合いみたいだし。」

すると

スペイラー「アクション仮面だと?何だか知らんが貴様も邪魔をするのならただではすません!!」

スペイラーは数え切れない数の怪人を呼び出した。

アクション仮面「君達!!ボスは私に任せて怪人を倒してくれ!!」

ブロッサム「わかりました!!」

ホワイト「デイリー!!お願い!!」

デイリー「OK!!」

「ファイナルキュアライド!ブブブラック!!ブブルーーム!
」!

祈里「チェインジ!!プリキュア!!ビートアップ!!」

のぞみ「プリキュア!!!メタモルフォーゼ!!!」

なぎさと咲はディリーの力で単体変身し、祈里とのぞみも変身した。

ヤイバ「よし、アクション仮面を援護だ!!!」

ケン「ああ!!!」

シャイバ「やるか。」

一同は戦闘体制に入る。

ブラック「よくもやってくれたわね!!!はあ!!!」

ブルーム「お腹減って死にそうだったんだから!!!でやあ!!!」

ホワイト「今度は!!!」

イーグレット「こつちが!!!」

ドリーム「あんた達を懲らしめる番より!!!」

パイン「覚悟して!!!」

5人は渾身の力で怪人達をなぎはらっていく。

ルミナス「ルミナス!!!ハーティエルアクション!!!」

ルミナスは怪人達の動きを止める。

ルージュ「プリキュア！！ファイヤーストライク！！」

アクア「プリキュア！！サファイアアロー！！」

炎の球と水の矢が怪人達を襲う。

しん王「へっくしょおおん！！」

しん王ははな ずで相手の動きを封じ、しん王ソードを構える。

しん王「そう君！ラブちゃん！！」

ヤイバ「よし！！」

ピーチ「行くよ！！」

しん王はしん王斬り、ヤイバはライダースラッシュ、ピーチはラブサンシャインフレッシュで怪人達を一掃した。

レモネード「プリキュア！！プリズムチェーン！！」

レモネードが相手を鎖で拘束する、すると

「プリキュア！！エスポワールシャワー！！」

「プリキュア！！ハピネスハリケーン！！」

2つの必殺技が怪人達を倒した。

ピーチ「ベリー！！パッション！！」

ベリー「いつまで見張りさせるつもりだったのよ!？」

パッション「もう待ちきれなくなって来ちゃった。」

ヤイバ「あ、ごめんごめん。」

ケンは拳に凄まじい炎をたくわえる。

ケン「つぼみ!! えりか!! いつき!! ゆり!!」

ブロッサム「わかりました!!」

サンシャイン「よおし!!」

マリン「やるっしゅ!!」

ムーンライト「行くわよ!!」

2人は高く飛び上がった。

ケン「ファイターパンチ!!」

ハートキャッチ「プリキュア!! 全部パンチ!!」

パンチ連打で怪人達は吹き飛んだ。

ケン「パンチって・・・ボディアタックだろ・・・」

シャイバはローズ、メロディ、リズムと協力していた。

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌めく薔薇を咲かせましょう!!」
ミルキイローズ・メタルブリザード!!」

ブリザードにより氷に包まれた怪人達。

シャイバ「はっ!!」

シャイバは足に黒い雷をたくわえる。

メロディ「シャイバ!!」

リズム「準備は出来たわ!!」

シャイバ「わかった!!」

メロディとリズムは両手をつなぎシャイバは足を乗せ反動で飛び上がる。

シャイバ「はあああ!!」

シャイバのキックが氷に直撃し黒い雷を帯びて砕け散った。

.....

スパイラー「アクション仮面、本当に我の邪魔をするか？」

アクション仮面「平和を脅かす者は・・・私の手で倒す。」

アクション仮面は身構え、スパイラーは爪を立てる。

スパイラー「死ね!!」

アクション仮面「行くぞ!!!」

アクション仮面はスパイラーに蹴りかかる、スパイラーはそれを防ぎ爪を振り回す、アクション仮面はそれをかわし攻撃を繰り返す。

アクション仮面「ふっ!!!はっ!!!でやあ!!!」

スパイラー「ふん!!その程度か!?!」

アクション仮面「まだまだあ!!!」

アクション仮面とスパイラーの戦いは死闘だった。

ヤイバ「アクション仮面!!!」

ピーチ「今行きます!!!」

するとしん王が2人を止める。

しん王「ダメだゾ!!!」

ピーチ「しんちゃん!?!」

ヤイバ「何で!?!アクション仮面を助けないと!!!」

しん王「アクション仮面が言ってたゾ、男と男の1対1の勝負に手をだしちゃいけないって!!!仲間ができるのは応援で力を与える事

だゾー!!」

ヤイバ、ピーチ「……」

しん王の言葉は妙に説得力がありヤイバとピーチはアクション仮面を見守る事にした。

アクション仮面「アクション！キーツク!!」

スペイラー「ぬお!?おのれ!!」

アクション仮面「ぐあ!?!」

アクション仮面のキツクは直撃したがそのまま投げ飛ばされてしまった。

しん王「アクション仮面頑張つて!!」

アクション仮面はしん王達に拳から親指を上立てた、そしてスペイラーを殴りつけた、口から血を吐き出した。

スペイラー「ぐあ!?!」

しかしスペイラーの爪でアクション仮面の体も斬られてしまった、血が流れ出す。

アクション仮面「ぬあ!?!」

お互い距離をとり息をあがらせる。

スパイラー「はあはあ・・・」

アクション仮面「ふうふう・・・」

スパイラーは手から赤い血のようなエネルギーを発した。

スパイラー「死ねえええ!!!」

アクション仮面は両手を掲げ胸のあたりに持ってきた。

アクション仮面「アクションオオオオン!!! ビイイイーム!!!」

アクション仮面の両手から黄色の光線が発せられた。

赤と黄色の光線がぶつかり合う。

ヤイバ「うわ!?!」

デイリー「凄い力!?!」

ドリーム「飛ばされそう!?!」

すると赤い光線が徐々に黄色い光線をおしていく。

スパイラー「はははは!!! 終わりだあ!!!」

アクション仮面「くっ!?! うぐぐぐっ!!!」

アクション仮面は光線に力を込めるが徐々におされてしまう、その時

しん王「アクション仮ええん！！負けるなああああ！！」

アクション仮面「しんのすけ君！！うおおおおお！！」

するとアクション仮面の光線が徐々に徐々に赤い光線を押し返していく。

スパイラー「ば、馬鹿な！？」

そしてついには黄色の光線は赤い光線を打ち消しスパイラーに直撃した。

スパイラー「ぎゃあああああ！？」

.....

スパイラー「・・・まさかこんな力が・・・」

倒れたスパイラーにアクション仮面は答えた。

アクション仮面「これは私だけの力ではない、しんのすけ君や蒼牙君にラブ君、他のみんなが私の力になってくれたんだ。」

スパイラー「・・・なるほどな・・・」

ラブ「ブッキー無事で良かった〜！！」

祈里「ごめんねラブちゃん、心配かけちゃって。」

りん「のぞみも無事で良かったわ。」

のぞみ「ありがとうみんな。」

しんのすけ「これで救われましたな・・・ってそうだ忘れてたゾ！
！父ちゃんと母ちゃんは！？」

一同は「あっ！？」となった。

スパイラー「安心しろ・・・輸送されたただけだ、まだ生きてる。」

龍「輸送？」

アイリ「まさか、メデューサのアジトはまだ他に！？」

つぼみ「あなたが首領じゃなかったんですか！？」

スパイラー「違うな、俺はこのアジトのリーダーなただけだ、本部は別にある。」

せつな「そんな・・・」

うらら「どうすれば本部に行けるんですか？」

スパイラー「さあな・・・俺も行った事がない・・・ただアジトは本部とあわせて・・・あと3つある。」

ひかり「そんなにあるんですか！？」

するとスパイラーの体は消え始めた。

タクヤ「時間みたいだ。」

いつき「ちよつと待って！！最後に聞かせて！！本部以外のアジトはどこに！？」

スパイラー「俺も・・・知らん・・・」

そしてスパイラーは消滅した、そしてアジトが揺れ出した。

アクション仮面「何だ！？」

アイリ「多分崩れるわ！！」

しんのすけ「ええ！？」

響「な、何で！？」

奏「まさかスパイラーの命と繋がっていた！？」

龍「急げ！！」

つづく

第11話 無敵のヒーロー（後書き）

次回、大脱出なるか!?

第12話 間一髪だゾ!!

メデューサージトが今にも倒壊の危機にあった、一同は必死に走る。

ラブ「はあはあ!!せつな!!アカルン!!」

せつな「だからどっか行っちゃったのよ!!」

アイリ「わあああ!!?潰れるうう!!?」

アクション仮面「急ぐぞ!!」

一同は必死に走り出口を目指す、するとつぼみが転んでしまった。

つぼみ「きゃあ!?!」

えりか「つぼみ!?!」

さらに天井が崩れつぼみは間一髪それを避けたが足が瓦礫に挟まってしまった。

響「つぼみ!!今助ける!!」

響、りん、えりか、龍一が瓦礫からつぼみを引っ張り出そうとするがなかなか引つ張り出せない。

えりか「ああああ!!つぼみいい!!?」

龍一「慌てるな馬鹿!!」

響「このおー!!」

りん「うぬぬぬー!!」

なんとか引つ張り出せた、つぼみは龍一におぶられる。

つぼみ「す、すみません!!」

龍一「気にすんな!!急げえええ!!」

一同は必死に走るがついに床が崩れ落ちた。

「うわあああああ!?!」

「きゃあああああ!?!」

.....

タクヤ「・・・あれ?」

なぎさ「生きてる?」

しんのすけ「凄いゾー!!」

何と蒼牙とアイリが変身していた、ディリーがキュアウインディの風力で風を起こしクッションを作り、ヤイバはダッシュモードで降ってくる瓦礫を全て打ち砕いたのだ、2人は変身を解いた。

蒼牙「はあはあ、2日間は・・・変身したくない・・・」

アイリ「はあはあ、本当に・・・ね。」

しんのすけ「おお！！そう君やるっ！！アイリちゃん愛してるっ
」

しんのすけはアイリに飛び付いた。

アクション仮面「無事で良かった、では私はこれでさらばだ。」

しんのすけ「ええ！？もう行っちゃうの！？？」

なぎさ「一緒に戦いましょうよ！！！」

アクション仮面「すまない、私には待っている人達がいるんだ。」

龍「まあ、助かったぜ。」

奏「ありがとうございます。」

アクション仮面「礼には及ばないよ、しんのすけ君、じゃあ最後に・
・・・」

しんのすけ「おお！！やるゾ！！！」

2人は両手を斜めに掲げる。

アクション仮面「正義は！！！」

しんのすけ「必ず勝つ！！！」

「ワアハツハツハツハツ!!」

.....

アクション仮面が去った後、蒼牙達はまずしんのすけの家に集まり話し合っていた。

しんのすけ「これからどうするの?」

ひまわりをあやす祈里とタクヤ。

祈里「どうしようか?」

タクヤ「だが帰るわけには行かないだろ。」

かれん「たしかに・・・」

えりか「でもさ、親が心配するし。」

ひかり「はい、私もアカネさんのお手伝いもありますし。」

ラブ「でも、メデューサと戦うには一緒にいた方が良いでしょう?」

アイリ「どうするべきかしら?」

.....

その頃、どこかのメデューサアジト

怪人「アバタ様、アカルンでございます。」

アバタ「ご苦労、あとは赤いリンクルンでどの世界にも行き来できる。」

アカルンはメデューサに奪われてしまっていたのだ。

.....

蒼牙達はまだ悩んでいた、その時頭に声が響いた。

「親の事なら心配いらなんだＹＯ！」

しんのすけ「お？」

蒼牙「何だ!？」

ラブ「頭に直接声が送られてくる。」

「驚いたかＹＯ? まあ良いや、親の事なら心配いらなからさ。」

咲「何で？」

「ここ埼玉県春日部市のどこかにメデューサのアジトがあるのを知ってるかＹＯ?」

龍「ああ。」

「そのメデューサのせいで今埼玉県春日部市以外の場所の時間が止まっているんだＹＯ！」

一同はそれを聞いたとたん驚愕した。

舞「ええ!？」

くるみ「本当に!？」

「あはは、ウソなんて言わないYO!」

タクヤ「だが妙だな、何故ここだけ時間が止まらない？」

「まあ、わかりやすく言えば君達の力かな？」

響「私達の？」

ほのか「どういう事かしら？」

「君達の力のおかげでこの地方だけメデューサの力の干渉を受けずにすんだってわけだYO!」

しんのすけ「力のこしょう?」

アイリ「干渉ね。」

奏「ねえ、さつきから気になってただけど・・・あなたは？」

「僕?僕はニヨキだYO!」

のぞみ「ニヨキ?」

りん「何そのふざけた名前。」

「失敬な！！とりあえず、僕達も君達のためにはやく駆けつけるからYO！」

こまち「一緒に戦ってくれるの？」

「当然だYO！」

つぼみ「ありがとうございます！！」

ゆり「でも私達どこで生活すれば良いの？」

うすら「確かに住む場所が無いですね。」

すると

しんのすけ「じゃあ家に泊まりなよ。」

一同「えっ！？」

ラブ「い、良いの！？」

蒼牙「本当に！？」

しんのすけ「大歓迎だゾ！！特にきれいな人はねえ」

最後の一言に腰を抜かす一同、こうして蒼牙達はしんのすけの家に居候することとなった。

UJU

第12話 間一髪だゾ!! (後書き)

次回から過激な戦闘開始!!

第13話 三人の危機（前書き）

今回は残酷描写がかなりあります。

第13話 三人の危機

しんのすけの家

しんのすけの家に居候することになった一同、その夜、一部の女子が夕飯を作っていた。

「こまち「しんちゃん、卵取ってきてくれる？」

しんのすけ「ぶー!!ラジャー!!」

奏「デザートは私に任せて。」

アイリ「えーとピーマンピーマン・・・」

しんのすけ、タクヤ「え!?ピーマン入れるの!?!」

アイリ「う、うん・・・しんちゃんはピーマン苦手なん・・・ってタクヤ!?!」

タクヤは「しまった!?!」とばかりに慌てふためいた。

かれん「タクヤさんってピーマン苦手なの?」

タクヤ「いや・・・悪いか!?!」

ほのか、舞（諦めたわね。）

ラブ「好き嫌いはダメだよ?二人とも。」

と何かを隠すラブ、龍一はその何かを取り上げる。

龍一「じゃあお前も食べないとな、人参。」

ラブ「あう!？」

その日しんのすけの家から楽しそうな声が響きわたった。

.....

翌日

響「あれ?三人共どこ行くの?」

蒼牙、ラブ、しんのすけは出かける準備をしていた。

蒼牙「ちょっとした買い物。」

ラブ「行ってきまーす。」

しんのすけ「出発おしんこー キュウリのぬか漬け〜」

三人はサトウコノカドーに向かった。

しんのすけ「そう君、夜中トランプで負けたんだから約束だゾ?」

蒼牙、ラブ、しんのすけは夜中みんなが寝静まった後こっそりトランプでババヌキをしていた。

蒼牙「わかってるよ、えーとスーパースペースナル・・・?」

しんのすけ「違うゾ!!ハイパースペシャルギャラクシーファイナルゴールデンエクストリームキラードナスカエルステンペストブレイズセイバースーパーチョコビだゾ!!」

ラブ「長い!？」

とりあえずそのなんちゃらチョコビを買うために三人はサトウココノカドーに向かうが途中で人が倒れているのが見つかった。

しんのすけ「おっ!?!まえならえだゾ!!」

ラブ「行き倒れね。」

蒼牙「君!!大丈夫か!？」

蒼牙が倒れている者に寄り添うとその者が口を開いた。

????「助け……て……」

蒼牙「大丈夫?誰にやられたんだ!？」

????「僕……そいつに……仕返し……しなきゃ……」

ラブ「誰?誰なの?その仕返ししたい人って……」

しんのすけ「?」

そして、次の一言に三人は凍りついた。

「????」「てめえらだよ。」

三人「!?!」

すると????の体は突然巨大で異形な物になり、巨大な爪、赤い尖った目、巨大な牙、黒紫色の毛、全体的に狼のようになった。

ラブ「そんな!?!」

しんのすけ「何だお前!?!」

????はおぞましい声で答えた。

「俺はウルフルズ、貴様らを殺す。」

蒼牙「メデューサの手下か!?!」

ラブ「こうなったらやるしかないね!?!」

しんのすけ「ぶ!!ラジャー!!」

蒼牙、しんのすけはベルトを装着しラブはリンクルンを構える。

ラブ「チェインジ!!プリキュア!!ビートアップ!!」

蒼牙「変身!!」

しんのすけ「変・・・体!!」

三人はそれぞれ、ヤイバ、ピーチ、しん王になり身構える。

ウルフルズ「覚悟しろ!!」

ヤイバ「そつちがな、今日がお前の命日だ。」

ピーチ「あんたの好きにはさせない!!」

しん王「行くゾ!!」

しん王がは みずでウルフルズの足を固定する。

しん王「へっくしよおおん!!」

ウルフルズはしん王を爪で攻撃しようとするがヤイバは剣で爪を切り裂き、ピーチが顔面にラブサンシャインを打ち込む。

ピーチ「動かないね・・・」

ヤイバ「よし!!」

しん王「やったゾ!!」

しかし次の瞬間、ウルフルズは突然動きだしヤイバに噛みつき持ち上げた。

ヤイバ「なっ!ぐああああ!??」

しん王「そう君!??」

ピーチ「蒼牙さん!?!このお!!」

ピーチはウルフルズに飛び付いたがウルフルズの体の毛が2、3本
抜けそれが針となりピーチに襲いかかり2本かわすが最後の1本が
ピーチの肩に突き刺さった。

ピーチ「あああああ!?!」

ピーチは地面に打ちつけられてしまった。

しん王「ラブちゃん!?!」

ヤイバ「ぐあああああ!?!」

ヤイバの体に牙が深く食い込んでいく。

しん王「や、やめろ!?!」

しん王はしん王ソードをウルフルズに投げつけた、それが腹に突き
刺さりヤイバは何か解放されるが体中から血が流れ出していた、
ピーチは何か針を抜き肩から流れ出している血を押さえながらウ
ルフルズに飛び付いた。

ピーチ「はああああ!?!」

しん王「ラブちゃんダメだゾ!?!」

ピーチはウルフルズを殴り蹴りつけるが掴まれてしまった。

ピーチ「ぐっ、放して!?!」

すると手にどんどん力が入っていく。

ピーチ「ああああああ!?!」

しん王「オ・・・オラ、何も・・・できない・・・」

しん王は腰がぬけてしまった。

ピーチはそのまま地面に叩きつけられ再び針が飛ばされた。

ピーチ「きゃああああ!?!」

しん王「!?!」

しかし、針の餌食になったのはヤイバだった、ヤイバはピーチをかばったのだ。

ピーチ「蒼牙・・・さん・・・」

ヤイバ「あ・・・ああ・・・」

ヤイバはついに変身が解けてしまい倒れ込んだ。

しん王（そう君・・・オラ・・・オラ・・・）

ピーチはピーチロッドを取り出し渾身の力で立ち上がった。

ピーチ「許さない・・・悪いの悪いの飛んでいけ!!プリキュア!
!ラブサンシャイン・フレエエツシュ!!!!!!」

ハート型のエネルギーがウルフルズに向かって放たれた。

い浮かべてしまった、しん王は逃げ出したかった、すぐに逃げて助かりたかった、しかし「本当にそれで良いのか」、「大切な友達を見捨てるのか」と抵抗があった。

しん王「オラ・・・オラ・・・」

しん王は震えながら答えた。

ウルフルズ「？」

しん王「オラは2人をお助けしたいゾ！！！」

ウルフルズ「ははは、ガキ1人に何ができる？」

しん王「うおお！！！」

しん王はウルフルズに飛び付き突き刺していたしん王ソードを抜きウルフルズを斬りつける。

ウルフルズ「そんな攻撃で勝てると思うな！！！」

ウルフルズはしん王をなぎはらった。

しん王「おわああああ！！？くそおお！！まだまだあ！！！」

「フルチャージ！！！」

しん王はしん王ソードを手で持ちながら飛び付いた。

しん王「しん王斬り！！！」

ウルフルズ「目障りだ!!」

ウルフルズは爪でしん王ソードを砕きしん王をなぎはらった。

しん王「うわぁ!?!」

しん王は変身が解けてしまった。

ウルフルズ「馬鹿な奴だ、貴様が勝てると思ってるのか?」

しんのすけは何とか立ち上がった。

しんのすけ「オラ・・・たぶんお前に勝てない・・・」

ウルフルズ「ならば無駄な抵抗はやめて逃げたらどうだ?」

するとしんのすけは叫んだ。

しんのすけ「嫌だゾ!!!オラが逃げたらそう君やラブちゃんがどうなるかわからないゾ!!!死んじゃうかもしれないゾ!!!」

ウルフルズ「人より自分を優先したらどうだ?」

しんのすけ「お友達を助けられなくて自分の事なんてできないゾ! !アクシヨン仮面が言ってたゾ!!!お友達が沢山いればいるほど力になるって!!!」

ウルフルズ「貴様、1人で何ができる!?!」

しんのすけ「オラは1人じゃないゾ！そう君やラブちゃんや風間君や組長先生！！みんなオラのお友達だゾ！！お前の好きになんかにさせるかああああああああああああああああ！！」

その時、しんのすけの体は真っ赤に燃え上がった。

つづく

第13話 三人の危機（後書き）

次回、しんのすけに新たな力が!!

第14話 SHIN=MEN(前書き)

5人揃って!!

第14話 SHIN= MEN

ウルフルズ「な、何だ!？」

ウルフルズが驚くのも無理はない、しんのすけの体が突如炎に包まれたからだ。

ピーチ（え……？）

蒼牙（しん……ちゃん？）

しんのすけ「オラはそう君とラブちゃんを……お守りするゾオオオオオオオオ!！」

炎が払われると同時にしんのすけの姿は炎のような形をした姿になった。

ウルフルズ「そっ、その姿は!？」

ピーチ（しん王……じゃない？）

蒼牙（何だ……まるで炎のような……）

しんのすけ「ファイヤーSHIN= MEN!!ゴウ!!」

そう、しんのすけはパワーアップを遂げてファイヤーSHIN= MENゴウへとなったのだ。

ウルフルズ「SHIN= MENだと?姿が変わったからなんだ、俺

には勝てない!!」

すると

「1人じゃないよ!!」

ウルフルズ「何!?!」

すると空からしんのすけに類似した姿の4人の少年達が降りてきた。

「ウィンドウSHINEMEN!!ヒュー!!」

「ウォーターSHINEMEN!!スイ!!」

「プラントSHINEMEN!!ニョキ!!」

「アイアンSHINEMEN!!カン」

ゴウ「み、みんな!!」

「5人揃って!!SHINEMEN!!」

そこにはついに5人のSHINEMENが揃った。

ニョキ「みんな!!行くYO!!」

スイ「みんなを傷つける奴は許さないスイ!!」

ヒュー「俺達の力で倒すんだ!!」

カン「行くぜ!!」

ゴウ「ぶ!!ラジャー!!」

5人はそれぞれ散らばり攻撃を仕掛ける、まずヒューは突風を起す。

ウルフルズ「何だ、こんな風で何をやる気だ？」

ヒュー「こっするんだ!!」

するとウルフルズの足下にスイが入り込み水を発した。

ウルフルズ「ぬお!？」

水で滑ったウルフルズは突風により倒れ込んだ。

ウルフルズ「おのれ・・・」

するとカンが飛び上がった。

カン「行くぜ!!」

カンは鉄球に変形しウルフルズの腹に落ちた。

ウルフルズ「ぐほっ!？」

カンは元の姿に戻りウルフルズと距離をとる。

ウルフルズ「調子にの・・・!？」

立ち上がるうとするウルフルズをニヨキが植物のつたで固定する。

ニヨキ「やらせないYO!」

ウルフルズ「ぐお!!」

つたでウルフルズを締め上げる、そしてゴウがウルフルズの真上に飛び上がった。

ゴウ「ファイヤアア!!」

ゴウは口から炎を発してウルフルズを苦しめる。

ウルフルズ「ぬああ!？おのれえええ!!」

ウルフルズは渾身の力でSHINEMENを吹き飛ばした。

「おわあああ!？」

ウルフルズ「好き勝手やりやがって!!シネ!!」

ウルフルズは針を数百本動けない蒼牙とピーチに向けて放った。

ゴウ「そう君!ラブちゃん!!」

ウルフルズ「忘れたとも思ってたか!？」

蒼牙(まずい・・・死ぬ!?)

ピーチ（くっ……動けない……）

すると

カン「させないぜ!!」

カンは巨大な鉄の壁に変形し蒼牙とピーチの前に立ち針を全て防いだ。

ウルフルズ「ば、バカな!!」

蒼牙「おお……」

カン「もう傷つけさせないぜ!!」

ピーチ「ありが……とう。」

SHINEMENは1カ所に集まった。

ゴウ「みんな!!合体技だゾ!!」

「おう!!」

5人はスクラムを組み高く飛び上がった。

ゴウ「SHI!!」

ヒュー「N!!」

スイ「M!!」

ニヨキ「E!!」

カン「M!!」

SHINIMEN「必殺！SHINIMEN腕組みアタアアック！
！」

SINIMEN達は光輝きながらウルフルズに突進する。

ウルフルズ「俺が負けるはずがない!!」

ウルフルズは両手でSHINIMENを受け止める。

ウルフルズ「うぐうう!!」

すると

SHINIMEN「アーンド!!SHINIMENヒーリング!!」

すると緑の光の粒が蒼牙とピーチに降り注ぎ2人の傷を全て治したのだ。

蒼牙「これは!?!」

ピーチ「力が・・・溢れる!!」

蒼牙は変身し両足に雷をため、ピーチと共に飛び上がった。

ヤイバ「ヤイバツインキック!!」

ピーチ「プリキュア！！ラブサンシャインフレッシュー！！」

2人の力がウルフルズを襲った。

ウルフルズ「ぐあああああ！？」

ウルフルズは爆散した。

.....

ゴウ「ふう、疲れたゾ。」

蒼牙「あれ？灰色になった。」

スイ「ゴウは落ち着くと灰色になるんだスイ。」

ラブ「へ〜・・・SHINEMENだっけ？助けてくれてありがとう。」

カン「礼にはおよばないぜ。」

ニヨキ「僕達はもう帰ってしまうけど、この世界のゴウは大丈夫みたいだYO。」

ゴウはしんのすけの姿になった。

しんのすけ「この世界？」

ヒュー「いや、なんでもない。」

するとしんのすけが

しんのすけ「ねえねえ、どうやってたらまたSHINEMENになれるの？」

カンは赤いペンダントを渡した。

ラブ「これは？」

カン「SHINEMENダント、これを胸につけて『ファイヤー!!』お姉さん大好き!!』って叫べば変身できる。」

かけ声に蒼牙とラブはずっこけた。

蒼牙「ま、まあ良いや、ありがとう。」

しんのすけ「またね。」

スイ「いつでも助けに来るスイ。」

ヒュー「じゃあさらばだ!!」

SHINEMENの4人は空高く飛んで行った。

ラブ「それにしても予定がだいぶずれちゃったね。」

しんのすけ「でもハイパースペシャルギャラクシーファイナルゴールデンエクストリームキラースカエルステンペストブレイズセイバースーパーチョコビは約束だゾ？」

蒼牙「うっ！？仕方ない、行くか。」

ラブ「あはは！！」

しんのすけ「わーいわーい！！」

うじく

第14話 SHIN「MEN」(後書き)

次回、マックスハートと龍一が主人公のお話

第15話 銀行強盗

龍一「いやあ、うまかったな、あのレストラン。」

なぎさ「本当!」

ほのか「コスプレもしててね。」

ひかり「また行きましようクスクシエ。」

.....

アंक「言つとくがオーズはでないからなあ!」

.....

そんなこんなで龍一にご馳走になったマックスハート組、その帰り

龍一「あ、やべ金もう無いや。」

ひかり「大丈夫ですか?」

ほのか「そういえば近くに銀行がありましたよ。」

龍一「そうか、ちよっくら行ってくるか。」

龍一達は銀行に向かった。

.....

龍一「暗証番号見るなよ？」

なぎさ「みつ、見ませんよ！！何言ってるんですか!？」

ほのか「なぎさならやりかねないかも。」

ひかり「たしかに・・・」

なぎさ「私ってどういう存在!？」

そこに入り口から3人のマスク、サングラス、帽子、厚手のコートを着た男達がやってきた。

男「おい。」

銀行員「は、はい？」

すると男達はハンドガンを取り出し銀行員に向けた。

男「金出せゴルア!!」

銀行員「きゃあ!？」

龍一「なっ、何だ!？」

ほのか「銀行強盗よ!？」

ひかり「逃げましょう!！」

4人は出口に向かうがいきなりもう1人の男が押し入ってきた。

男「逃がさねえよ。」

龍一「げっ!？」

ひかり「私達……」

ほのか「人……質？」

なぎさ「ありえない……」

……

一方しんのすけの家

蒼牙「遅いな、あいつら。」

ラブ「すぐ帰るって言ったのに。」

しんのすけがテレビをつけるとニュースがはいつていた。

キャスター「ええ、只今春日部銀行で銀行強盗が押し入っています

!!!」

かれん「銀行強盗?物騒ねえ。」

奏「外にでない方がよいね。」

するとカメラが外からズームで銀行内を映し出した。

なぎさ「ただでさえ人質になってるのに・・・」

龍一「何でモデルガン向けてる奴相手に怯えるんだよ。」

ひかり「えっ？」

龍一の一言に3人は驚愕した。

なぎさ「な、何でそんな事わかるんですか!？」

龍一「簡単な話だ、あいつら見てみる。」

銀行強盗は4人は全員体格の良い男であり、ハンドガンを持っていた。

ほのか「？」

なぎさ「全然わかんない。」

龍一「見るのは人じゃない、拳銃だ。」

拳銃には円の中に星が書かれたマークが入っていた。

ひかり「何でしょう、あのマークは・・・」

龍一「あれが証拠、あいつらが使ってるのはサムライエッジと呼ばれるハンドガンだ。」

ほのか「サムライエッジ？」

龍一「ああ、ゲームに出てくる拳銃だ、ベレッタとかならともかく、サムライエッジなんて拳銃は存在しない。」

なぎさ「じゃあ空手の達人の龍一さんなら!」

龍一「いや、モデルガンといえど目に当たれば失明しちゃう、それに怪我もしないとは限らない。」

ひかり「今は様子を見た方が良いでしょうね。」

男「お前ら静かにしろ!」

男がハンドガンを向けて脅す。

.....

のぞみ「どどどどどうしよう!?!龍一さん達が人質にいい!?!」

家中走りまわるのぞみ、するとタクヤが

タクヤ「おい、さっきも言ったようにあれはモデルガンだ。」

ゆり「もしもの事がない限り死なないから安心しなさい。」

のぞみ「で、でも」(汗)

するとしんのすけが

しんのすけ「まだかなあ?」

かれん「どうしたの？しんちゃん。」

蒼牙「誰か来るのか？」

すると

ピンポーン！！

しんのすけ「おお！！来たゾ！！！」

来たのは女性だった、それを見たゆりは

ゆり「ダ、ダークプリキュア！？」

そう、ダークプリキュアだった。

ダークプリキュア「つ、月影ゆり！？何故お前が！？」

しんのすけ「お？声がオケイおばさんにそっくりだゾ。」

蒼牙「だれ？」

つぼみ「ダークプリキュアです！？でも何で！？」

ゆり「あの時消えたはずじゃ・・・」

ダークプリキュア「いや、私はただいきなり電話がかかってきたからでたらこの子供の声が・・・」

タクヤ（どこの電話だよ!?!）

そしてしんのすけはダークプリキュアにあるかみ切れを渡す。

しんのすけ「オラちよつと着替えてくるから出てきたら読んで!?!」

ダークプリキュア「あ、ああ。」

えりか「性格丸くなったね。」（小声）

いつき「まあ和解に近かったからね。」（小声）

10分後・・・

扉の向こうに隠れるしんのすけ。

しんのすけ「行くゾ!!とう!!」

ダークプリキュア「え、えーと・・・・・・・・・・・・・・・・どんな事件も素早く解決!!見た目は子供も!!頭脳も子供!!」

しんのすけ「お りも子供」

ダークプリキュア「その名は!!名探偵コシン!!」

しんのすけは髪型が少し跳ね上がり、赤い蝶ネクタイ、青い上着、腕時計、メガネをかけた姿で現れた。

一同「中の人繋がりがっ!?!」

しんのすけ「ポチツとな。」

しんのすけは腕時計から麻酔針を飛ばし響に当てた。

響「ふにゃ〜・・・」

しんのすけは蝶ネクタイを口元に持っていき、するとしんのすけの
声が響とそっくりになった。

しんのすけ「奏！ケーキ作りなさい！！」

ゆり「やめなさい。」

ゆりはしんのすけの頭をポンと叩き行動をやめさせた。

しんのすけ「んも〜、これからが良い所なのに〜。」

響「むにゃむにゃ、奏・・・ケーキ・・・作りなさい。」

タクヤ「本音がよっ!?!」

ゆり「もう良いわ、ダークプリキュアお疲れ様。」

ダークプリキュア「あ、ああ・・・じゃあ帰る・・・答えは〓（い
つも）君だから〜・・・」

ダークプリキュアはそう歌いながら去って行った。

奏「しんちゃん、何でダークプリキュアを呼んだの？」

しんのすけ「なんででしょう。」

.....

龍一「・・・ああ、そういう事か。」

ほのか「・・・あ、そうか。」

銀行では2人は何かに気づいた。

なぎさ「ど、どうしたの!？」

ひかり「また何か？」

ほのか「いや、でも・・・」

龍一「まあ、見てな。」

龍一は立ち上がって男に近づく。

男「おい!!何を勝手な真似を・・・」

龍一は針を取り出して男のコートに突き刺した。

男「あっ!？」

他の人質「い、今のうちに逃げろ!!」

龍一達以外の人質は逃げてしまった。

龍一「おいおい、銀行員まで逃げたよ。」

男の体はみるみるしぼんでいく。

ほのか「やっぱり。」

男「げ、バレた。」

男「はあ、もうやめよう。」

4人の男はコートに穴をあける、すると徐々にしぼんでいく。

なぎさ「ええ！？空気で筋肉みたいに見せてたの！？」

ひかり「わからなかった。」

そう、銀行強盗達はコートに空気を入れて膨らませて体格を良く見せていた。

龍一「じゃ、事情聴取だな。」

つづく

第15話 銀行強盗（後書き）

ダークプリキュア「何で呼ぶ必要があるんだ。」

コナン「声と同じだから。」

ミトス「そうそう。」

オケイ「まあしんのすけらしいな。」

乱太郎「色々繋がりがあるんだよ。」

タイキ「そういう事。」

ダークプリキュア「・・・まあ良いや。」

第16話 金も命も大事にしる！！

春日部銀行

キャスター「今、銀行内では人質4人と男4人が話しています、説得でもしているのでしょうか？」

.....

龍一「まずは名前だな。」

男達は帽子、サングラス、マスクをとりモデルガンをすてる。

「俺一郎。」

「僕二郎。」

「俺三郎。」

「俺四郎。」

なぎさ「うわ！？そっくり！？」

ほのか「4つ子ね。」

ひかり「あなた達はどうして銀行強盗を？」

一郎が答えた。

一郎「実は俺達・・・おつかあを助けたかったんだ。」

龍一「母親を？」

次に二郎

二郎「うん、僕達のおつかあは子宮癌なんだ。」

三郎「それで助けるために金が必要になってね。」

なぎさ「それはまた・・・」

ほのか「それでいくら必要何ですか？」

そして四郎

四郎「五百万だ。」

ひかり「ご、五百万・・・」

龍一「それで？」

二郎「僕達必死に働いたんだ!!」

一郎「一週間あわせても睡眠時間が10時間に満たないくらいな。」

なぎさ「きつい・・・」

一郎「それでようやく五百万貯まった。」

龍一「じゃあ何故こんな事を？」

すると三郎が急に熱くなった。

三郎「あいつだよ！！あいつが俺達の思いを踏みにじったんだよ！」

四郎「落ち着け！！三郎！！」

四郎が三郎を押さえつけなんとか落ち着かせる。

ひかり「何が・・・あつたんですか？」

一郎はため息をつきながら答えた。

一郎「五百万貯まったから早速病気にとんだよ、そしたら突然・・・」

・・・

一郎「何だあんたは？」

謎の男「いや、えらく大金持ってますね。」

三郎「だから何だよ。」

謎の男「いえいえ、実は今すぐこの書類にサインすれば我々が勢力を尽くし世界の五本の指に入る病院を手配します。」

四郎「本当か？」

謎の男「はい、手配料は五百万ですが・・・手配したあとはこちらが負担いたします。」

一郎「・・・・・・・・」

だけどその一週間後!!!

ニユースキャスター「えー、たった今、容疑者確保しました!!!詐欺容疑で確保しました!!!」

三郎「い、一郎!!!」

一郎「なっ・・・・・・・・あいつ!?!」

ニユースキャスター「容疑者の証言によると今までに騙し取ったお金は全て麻薬につき込んだとの事です!!!」

「!!!!!!」

・・・・・・・・

龍一「なるほどな・・・」

なぎさ「怪しいとは思わなかったんですか!?!」

一郎「思ったさ、そんなうまい話あるわけないって・・・・・・・・だけど・・・・・・・・」

ほのか「心理状態を利用したのよ。」

ひかり「母親を助けたい・・・そんな思いでいっぱいな時にそんな事を言われたら人間は断れないんです。」

二郎「そして3日前におつかあは・・・死んじゃった・・・」

龍一達は何も言えなかった。

一郎「だから・・・だから・・・」

すると龍一は

龍一「復讐か？」

ひかり「えっ？」

二郎「もうそれしか・・・心に残らなかった。」

すると銀行の金庫からジャラジャラと音がした。

ほのか「？」

そして声が響いた。

「金だ・・・欲しいんだろう？」

龍一「だ、誰だ!？」

なぎさ「ああ見て!」

金庫からお札や小銭が流れ出し人のような形になった。

三郎「な、何だ!?!」

龍一「メデューサか!?!」

「金だ・・・欲しいんだろう?好きなだけ受け取れ・・・」

すると一郎達は怪物に近寄り、龍一達が必死に止める。

龍一「何やってんだ!?!」

三郎「金!!--金さえあれば復讐できるんだ!!--」

四郎「あいつだけ!!--あいつだけは許せねえ!!--」

龍一は4人を投げ飛ばした。

一郎「うわあ!?!」

龍一「たくつ、行くぞなぎさ!!--」

なぎさ「はい!!--ほのか!!--ひかり!!--行くよ!!--」

ほのか「うん!!--」

ひかり「はい!!--」

龍一はリングをベルトに取り付けた。

龍一「変身!!」

なぎさとほのかは手を繋ぎ手を掲げる。

「デュアル・オーロラウェーブ!!」

ひかり「ルミナス!! シャイニングストリーム!!」

3人は光に包まれ姿を変える、龍一は炎に包まれ姿を変える。

「光の使者!! キュアブラック!!」

「光の使者!! キュアホワイト!!」

「2人はプリキュア!」

ホワイト「邪悪な力の僕達よ!!」

ブラック「とつととお家に帰りなさい!!」

ルミナス「輝く命、シャイニールミナス!! 光の心と光の意思!!
全てを一つにするために!!」

ケン「さあて、行くぜ!!」

一郎達は驚きを隠せないでいた。

一郎「まじかよ・・・」

四郎「ええ・・・」

ケン「はあ!!」

ケンは怪物を殴りつけるが怪物は腕から金を飛ばし妨害をする。

ケン「うわ!? 金がよ!?!」

ルミナス「ルミナス!! ハーティエルアンクシオン!!」

ルミナスは怪物の動きを止めるが怪物が放った金がルミナスを襲う。

ルミナス「きゃあ!?!」

ブラック「ルミナス!?!」

ホワイト「離れたお金も体の一部って事ね。」

ケン「厄介な奴だ。」

すると

一郎「金・・・金をくれ!!」

ケン「は、はあ?」

三郎「金で奴に復讐するんだ!!」

ブラック「で、でも・・・」

二郎「復讐するんだ!! しないとイケないんだ!!」

四郎「そいつを倒すな!!」

ホワイト「どうすれば・・・」

ルミナス「危ない!？」

金の怪物はブラック達に札をカッターのように飛ばし攻撃する、ブラック達の傷口からは血が流れる。

ブラック「ぐっ・・・いったく・・・」

ホワイト「無闇に近づけないわ・・・」

ルミナス「どうすれば・・・」

金の怪物はケンにマシンガンのように金を飛ばし吹き飛ばし壁に叩きつけた。

ケン「うわあ!？」

そして10円玉を集めた拳でケンの顔を殴りつけた、銅の塊である10円玉で殴りつけられたケンの仮面は一部が砕けた、そこから頭から血を出す龍一の顔が見えた。

ケン「ぐっ・・・」

一郎「そうだ!!金だ!!俺達に金を!!」

二郎「復讐するんだ!!」

金の怪物が一郎達に近づく。

ブラック「危ない!!」

ブラックが金の怪物に飛び込んだ。

ホワイト「ブラック!!」

ルミナス「ダメです!!」

ブラック「だああああ!!」

しかし金の怪物は大量の金塊を出現させブラックに落下させた、ブラックは金塊に押し潰されてしまった。

ホワイト「ブラック!!」

金塊の隙間からブラックの手が見える、まだ生きているが隙間から血も流れる。

ルミナス「このままじゃ・・・」

三郎「復讐!!」

四郎「あいつに復讐を!!」

すると

「いい加減にしやがれえええ!!」

ケンは金の怪物を蹴り飛ばした、そして金塊に埋まっているブラックを起こす。

ケン「大丈夫か？」

ブラック「なん・・・とか・・・」

ケンは一郎達に叫んだ。

ケン「てめえら・・・いつまで復讐復讐ってほざくつもりだ!？」

二郎「何でだよ!?!あいつがおつかあを殺したんだ!！」

四郎「復讐して何が悪い!?!」

ケン「殺してどうなる!?!ただ殺したいって自分達の欲望満たして終わりか!?!一体てめえらは誰のためにそいつを殺すつもりだ!?!」

三郎「誰って・・・おつかあのためだろ!！」

ケン「てめえらのおつかあは人殺して喜ぶ奴だったのかあ!?!」

一郎「!?!」

ブラック、ホワイト、ルミナスはケンの迫力にも言えなかった。

ケン「てめえらが出来んのは、死んだおつかあの方まで精一杯頑張っ
て生きる事なんじゃねえのか!?!それなのにてめえらしか望まな
い奴に復讐してどうすんだよおお!?!」

ニュースキヤスター「只今！銀行強盗が出頭しました！！銀行強盗が出頭しました！！」

龍一「ふう、一見落着だな。」

龍一達はしんのすけの家に帰っている途中だった。

なぎさ「痛た・・・」

ほか「無理するからよ？」

ひかり「それにしてもあの三人大丈夫でしょうか？」

龍一「大丈夫だよ、多分な。」

・・・

一郎「・・・誰のために復讐か・・・」

二郎「考えた事もなかったね。」

三郎「もうやめよう、復讐なんてさ。」

四郎「だな、自由になったらおつかあの好きないなり寿司供えよう。」

一郎達は龍一のおかげで改心、そして龍一の証言により罪も軽くなつた。

.....

しんのすけ「龍ちゃん達おかえり」

アイリ「テレビ見たわよ、大変だったわね。」

蒼牙「しかもボロボロじゃないか。」

龍一「大丈夫だよこのくらい・・・はあ、疲れた。」

響「なぎさ達大丈夫？」

なぎさ「うん、なんとか。」

ほのか「今日は休もう。」

ひかり「そうですね。」

.....

一方、メデューサアジト

アバタ「やはり邪魔になるな、プリキュアに仮面ライダー、そして野原しんのすけ・・・」

するとモニターに他のメデューサアジトのリーダーが映し出された。

アバタ「何だよビョーザ。」

ビョーザ「先ほど本部のメルサ様から連絡があった、アジトを一つ

にし戦力を集結させると。』

アバター「アジトをか、では早速ここを消滅させて俺がそっち行く。」

ビョーザ『わかった、だがどうやって来るつもりだ？』

アバター「プリキュアから奪ったアカルンでな、メデューサの技術でリンクルンと同じ物を作った、さすがに変身や世界を行き来する事は出来ないがある程度の所ならワープできる。」

ビョーザ『わかった。』

一つのメデューサアジトが消滅した、しかしそれは強敵が現れる前兆でもあった。

つづく

第17話 新たな敵

ある日、響は昼寝をしていた。

響「ぐ〜・・・すぴ〜・・・」

とそこにこっそり近づくアイリ

奏「アイリさん、ちょっと手伝っ・・・」

アイリ「しっ!」

奏「?」

そしてアイリは寝ている響の鼻をつまんだ。

奏「ふふっ!」

響「ぐ・・・んん!?・・・ぶふお!?」

響は苦しさに飛び起きた、それを見て爆笑するアイリと奏。

響「ひっど〜い、せっかく気持ちよく寝てたのに・・・」

奏「アハハハハハ! ぶふおって!」

アイリ「アハハハハハ!」

するとアイリの後ろからしんのすけが話しかけた。

アイリ「アハハ、何？しん……」

しんのすけ「ゾンビマーン！ー！」

しんのすけがリアルなゾンビのマスクをかぶっていた、しんのすけの家に雪崩が起きるかと思うくらいの悲鳴が響いた。

蒼牙「何だ何だ！？」

タクヤ「何だよ昼間から！ー！」

舞「わっ！？ゾンビ！？」

のぞみ「かわいい〜」

美希「本当に！？」

いつき「うわぁ、リアル……」

アイリ「はあはあ、し、死ぬかと思った。」

奏「びつくりした〜。」

そしてしんのすけは

しんのすけ「ねえねえアイリちゃん一緒にこれ行こう〜。」

しんのすけはチラシを見せる。

アイリ「アクション仮面オーケストラ？」

しんのすけ「うん、アクション仮面に流れる音楽を聞かせてくれて、そんでもってアクション仮面のショーもやってくれるんだ」

アイリ「へえ、明日か・・・良いよ。」

しんのすけ「うわぁいー!!」

蒼牙（しんちゃんメデューサにさらわれてる家族の事忘れてる？）

ラブ（さすがはしんちゃん。）

すると

響「しんちゃん、あのさ・・・」

しんのすけ「お？響ちゃんも来る？」

響「良い・・・かな？」

しんのすけ「全然大丈夫だゾ！！奏ちゃんは？」

奏「わ、私！？え〜と・・・音楽好きだし、行っても大丈夫？」

しんのすけ「大丈夫大丈夫！！あっは〜ん 綺麗なお姉さんに囲まれてアクション仮面に会えるなんてオラ、し・あ・わ・せ」

龍一「たまに思うんだ、こいつ五歳児じゃねえなって。」

タクヤ「同感だ。」

すると

蒼牙「俺も行かせて！！（ひまわりちゃんのお世話を変わる絶好のチャンス！！）」

蒼牙はしんのすけの家に来た時からずっとひまわりのお世話係なのだ、今も抱っこしてる最中である。

しんのすけ「え〜ダメだゾ、そう君はひまわりのお世話があるし〜、ひまわりを見てみなよ。」

蒼牙「え？」

ひまわり「た〜」

ひまわりの目からは愛らしく憎めないほどの輝かしい眼差し光線が放たれていた。

蒼牙「うっ！？わ、わかったよ。（ダメだ、あの眼差しには逆らえない。）」

かれん「見事に手懐けたわね（汗）。」

えりか「この兄妹って一体・・・（汗）」

.....

翌日

アイリ達はアクション仮面オーケストラの会場に行った。

、

しんのすけ「アクションか・め・ん」

奏「し、しんちゃん!! 静かに!! ああごめんなさい。」

アイリ「はいこれ。」

アイリはしんのすけにチヨコビを渡した。

しんのすけ「おお、これは またで噂のオンドウルチヨコビ!!」

(小声)

響「ちまた、ね。」

そしてアクション仮面のショーが始まり会場の子供が騒ぎ始めた。

「アクション仮めええええん!!」

アイリ「す、凄い人気ね(汗)」

響「さすがはアクション仮面・・・」

奏「しんちゃん目が輝いてる。」

そしてショーが終わりアクション仮面との握手会。

アクション仮面「来てくれてありがとう・・・ああしんのすけ君、しばらく。」

しんのすけ「また会えて嬉しいゾ!！」

アイリ「えっ!? スーツアクターとかがやってるやつじゃないの!？」

響「話によるとアクション仮面は戦いながらショーもやるんだって。」

奏「ヒーローも大変ね。」

するといきなりステージが爆破した。

「うわあああ!？」

アクション仮面「みんな!! 逃げるんだ!!」

しんのすけ「なっ、何!？」

響「見て!！」

煙から何かが飛び出した、それはバツタのような見た目にメタリックな緑の装甲をし赤い複眼をした謎の人物だった。

奏「蒼牙さん!？」

アイリ「違うわ、何!？」

その人物は緑色のベルトをしていた、そしてしゃべりだした。

「???」お前達がメデューサの邪魔をする物が。」

アクション仮面「お前は何だ!？」

しんのすけ「正体を言え!！」

「???」ふん、良いだろう・・・俺は・・・」

「???」は右手を胸の所に持ってくる。

「???」仮面ライダー・・・バレン。」

一同は驚愕した。

アイリ「か・・・仮面ライダー・・・」

響「バレン!？」

奏「何でメデューサに仮面ライダーが!？」

アクション仮面「お前はメデューサの手先か!？」

バレン「でなければこんな事はしない。」

しんのすけ「許さないゾ!！」

アイリ「みんな!!--行くわよ!!--」

一同は変身アイテムを取り出す。

しんのすけ「変・・・体!!」

アイリ「プリキュア!! スキャニング・チェンジ!!」

響・奏「レッツプレイ!! プリキュア・モジュレーション!!」

一同は変身した。

しん王「オラ!! 参上!!」

デイリー「全ての光の集大成!! キュアデイリー!!」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ!! キュアメロディー!!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!! キュアリズム!!」

「届け!! 二人の組曲!! スイートプリキュア!!」

スイートプリキュアはバレンに飛びかかる。

メロディー「行くよリズム!!」

リズム「うん!!」

「せーの!!」

二人合わせてパンチを繰り出したが両手で受け止められた。

バレン「こんなものか？」

ディリー「私を忘れないでよー!!」

ディリーは上空から攻撃を仕掛ける。

「アタックライド!!フラッシュ!!」

ディリーはディリーロッドから強烈な光を放つ。

バレン「くっ!?!」

バレンが光に戸惑っている間にスイートプリキュアはバレンの溝に蹴りを入れ後退させる。

バレン「ふふっ、やるな。」

アクション仮面「行くぞしんのすけ君!!」

しん王「ぶ!!ラジャー!!」

アクション仮面としん王は遠距離攻撃をはかる。

アクション仮面「アクションビームボール!!」

「フルチャージ!!」

しん王のベルトにエネルギーがたまる。

しん王「しん王ビーム!!」

二人は必殺技を放つ、バレンに直撃し土煙が上がった。

メロディー「やった!!」

しかし突如土煙から炎の槍が飛び出した。

メロディー「うわっ!?!」

間一髪メロディーはかわしたが腕にかすってしまいわずか火傷を負った。

リズム「メロディー!!」

メロディー「大丈夫!!でも何!?!」

アクション仮面「なっ!?!」

土煙の中からは赤い姿になったバレンが現れた、ベルトが赤い色に変わっていた。

バレン「所詮はこの程度か。」

しん王「色が変わったゾ!?!」

デイリー「どういう事!?!」

するとしん王は

しん王「お姉さん大好きい!!」

しん王はSINERMENゴウに変わった。

ゴウ「ファイヤーSINERMENゴウ!!」

アクション仮面「おお!?!しんのすけ君の新しい力か!？」

ゴウは口から炎を放った、するとバレンは赤いベルトから青いベルトに巻き変えた。

「blue・color」

ベルトからサウンドが流れバレンは赤から青に変わった。

リズム「まっ、また変わった!？」

バレン「はっ!!」

バレンは手から大量の水を放ち炎を打ち消した。

ゴウ「おお!?!今度は青い!？」

アクション仮面「アクションビーム!!」

アクション仮面はアクションビームを放つ、するとまたバレンは青いベルトを黄色のベルトに巻き変えた。

「yellow・color」

デイリー「今度は黄色!？」

バレンは雷を放ちアクションビームを打ち消した、そしてそのまま一同に雷を浴びせた。

アクション仮面「うわあ!？」

しん王「わあ!？」

アイリ「きゅあ!？」

スイート「あああ!？」

一同は膝をつくがデイリーはなんとか立ち上がってカードを使った。

「ファイナル・アタックライド!! デイデイデイデイリー!!」

デイリー「プリキュア!! デイリーエクストリーム!!」

デイリーロッドからマゼンタ色の波動が放たれた。

デイリー「はあああ!!」

バレン「はあ、無駄な。」

バレンは黄色のベルトを紫色のベルトに変えた。

「purple・color」

バレンは紫色に変わった。

メロディー「何かやるよ!?!」

リズム「止めなきゃ!?!」

スイート「プリキュア! パッションナートハーモニー!」

スイートプリキュアから音楽のエネルギーが放たれた。

デイリー（緑は通常、赤は炎・・・）

メロディー（青は水、黄色は雷・・・）

リズム（紫色って・・・何!?!）

バレンは拳を突き出し紫色の煙のような物を出した。

デイリー「決まった!?!」

しかしデイリーは急にめまいをおこし体のバランスを崩しデイリーエクストリームの軌道を狂わせてしまった。

デイリー「うう・・・な、何?」

メロディーとリズムも同じ状況だった。

メロディー「く・・・苦しい・・・」

リズム「意識・・・が・・・」

アクション仮面「プリキュア!!ぐう!?!」

ゴウ「頭が・・・グラグラするぞぉ・・・」

ついに全員意識を失ってしまった。

バレン「安心しろ、加減はしておいた。」

バレンはそういうとその場から去った。

・・・

メデューサーアジト

バレン「今戻った。」

ビョーザ「どうだ?着心地は?」

バレン「微妙だな、まだ未完成だからか?」

アバタ「まあもう少しだ、我慢してくれ。」

バレンはベルトを外し本来の姿に戻った。

アバタ「しかし良く世界征服に協力するようになったな、野原ひろしよ・・・まあ洗脳すれば当然か。」

そう、しんのすけの父親である野原ひろしはメデューサーに洗脳され仮面ライダーバレンへと変身していたのだ。

ひろし「全てはメデューサのために・・・」

しかし物陰からある青年が隠れていた。

???（なるほどね・・・さすがはメデューサだ、でも勝手な真似は・・・させねえからな、まずは蒼牙先輩と龍一さんに会いに行かないとな。」

青年はアジトを抜け出しバイクに乗り走りだそうとしたが外のメデューサ怪人に見つかってしまった。

青年「おっと・・・」

怪人「何者だ！？きさ・・・」

しかし気がつけば怪人は姿が変わった青年の持つ双剣で切り裂かれていた。

青年「冥途の土産に教えてやるよ・・・セツガだ。」

怪人「セツ・・・ガ？」

怪人は消滅した、セツガは青年の姿に戻りバイクに乗る。

青年「待っててよ先輩、今超優秀な後輩が行くからさ。」

201

第17話 新たな敵（後書き）

すみません作者さん、セツガ勝手に出しちゃいました!!

第18話 デイリーの力

仮面ライダーバレンの圧倒的な力の前に敗北したスイートプリキュア、デイリー、しんのすけ、アクション仮面、一同は偶然近くを通った蒼牙と龍一に見つけられしんのすけの家で手当てを受けていた。

響「痛いっ!?!」

祈里「ああ!!じつとしてて!!」

アクション仮面「すまない、ケガの手当てを。」

かれん「気にしないでください。」

龍一が寝室から出てきた。

蒼牙「奏ちゃんとアイリは?」

龍一「命にべつじょうはないがまだ気を失ってる、今のぞみとほのかが見てくれてる。」

しんのすけ「仮面ライダーのれん、強かったゾ。」

響「バレンね。」

ゆり「仮面ライダーバレン、強敵ね。」

つぼみ「でも一体何者なんでしょう?」

するとしんのすけが

しんのすけ「あいつの声、聞いた事があるゾ。」

一同は驚愕した。

せつな「誰だったの？」

しんのすけ「そこまではわからないゾ。」

アクション仮面「しんのすけ君の関係者？」

.....

一方メデューサアジトでは・・・

怪人「うるさいぞおばさん！！静かに・・・」

「うるさいわね！！おばさんじゃなくて野原みさえよ！！」

しんのすけの母親・野原みさえが暴れていた。

みさえ「あんた人の夫悪人にしてんじやないわよ！！それにしんのすけが変身して戦ってるって聞いたし一緒に戦ってる人もいるって聞いたし！！あんたらなんかボコボコよ！？わかったら早くこのチンケな牢屋から出しなさい！！うちはまだローンが20年残ってんだからね！？無駄になったらどうなるかわかってんの！？それにあんたら・・・」

怪人は延々とみさえの説教を受けてしまっていた。

怪人（早く交代の時間こないかな？・・・）

・・・

しんのすけの家では奏とアイリが目覚めました。

奏「あれ・・・」

アイリ「私達・・・」

のぞみ「ああ！！良かったよ、目を覚まして。」

ほのか「まだじつとしてて。」

アイリ「う・・・うん、みんなは？」

のぞみ「みんなは大丈夫だよ、安心して。」

奏「良かった。」

するとアイリが立ち上がる。

ほのか「アイリさん！？まだダメですよ！！」

アイリ「大丈夫・・・ちょっとやりたい事があるから。」

奏も立ち上がった。

奏「私も行きます。」

のぞみ「ええ！？奏ちゃんも!？」

すると青年が部屋に入ってきた。

ほのか「あれ、あなたは？」

青年「アクション仮面だよ、この姿では郷剛太郎だよ。」

アイリ「変身を解いたの？」

剛太郎「ああ、力を温存したいからね。」

のぞみ「それで剛太郎さんどうしたの？」

剛太郎は座り込み話し始めた。

剛太郎「仮面ライダーバレン・・・先ほどしんのすけ君達と話したんだが、もしかしたらしんのすけのお父さんかもしれないんだ。」

4人は驚愕した、無論先ほど話した一同も話した時驚愕したのだ。

のぞみ「しんちゃんの・・・お父さん!？」

剛太郎「声、喋り方、とても似ていたらしい。」

ほのか「・・・ひどい。」

アイリ「そういえばさっき力を温存って言ってたけど・・・バレンと戦いに行くの?」

剛太郎は頷いた。

アイリ「私も行く!!」

奏「私も!!」

のぞみ「ダメだよ!! 安静にしてないと・・・」

アイリ「負けたままは気がすまないの。」

奏「私も。」

剛太郎「響君としんのすけ君も同じ事を言っていたよ。」

アイリ「決まりね。」

すると響、しんのすけも部屋に入ってきた。

響「それでいつ行くの?」

しんのすけ「オラは早く父ちゃんをお助けしたいゾ!!」

剛太郎は答えた。

剛太郎「明日にしよう、今日ではまだ準備が未熟すぎる。」

奏「わかりました。」

アイリ「じゃあ今日はゆっくり休みましょう。」

しんのすけ「アクション仮面も今日は泊まっていきなよ。」

剛太郎「わかった、そうさせてもらうよ。」

.....

その夜、5人は頭脳派であるほか、舞、かれん、祈里、ゆりと話し合っていた。

ほか「要するにバレンはベルトを巻き変えて様々な能力を使うって事ですか？」

アイリ「ええ、まったく対応出来なかった。」

ゆり「緑は通常つまり身体強化、赤は炎・・・」

舞「青が水で黄色が雷って事だね。」

かれん「たしか4人はたしか紫色にやられてしまったのよね？」

響「うん、紫色の煙を出したかと思うと急に苦しくなって・・・奏何かわかった？」

奏「全然検討もつかないわ。」

すると祈里が

祈里「・・・毒？」

剛太郎「え？」

祈里「紫色ってもしかして毒の事じゃないかな？」

舞「毒？」

ゆり「なるほど。」

かれん「たしかに毒なら紫色でも検討がつくわ。」

ほのか「紫色の煙は毒煙だったのね。」

剛太郎「そうになると厄介だな。」

するとしんのすけが

しんのすけ「父ちゃん・・・母ちゃん・・・」

一同「!?!」

しんのすけ「すぴー・・・すぴー・・・」

響「びつくりした、しんちゃんの寝言か。」

ゆり「親思いなのね。」

祈里「うふふ、可愛い寝顔ね。」

かれん「なんだかんだ言っただけでまだ私達の半分もいってない5歳の幼稚園児なのよね。」

剛太郎「ははは、頭を堅くしても仕方ない、今日はもう寝よう。」

奏「ごめんね、付き合わせちゃって。」

ゆり「気にする事はないわ。」

舞「じゃあもう寝ようか。」

ほのか「お休みなさい。」

一同「お休み。」

.....

翌日、5人は昨日の場所に向かった。

響「昨日の場所にいるかな？」

剛太郎「わからないが、いる確率が高い。」

アイリ「どうして？」

しんのすけ「ヒーローが負けてリベンジする時、同じ場所にいるのはお約束だゾ!！」

奏「なるほどね!！」

すると本当にその場所にバレンはいた。

バレン「ほう、わざわざ死に来たか。」

しんのすけ「父ちゃん・・・」

剛太郎「行くぞみんな!!」

一同は変身しバレンに攻撃を仕掛ける。

メロディー「だあ!!」

リズム「はあ!!」

メロディーはバレンに殴りかかりかわされるがバレンの後ろからリズムが追撃で蹴りを叩き込んだ。

バレン「ぬう!?!」

バレンは何とか攻撃を受け止め、3歩後退する。

アクション仮面「アクションビームボール!!」

アクション仮面はビームボールを投げつけた。

バレン「おっと!!」

バレンは軽々しくそれをかわすがしん王が待ち受けていた。

しん王「一本足打法!!」

バレン「何!?!」

しん王「ボンバー!!」

しん王はしん王ソードで打ち返した。

バレン「くっ!!」

バレンはビームボールを叩き落とした、バレンはベルトを外そうとしたが

「キュアライド!!レモネード!!」

バレン「!?!」

「アタックライド!!プリズムチェーン!!」

ディリー「やあ!!」

ディリーは光の鎖でバレンの動きを止めた。

ディリー「させないわ!!」

バレン「おのれ!!」

バレンは鎖を引きちぎりディリーを殴り飛ばした。

ディリー「きゃあ!?!」

アクション仮面「ディリー!!」

するとバレンは瞬間的にアクション仮面の懐を殴りつけた、アクション仮面は血を吐き出した。

アクション仮面「ぐは!?!」

しん王「アクション仮面!?!」

メロディー「この!!行くよリズム!!」

リズム「うん!?!」

メロディー、リズムは手を繋いだ。

「プリキュア!!パッションナート・ハーモ・・・」

しかしバレンはまた瞬間的に動き蹴りつけた。

メロディー「なっ、きゃあ!?!」

リズム「はい!?!きゃあ!?!」

吹き飛ばされた二人、そしてバレンは二人の後ろに回り込み腕を振り上げた、すると風が刃のごとく二人を切り裂いた。

メロディー、リズム「きゃあ!?!」

メロディーとリズムは切り裂いた箇所から血を流し、痛みに苦しんだ。

しん王「このお!?!」

しん王はしん王ソードでバレンを斬りつけるが簡単に受け止められ
た。

バレン「無様な。」

しん王「ううー!!」

しん王はバレンに殴り飛ばされた。

しん王「うわああ!?!」

デイリー「しんちゃん!!」

バレン「緑は身体強化とでも思ったか? 緑は風を操り高速移動が可
能なのだ。」

デイリー「何ですって!?!」

バレン「もっともお前達ごときに使う予定ではなかったがな。」

デイリーは立ち上がりバレンに向かって走りだした。

デイリー「はああ!!」

デイリーは殴る蹴るの連打を繰り返すがバレンは簡単にかわし風で
デイリーを吹き飛ばした。

デイリー「きゃあ!?!」

バレン「バカが、諦める。」

しかしデイリーはカードを取り出した。

デイリー「誰が!？」

「アタックライド!!イリユージョン!!」

デイリーは分身し一斉にバレンに攻撃を仕掛ける、しかし気づけばバレンは自分達の後ろにいた、そして腹部を斬りつけられてしまった事に気づいた、分身は消え去った。

デイリー「ああああ!？」

デイリーからも血が流れ出した。

バレン「だからやめろと言っただの。」

しかしデイリーは腹部を押さえ、激痛にこらえながらしゃべった。

デイリー「誰が・・・諦める・・・もんですか・・・」

バレン「ふん。」

デイリーはついに倒れ込んでしまった。

デイリー「くっ・・・間違いかも・・・しれないけど・・・あなたを助きたい・・・って思ってる・・・人がいるの!!」

バレン「助けたい・・・だと?」

ディリー「私もあなたを・・・助きたい!!」

その時、時空のねじれが発生した。

バレン「!?!」

メロディー「なっ、何!?!」

リズム「時空がねじれた!?!」

そのねじれからカードが出てきた。

ディリー「こ、これはまさか!?!」

バレンは突然の事で驚きを隠せないでいた。

バレン「なっ、何をする気だ!?!」

ディリー「お願い、力を貸して!!」

ディリーはカードを読み込ませた。

「キュアライド!!エルス!!」

するとディリーの姿は緑色の見たことのないプリキュアの衣装に変わった。

バレン「何だその姿は!?!」

メロディー「見たことのない・・・」

リズム「プリキュアの衣装？」

アクション仮面「凄い迫力だ。」

しん王「おお！！アイリちゃんかわいい」

ディリー「キュアエルス、あなたの知らない戦士よ！！」

ディリーの傷は完全に回復しており、バレンに攻撃を仕掛ける。

「yellow・color」

バレンは黄色の姿になり攻撃を仕掛ける、お互いの拳がぶつかり合った。

バレン「き、貴様も雷を！？」

ディリー「まだまだ！！」

ディリーはバレンを蹴り飛ばしカードを読み込ませた。

「ファイナル・オリジナルライド！！エエエエルス！！」

ディリーの右足に凄まじい雷を右足に溜めバレンに蹴りを入れた。

ディリー「はあ！！」

バレン「ぐお！？おのれ・・・」

「red・color」

バレンはベルトを巻き変えて赤色に変わった。

バレン「はっ!」

バレンは炎の槍でディリーをなぎはらった、ディリーは違うカードを読み込ませた。

「キュアライド!!ブレイズ!!」

次にディリーは半分青、半分赤の衣装になり目がオッドアイになった。

「ファイナルオリジナルライド!!ブブブレイズ!!」

バレンは炎の槍を鞭のように変形させ攻撃してきたがディリーは片手から炎、片手から氷のエネルギーを放った。

リズム「一気に2つの力を!」

しん王「かつちよい」

バレンの鞭は氷により止められ炎のエネルギーが襲う。

バレン「ぐっ!?馬鹿め、炎に炎が通じるとも・・・何!」

バレンの装甲は何と溶け始めたのだ。

アクション仮面「なるほど、ただでさえ高温の炎の力を持つ装甲もさらに熱すれば溶けてしまつのか!？」

メロディー「頑張つてディリー!!」

しかしバレンは高温に耐えながら青色のベルトに巻き変え炎から脱出した。

「blue・color」

バレン「ちっ、さっきの雷は使わせない!!」

ディリーはカードを取り出した。

ディリー「じゃあ使わないであげる」

ディリーはカードを読み込ませた。

「キュアライド!!テンペスト!!」

ディリーは半分緑色、黄色の衣装になりオッドアイになった。

バレン「また変わった!？くそお!!」

バレンは大量の水を放った。

「ファイナルオリジナルライド!!!テテテテンペスト!!!」

ディリー「はあ!!!」

デイリーは片手からまず風を放った、風が水の勢いを止める。

バレン「な、何!?!」

そしてデイリーは片手を突き出すと雷のレーザーエネルギーが放たれた水を貫きバレンに直撃した。

バレン「ぐあっ!?!」

アクション仮面「凄い・・・あのバレンを圧倒的におしている。」

しん王「今ならやつつけられるゾ!?!」

デイリー「とどめよ!?!」

するとデイリーのカードケースから何も描かれていないカードが出てきた、そしてそれは何かの絵が描かれた状態に変化した。

デイリー「これは・・・よし!?!」

「ファイナルオリジナルライド!!! フォフォフォォースキック!」

すると何とその場にキュアエルス、ブレイズ、テンペストが現れた、そしてデイリーを含む4人は高く飛び上がりエルスは凄まじい雷のキック、ブレイズは片足から炎、片足から氷を帯びた両足キック、テンペストは片足から雷、片足から風を帯びた両足キック、デイリーはマゼンタ色に輝くキックを繰り出しバレンに直撃した。

バレン「ぐあああああ!?!」

バレンは吹き飛ばされ木に激しく叩きつけられた、そしてエルス、ブレイズ、テンペストは消えた。

しん王「すごいゾアイリちゃん！半分こ超美人お姉さん2人にビブリキキュートなお姉さんを呼んじゃうなんて〜」

メロディー「それにしても・・・」

リズム「すごかったね。」

アクション仮面「・・・！？、みんなまだ終わってない！！」

一同はバレンは方を見た、なんとバレンは立ち上がっていた。

デイリー「まだやる気！？」

しかしバレンの仮面に亀裂が走り砕けた、素顔が明かされたのだ。

しん王「父ちゃん！？」

アクション仮面「やはりしんのすけ君のお父さんか！？」

しかし

ひろし「くっ・・・油断したか、だが次はこうはいかない・・・全てはメデューサのために。」

ひろしはそう言つと消え去った。

しん王「父ちゃん!!」

.....

奏「しんちゃん、お父さん残念だったわね。」

しかししんのすけは

しんのすけ「ううん、父ちゃんは面倒だのアジトにいるんでしょ？
見つければ母ちゃんと一緒に会えるゾ！」

アイリ「でも私しんちゃんのお父さんを傷つけちゃった。」

しんのすけ「大丈夫大丈夫！」

アクション仮面「（なんて優しい少年なんだ、この子にプリキュア、
蒼牙君がいれば・・・）さて、私はそろそろ行かせてもらうよ。」

響「怪我大丈夫ですか？」

アクション仮面「どうって事ないよ、君たちならできる・・・頑張
ってくれ。」

しんのすけ「アクション仮面バイバイ!!!」

.....

メデューサーアジト

ひろし「ぐっ・・・すまない、手こずってしまった。」

ビョーザ「大丈夫だ、バレンシステムはまだ未完成、もう少しで完成する。」

アバタ「その時が奴らの最後だ。」

完成間近のバレンシステム、果たしてどうなるのか……。

つづく

第19話 罪悪(前書き)

今回は5gogoo&タクヤが主人公

第19話 罪悪

メデューサアジト

アバタ「そういえば奴はどうしてる？」

ビョーザ「奴？キュアパインをさらったコブラゴンの事か？」

コブラゴン、かつてキュアパインをさらった怪人だ。

ビョーザ「そうか、奴ならプリキュアとライダーを倒せるかもな。」

アバタ「さっそく送りですか。」

.....

しんのすけの家

蒼牙「なあ龍一、最近榊原さん見ないんだけど？」

龍一「ああ、あいつなら他に時間が止まってない所がないか調べに行っただぜ。」

蒼牙「へえ。」

すると二階からだろつか騒がしい声がする、のぞみだ。

のぞみ「こらあああ！！ミルクウウウ！！」

のぞみはミルクを追いかけていた。

ミルク「のぞみが悪いミルク」

蒼牙「うわ！？小動物！？」

タクヤ「違う、あれはくるみ本来の姿だ。」

しんのすけ「があああん！？」

その事実を知り絶望のふちに叩き落とされたしんのすけ。

りん「のぞみ！！ミルク！！うるさいよ！！！！」

ゆり「静かにしなさい。」

のぞみ「だってだって！！ミルクが私のシュークリーム食べちゃったんだもん！！楽しみにしてたのに！！！！」

ミルク「早くに食べないのぞみが悪いミルク！！！！」

そんな2人の小さな喧嘩が後々大きな事件へと発展してしまうとは誰も知らなかった、一同はつるさくとなると思い別の部屋に移動した、しかしりんはそこにとどまった。

いつき「ダメだよ、止まりそうにない。」

咲「どうすればいいんだろうっ？」

タクヤ「ほっとけほっとけ。」

すると何か嫌な音が響いた。

ラブ「なっ、何!？」

せつな「嫌な予感が・・・」

音の響いた所に向かうとりんがリビングの窓ガラスを突き破って外に倒れていた。

蒼牙「なっ、これは!？」

こまち「りんさん!！」

しかしタクヤがこまちを止める。

タクヤ「動くな!!俺が行く。」

タクヤが玄関から庭に行きりんを抱きかかえる。

タクヤ「かれん!!祈里!!手伝ってくれ!!」

かれん「わかつたわ!!」

祈里「あたし!!布団ひいてくる!!」

のぞみ「そんな・・・」

くるみ「・・・」

.....

タクヤが寢室から出てきた。

うらら「りんさんは大丈夫なんですか？」

タクヤ「出血が結構酷かった、なんとか止めたがガラスの破片がまだ刺さってるかもしれないから救急車は呼んでおいた。」

つぼみ「無事を祈りましょう。」

アイリ「そうね。」

龍一「じゃ、とりあえず事情聴取といくか。」

のぞみとくるみは事情を話した。

.....

のぞみ「私のシュークリーム返してよぉ!!」

ミルクはくるみの姿になり、のぞみともみ合いになった。

くるみ「何よ!? あんたが悪いんでしょう!？」

りん「ちよつと2人共!! 良い加減にしてよ!!」

りんは2人を止めに割って入ったが

のぞみ「くるみのせいじゃん!!」

くるみ「私は悪くないわよ!！」

そうもみ合っているうちのぞみがくるみを突き飛ばしてりんとぶっかってしまいりんが窓ガラスに衝突してしまったという。

りん「きゃあ!？」

くるみ「あっ!？」

のぞみ「りんちゃん!？」

・・・

龍一「なるほど・・・」

くるみ「のぞみが私を突き飛ばしてなければこんな事にはならなかったのよ!？」

のぞみ「原因はくるみが作ったんじゃない?」

すると

タクヤ「うるせえ!！」

一同「!！」

一同が驚いたのも無理はない、普段大人しいタクヤが突然怒鳴ったからだ。

タクヤ「いつまで罪をなすりつけあっているつもりだ！？今は自分が何をすべきか良く考えやがれ！」

のぞみ、くるみ「・・・」

そこに救急車が到着した。

かれん「救急車が来たわ。」

祈里「付き添いは・・・タクヤさん、お願いできますか？」

タクヤ「わかった。」

タクヤはりんをおぶって救急車に向かうが誰かがズボンを引っ張る、しんのすけだ。

しんのすけ「りんちゃんは助かるの？」

タクヤ「大丈夫だよ、安心しろ。」

そう言うとタクヤは救急車に入っていった。

・・・

蒼牙「しばらく2人だけにしよう。」

えりか「私達はどつするの？」

アイリ「まあどこか行きましょう。」

しんのすけの家に残ったのはのぞみとくるみだけになった。

のぞみ「……………」

くるみ「……………何よ？」

のぞみはくるみをじっと見ていた。

のぞみ「う……………ううん。」

のぞみはくるみから目を離した。

……………

春日部病院

りん「……………？」

りんは目を覚ました、ガラスの破片を取り除く際に麻酔を打たれ眠っていたのだ、横にはタクヤが座っていた。

タクヤ「気がついたか。」

りん「タクヤさん……………私は……………」

タクヤ「馬鹿2人の下らない喧嘩に巻き込まれたんだよ、気分は？」

りん「大丈夫です。」

タクヤ「そうか。」

しばらく沈黙が続いた、そしてりんがきりだした。

りん「あの・・・2人は？」

タクヤ「さあな・・・心配か？」

りん「はい、あの2人本当に下らない喧嘩ばかりだから・・・」

タクヤ「確かにな・・・」

・・・

春日部病院周辺ではうらら、こまち、かれんが歩いていた。

うらら「あそこですよね、りんさんが運ばれた病院は。」

こまち「ええ、大丈夫かしら？」

かれん「タクヤさんが一緒だし、大丈夫よ。」

三人はりんを心配していた、その時何かの気配を感じとった。

こまち「何・・・かしら？」

そして後ろを振り返ると大蛇が口を開けて飛びついてきた。

かれん「危ない!？」

かれんがこまちを引っ張り大蛇から助けた、すると大蛇が喋りだし

た。

大蛇「はあ、もう少しだったんだがなあ。」

かれん「あなたは何者!？」

大蛇は形が変化し蛇と人間が合体したような姿になった。

大蛇「我が名はコブラゴン、死んでもらうよ。」

うらら「死ぬのはあなたです!!！」

三人はキュアモを構える。

「プリキュア!!メタモルフォーゼ!!！」

.....

一方しんのすけの家ではまだのぞみとくるみは沈黙の中にいた。

のぞみ「.....」

くるみ「.....」

するとのぞみのキュアモが光だした。

のぞみ「なっ、何!？」

キュアモの画面にはアクアが映し出された。

のぞみ「アクア!?!」

くるみ「えっ!?!」

アクア『のぞみ!くるみ!!急いで春日部病院周辺に来て!!メデューサーよ!!』

くるみ「何ですって!?!」

のぞみ「わかった!!」

2人は三人の所へ向かった。

.....

レモネード「はあ!!」

レモネードはコブラゴンに蹴りを入れるが受け止められてしまった。

コブラゴン「この程度か?」

しかし後ろからミント、アクアがコブラゴンを殴りつけた。

コブラゴン「?」

ミント「効いてないわ!?!」

アクア「一旦離れましょう!!」

三人はコブラゴンと距離をとり、必殺技を放った。

レモネード「プリキュア！！プリズムチェーン！！」

ミント「プリキュア！！エメラルドソーサー！！」

アクア「プリキュア！！サファイアアロー！！」

レモネードの鎖でコブラゴンを拘束しミントとアクアの必殺技がコブラゴンを襲う。

ミント「やったー！！」

しかし突如コブラゴンの尻尾が伸びアクアを締め付け自分の場所に引きずりこんだ。

アクア「きゃあああ！！？」

レモネード「アクア！？」

コブラゴンは生きていた、しかも必殺技を直撃したはずだが無傷でいたのだ。

コブラゴン「残念、この程度じゃ私は倒せないよ。」

コブラゴンがアクアをギリギリと締め付ける。

アクア「ああ・・・ああ・・・」

ミント「このままじゃアクアが！？」

その時

「たあ！」

「はあ！！」

ドリームとローズが駆けつけコブラゴンを攻撃するがかわされてしまった。

コブラゴン「おっとまだいたか。」

ミント「ドリーム！！ローズ！！」

ドリーム「アクアを離して！！」

ローズ「はあ！！」

ローズはコブラゴンの後ろに回りこんでドリームと挟み撃ちで殴りかかるがあっさりとかわされお互いの拳がお互いの顔を殴りつけた。

ドリーム「きゃあ！？」

ローズ「ああ！？ちょっとドリーム！！何でかわさないのよ！？」

ドリーム「ローズこそ少しは周りを見てよ！？」

レモネード「あの2人・・・まだ・・・」

そしてコブラゴンはアクアを解放したがアクアが体を動かさせないでいた。

アクア「ああ……」

ミント「アクア!？」

ミントはアクアを抱きかかえるが、アクアの腕の骨が砕けていた。

コブラゴン「手加減はしたよ、でも腕だけで動けなくなるとは……弱いね。」

ミント「アクアは……弱くなんかない!!」

ミントはコブラゴンに突っ込んだ。

レモネード「ミント!？」

ミントは殴りかかったが簡単に受け流されなんとコブラゴンは口を信じられないほど大きく開けて噛みついたのだ。

ミント「ああああ!？」

ドリーム「だっ、ダメ!？」

ローズ「させない!!」

ドリームとローズはミントを助けようとするがまたお互いに衝突してしまった。

ローズ「くっ!邪魔くさいわよ!？」

ドリーム「何よそれ!？」

そしてミントは解放された、噛み跡は浅く出血も酷くなかったが異様に苦しみだす。

コブラゴン「毒が回り出したか。」

レモネード「毒!？」

そう、コブラゴンは噛みついた時にミントの体に毒を送っていたのだ。

レモネード「はあ!！」

レモネードはプリズムチェーンでコブラゴンを拘束するが牙から毒液を飛ばした、驚いたレモネードは思わず口を開けてしまい毒液が入り込んでしまった。

レモネード「!!!！」

レモネードは泡を吹き白目をむいて倒れてしまった。

ドリーム「レモネード!？」

コブラゴンは2人に近づく。

コブラゴン「次はお前たちだ。」

すると

「はあ!?!」

コブラゴン「ぐおっ!?!」

ローズ「あ……」

ドリーム「タクヤさん!?!」

そう、状況を嗅ぎつけたタクヤが仮面ライダーシャイバになり駆けつけたのだ。

コブラゴン「ほう、シャイバか。」

シャイバ「だったら何だ?」

コブラゴン「私の体に傷をつけるとは大した物だな、ここは退かせてもらうよ。」

そう言ってコブラゴンは姿を消した、シャイバは変身を解いた。

タクヤ「大丈夫か!?!」

タクヤは救急車を呼び3人が運ばれた後、ドリーム、ローズのもとに近づいた。

ドリーム「タクヤさん……」

ローズ「駆けつけてくれてありが……」

すると突然タクヤは2人を殴りつけた。

ドリーム「きゃあー!？」

ローズ「うう!？」

つづく

第19話 罪悪（後書き）

次回、タクヤ怒り爆発

第20話 仲間

タクヤはいきなりドリーム、ローズを殴りつけた。

ドリーム「きゃあ!？」

ローズ「うう!？」

タクヤは震えていた、拳がギリギリと音をたつほど力を入れていた。

ドリーム「な・・・何で・・・」

ローズ「いきなり何!？」

その2人の発言にタクヤの溜め込んでいた怒りがついに爆発した。

タクヤ「何?・・・それはこっちのセリフだあ!！」

タクヤはローズの胸ぐらを掴み顔面を殴りつけた。

ドリーム「やめて!!タクヤさん!？」

タクヤはドリームの胸ぐらもつかんだ。

タクヤ「言い訳は後でたっぷり聞いてやるが・・・今はてめえらをぶん殴んねえと気がすまねえ!！」

タクヤはドリームを殴りつけた。

ドリーム「きゃあ!？」

ローズはミルクの姿に戻っていた、ドリームの口には少し血がついていた。

タクヤ「てめえらのせいで何人仲間が傷ついたと思ってんだ!？それなのにてめえらは下らない事でいちいちぶつかり合いやがって!？」

ミルク「……………」

ドリーム「……………」

2人は何も言えなかった、ドリームは変身を解き、ミルクはくるみの姿になった。

タクヤ「さつさと帰れ、あと……………」

タクヤはのぞみのキュアモ、くるみのミルクイパレットを奪った。

くるみ「なっ……………」

のぞみ「それがなかったら!？」

タクヤは2人を睨みつけた。

タクヤ「てめえらにこいつを使う資格はない。」

タクヤはその場を去った。

.....

しんのすけの家ではタクヤは5メンバーが危機に陥っている事を話した。

アイリ「そんな事が・・・」

なぎさ「しかもタクヤさんが2人を殴ったの!？」

タクヤは無言で頷いた。

ゆり「仕方ないわよ、それあの2人は？」

龍一「部屋に閉じこもったまま。」

奏「2人の事は2人で解決させるべきよね。」

蒼牙「そうだな。」

.....

春日部病院ではかれん達の治療が勢力を尽くして行われていた。

「水無月かれん!!15歳、両腕の骨が砕けています!!」

「重傷ですんで良かった、後の2人は!？」

「秋元こまち!!15歳!!春日野うらら!!13歳!!意識不明の重体!!原因不明です!!」

その声はりんの病室にまで響いていた。

りん「そんな・・・」

・・・

しんのすけの家

のぞみは布団を被っていた。

くるみは部屋の隅に小さく座っていた。

のぞみ「りんちゃん・・・うらら・・・こまちさん・・・かれんさん・・・うっ・・・うっ・・・」

くるみ「・・・どうすれば・・・」

2人は相当なショックを受けていた、今も4人が苦しんでいると思うと胸が苦しくなった、と誰かが部屋に入った。

・・・

コブラゴン「今度は三人もろとも食いころしてやる。」

コブラゴンはしんのすけの家に向かっていて、その時、コブラゴンに斬撃が走った。

コブラゴン「ぐお!？」

シャイバだ、コブラゴンの気配を感じやってきた。

シャイバ「悪いがしんのすけの家には行かせないぜ。」

コブラゴン「死ね！」

.....

しんのすけの家

蒼牙「タクヤの奴、敵が近づいてるって言うから行くつもりとしたのに.....」

ゆり「来るのはのぞみとくるみだけで良いなんてね？」

アイリ「まあさっき何か話してたみたいだし.....」

ほのか「まかせましょう。」

.....

シャイバ「ぐっ！？うあ！？」

一方シャイバは苦戦をしていた、コブラゴンがパワーアップしていたのだ。

シャイバ「まったく、面倒な。」

コブラゴン「前みたいに傷は付けさせないよ。」

コブラは尻尾でシャイバの首を締め上げる。

シャイバ「なっ！？かつ・・・」

コブラゴン「このままへし折ってやる。」
「
すると

「ちょっと待ったああ！！」

コブラゴン「？」

コブラゴンが見た先にはのぞみとくるみがいた。

シャイバ「来たか・・・くっ！！」

シャイバは剣で尻尾を叩き斬った。

コブラゴン「なあ！？私の尻尾が！？」

シャイバ「つたく、遅いんだよ！！！！」

くるみ「何よ！？来てあげたのに、感謝しなさいよ！！！！」

のぞみ「まあまあ、行くよくるみ！！！！」

くるみ「OK！！！！」

シャイバは2人に変身アイテムを投げ渡した。

「プリキュア！！メタモルフォーゼ！！！！」

「スカイローズ！！トランスレイト！！」

2人は変身しコブラゴンを蹴り飛ばした。

コブラゴン「ぐお！？」

そしてローズはコブラゴンの後ろに回り込みドリームと挟み撃ちで殴りかかった。

コブラゴン「おのれ！！」

コブラゴンはジャンプしてかわした。

コブラゴン「互いに殴り合え！！」

しかしローズはドリームの拳を受け止めコブラゴンに向かって投げ飛ばした。

ローズ「いつけえええ！！」

ドリーム「よおおおし！！」

ドリームは回転しながらコブラゴンに蹴りを叩き込んだ。

コブラゴン「ぐあっ！！」

シャイバ「おまけだ！！」

シャイバは剣をコブラゴンに向かって投げた、剣はコブラゴンに突き刺さった。

コブラゴン「ぎゃあ!?!」

コブラゴンはそのまま地面に落下した。

コブラゴン「ぐっ・・・何故、仲間割れしたのではなかったのか!」

ローズ「残念ね。」

ドリーム「もう仲直りしたも〜ん。」

・・・

実はあの時、2人の部屋に入ったのはタクヤだった。

のぞみ「タクヤさん・・・」

くるみ「また殴りにでも来たの?」

タクヤはそう言われながらも部屋の真ん中に座り込んだ。

タクヤ「殴って・・・悪かったな。」

「えっ?」

タクヤは2人を殴った事について謝罪し出した。

タクヤ「あの時はカツとなっちまった。」

のぞみ「……ううん、私たちが悪かったから……」

のぞみは涙を隠した。

タクヤ「泣くなよ、みつともない。」

くるみ「それで……何しに来たの？」

タクヤは喋り出した。

タクヤ「自分達のやるべき事、見つけたか？」

のぞみ「……まだ。」

タクヤ「まあ、簡単には見つからないか。」

くるみ「……」

そしてタクヤはコブラゴンの気配に気づいた。

タクヤ「奴だ。」

くるみ「えっ!?!」

のぞみ「でも……私達……」

タクヤ「まだ来るな、まずは見つけ出せ。」

タクヤはコブラゴンのもとに向かった。

.....

ローズ「私達のやること・・・それは・・・」

ローズとドリームは互いに手を握った。

ドリーム「友達を助けて・・・ちゃんと謝る!!」

シャイバ「上出来だ。」

コブラゴン「下らない、下らない!!」

コブラゴンは飛びかかってきた、ドリームはクリスタル・フルールを取り出し、コブラゴンの額に突き刺した。

ドリーム「はああああ!!」

コブラゴン「ぎゃあ!?!」

ドリームはそのまま上空に向かってコブラゴンを投げ飛ばした。

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌めく薔薇を咲かせましょう!!...ミルキイローズ!!メタルブリザード!!」

ローズはメタルブリザードで上空のコブラゴンを氷づけにした。

コブラゴン「!?!」

「SYAIBA charge!!」

シャイバは黒い雷を左足に溜め、空高く飛び上がり蹴りを繰り返して氷ごとコブラゴンを打ち砕いた、コブラゴンは消滅した。

シャイバ「ふう。」

ドリーム「やったねローズ！」

ローズ「ええ！！」

ドリームとローズと手を握り喜びのあまり飛び上がった。

シャイバ「さて、これでこまちとうすらも助かるかな、というわけで……」

……

のぞみ、くるみ「ごめんなさい！……」

ここは春日部病院、タクヤはのぞみ、くるみを連れ4人に謝罪をさせた。

りん「良いよ、もう済んだ事だし。」

かれん「それにしても仲直りできて良かったわね。」

こまち「本当に良かった。」

うすら「おめでとーございます！……」

のぞみとくるみは少し顔を赤らめていた。

タクヤ（良いな、仲間って。）

そう心の中で感じるタクヤであった。

つづく

第20話 仲間（後書き）

次回、ちょっと話の話数の関係でネタが厳しくなってきたので急遽一定期間ですが数名ほど歴代のライダーを派遣します。

というわけで次回予告!!

つぼみ「ひえええ!!? 太ってしまいましたあああ!?!」

蒼牙「走ってこい。」

つぼみ「はあはあ、あつ!!? ごめんなさい!! よそ見してました!!」

????「気をつけなさい。」

????「????は最高なんだ!!」

今回はハートキャッチとしんのすけ、あのライダー2名が主人公!!

第21話 ダイエットならまかせなさい

メデューサアジト

アバタ「ビョーザ、バレンシシステムの方はどうだ？」

ビョーザ「順調だ、しかし何故お前はここに来た？」

アバタは作戦を思いついたらしくビョーザに伝えた。

ビョーザ「なるほど、精神的苦痛か。」

アバタ「そんな奴はいるか？」

ビョーザ「ああ、なら今活動させよう、メントルよ!!」

そこに精神怪人・メントルが現れた。

メントル「お呼びで？」

ビョーザ「試しにまずは歴代最弱のプリキュアに精神的苦痛を与えてくるのだ。」

メントル「かしこまりました。」

.....

しんのすけの家

つぼみは昨夜メデューサ怪人との戦いの疲労で帰ってきてそのまま眠ってしまったので朝風呂をしていた。

つぼみ「それぞれの胸　芽　生　え　はじめてる　　はあ、風呂はやっぱり快適です。」

すると扉の向こうからしんのすけが

しんのすけ「つぼみちゃん　一緒に入って良い？」

つぼみは慌ててしまった。

つぼみ「だっ、ダメです！？何を言ってるんですかしんちゃん！？」

するとえりかの声も聞こえた。

えりか「つぼみ、一回ぐらい良いじゃんしんちゃんまだ5歳だよ？何慌ててんのさあ。」

つぼみ「ダメと言ったらダメです！！」

なんとか拒否したつぼみ、そしてお風呂から上がり誰もいない事を確認、体を拭いて服を着るがふと目に体重計が止まった。

つぼみ「・・・誰もいないし、いいですよね。」

体重計にのるつぼみ、そしてしんのすけの家に泣く子も黙る叫び声があがった。

蒼牙「なんだあ！？風呂場から聞こえたぞ！？」

しんのすけ「出発おしんごおー!!」

アイリ「いけませーん!!!」

えりか、なぎさ、響が風呂場に向かう。

響「どうしたのつぼみ!？」

なぎさ「何があつたの!？」

えりか「自分の胸の小ささに驚いた!？」

つぼみはクロックアップ状態で「お前には言われたくない。」とえりかを睨みつけた。

つぼみ「ひえええ!?!体重が3キロも増えてしまいましたあゝ!?!」

えりか「3キロも!?!」

響「それはショックだね。」

なぎさ「うん。」

するとリビングから蒼牙が

蒼牙「走ってこい。」

と言った、つぼみはトライアル状態でジャージに着替えた。

つぼみ「私走つてきます!!」

そして外に出てしまった。

えりか「ええ!? せっかくお風呂入ったのに!?! ちよつとつぼみいゝ!!」

.....

つぼみ「はあはあ・・・結構走りましたね。」

つぼみは後ろを振り向くと実際まだ100メートル程度だった。

つぼみ「ま、まだこれだけ・・・やつ、やせなきや!!」

つぼみは再び走りだすと男とぶつかってしまった。

つぼみ「ああ!?! ごめんなさい!! よそ見してました!」

????「気をつけなさい、ちゃんと前を見て歩きなさい。」

つぼみは謝罪して走りだそうとする。

????「待ちなさい!!」

つぼみ「えっ!?! はい?」

つぼみは????に呼び止められた。

????「君は悩みを抱えていますね?」

つぼみ「ど、どうしてそれを？」

????「見ればわかります、悩みなら私に相談しなさい。」

すると

「つぼみい〜!〜!」

つぼみ「あ、えりか!〜!」

えりか、いつき、ゆり、しんのすけがジャージ姿で駆けつけたのだ。

えりか「私達も協力するよ!〜!」

いつき「困ってる時はお互い様だからね。」

ゆり「それよりあなたは？」

ゆりは????に問いだした。

????「私は名護啓介だ。」

しんのすけ「イナゴ？」

名護さん「違う!〜!名護啓介だ!悩み事なら私にまかせなさい。」

えりか「でも急に言われても信用できるかなあ？」

とそこに青年が通りかかり名護さんを見るなり立ち止まった。

青年「名護さん？」

名護さん「君は!？」

青年は歓喜な表情になった。

????「やっぱり名護さん!!お久しぶりです!!」

名護さん「元気そうで何よりだ。」

つぼみ「あゝ、名護さんこの方は？」

名護さんは青年の肩に手を回した。

名護さん「彼は紅渡、私の一番弟子です。」

しんのすけ「わた君かあ。」

渡「わた君?まあでも、君たちは？」

名護さんは事情を説明した。

渡「だったら是非名護さんについていくべきだよ!!」

ゆり「必死ね。」

えりか「そんなに凄い人なの?名護さんって。」

渡「名護さんは最高なんだ!!」

いつき「まあ信じてても大丈夫じゃないかな？」

しんのすけ「オラもナマコさんを信じるゾー!!」

名護さん「だから名護啓介だ!!（汗）」

つぼみ「と、とりあえずよろしくお願いしますー!!」

つぼみは名護さんに頭を下げ、頼み込んだ。

名護さん「なら、私についてきなさいー!!」

6人は名護さんについていく、到着したのはなにやら異様な空気漂う建物だ。

つぼみ「こっ、ここは？」

名護さんは建物の入り口のパスワードを入力した。

753315

名護さん「入りなさい。」

中は異様な空気漂う外と違って意外と上品な作りだった。

ゆり「外とは大違いね。」

すると名護さんは人数分のTシャツを渡した。

名護さん「着替えなさい、ストレッチをしなさい。」

しんのすけ「オラのTシャツもあるゾ(汗)」

渡「さっすが名護さん!!準備が良い!!」

一同は胸には753、背中193と書かれたTシャツを着た。

つぼみは桃色

えりかは青色

いつきは黄色

ゆりは紫色

しんのすけは赤色

渡は銀色

そして名護さんは金色のTシャツを着た。

名護さん「では周りに物が無いかよく確認しなさい。」

えりか「大丈夫だけど・・・」

いつき「何するんだろう?」

名護さん「では・・・イクササイズ!!」

一同「イクササイズ!? (イクササイズ!!) 渡」

名護さんはいきなり体操のような事をしだした、半身で前をむきながら左足を上げて右手を斜め上に、左手を斜め下にした体勢になった。

名護さん「イクササイズ、俺は正しい・・・ついてきなさい。」

一同（渡以外）は戸惑いながら名護さんの真似をするしかなかった。
（渡はノリノリである。）

名護さん「腕振りなさい、振りなさい、速くしなさい、跳びなさい！！」

一同は腕を前後に振りときおり速くし大の字でジャンプする。

名護さん「避けなさい、避けなさい！！敵の攻撃避けなさい！！」

次に腕を広げ胸をはったりひいたりを繰り返す。

名護さん「叩きなさい、叩きなさい、悪い奴らを叩きなさい！！」

床を敵に見立ててひたすらたたきつづける。

名護さん「巻きなさい、巻きなさい、変身ベルトを巻きなさい。」

次に腕を左右に振り回す。

名護さん「蹴りなさい、蹴りなさい、悪い奴らを蹴りなさい！！」

悪い奴らがいると見立てて蹴りを続けるが

名護さん「止めなさい、止めなさい！！私の暴走止めなさい！！」

足を上げた状態でいきなり止める、えりかとおぼみがバランスを崩して倒れた。

おぼみ「ひゃあ！？」

えりか「何よこれえ!?!」

名護さんはいきなり座り込んだ。

名護さん「休みなさい、休みなさい、パワーカーチャージだ休みなさい。

」

そして立ち上がり素早く足踏みをする。

名護さん「走りなさい!走りなさい!!未来へ向かって走りなさいあ

い!!--!」

いつき「くう!?!」

ゆり「っ……」

渡「ちよっ……待っ……」

しんのすけ「いや〜ん!?!」

名護さんは最初のポーズをとりいきなり誰かに向かって指を差して。

名護さん「その命、神に返しなさい。」

そんなわけでイクササイズは一段落。

いつき「いいですねこれ……なかなか汗がかけて……ふう。」

えりか「けっこうきついよこれ……」

渡「やっぱり・・・名護さんは・・・最高です!!」

名護さん「当然だ、!?大丈夫か!?立ちなさい!!」

つばみは大量の汗をかき仰向けに大の字で倒れていた。

つづく

第21話 ダイエットならまかせなさい（後書き）

みなさんは他にライダーを派遣するなら何が良いですか？

出来ればサブライダーをお願いします。

予定ではアクセルを出すのですが

第22話 イクササイズを使いなさい

えりか「ちょっとつぼみいゝ、起きてよお。」

つぼみ「・・・ぜえはあ、ぜえはあ・・・お・・・お水を・・・」

しんのすけ「ほい!! プスライト!!」

しんのすけがつぼみにプスライトを飲ませた。

いつき「つぼみ体力無さすぎだよ。」

ゆり「呆れた。」

つぼみ「うう・・・」

名護さん「これはダメだ、つぼみ君は今日から3日間強化合宿です。」

渡「おお!!」

つぼみ「がつ、合宿ですか!？」

名護さん「3日間家には返しません、部屋を案内する、ついてきなさい。」

渡「僕も協力します!!」

つぼみは名護さんに無理やり合宿させられた。

えりか「頑張つて。」

いつき「3日後迎えにくるよ。」

ゆり「さあ、行きましょう。」

しんのすけ「ほっほっほい！」

.....

「へへへッ、まず第1段階成功だな。」

.....

つぼみ「いきなり言われても困ります!!！」

名護さん「いい加減諦めさい。」

渡「頑張つて頑張つて!!！」

そんなわけでつぼみのダイエット3日間が始まった。

名護さん「避けなさい、避けなさい、悪い奴らを避けなさい!!！」

つぼみ「ぜえはあぜえはあ.....」

.....

名護さん「食事は鳥のササミに生野菜です、食べなさい。」

渡「さっすが名護さん!!」

つぼみ（生野菜・・・ですか。）

・・・

3日後・・・

えりか「やつほ〜!!」

いつき「つぼみ〜、元気し・・・ぶぶっ!?!」

ゆり「じ、これは・・・」

しんのすけ「ほうほう、どこのホラーマンですな。」

つぼみは見るからにウルトラマン80が出てきそうなマイナスエネルギーを発していた。

渡「名護さん、やりすぎましたね。」

名護さん「渡、いつも前を向きなさい。」

えりか「でもさ、今なら体重かなり減ったんじゃない?」

ゆり「たしかに、体重計に乗ってみたら?」

名護さん「俺は正しい、3キロどころからキロは減っただろう、体重計に乗りなさい。」

誰かの声が聞こえた、しかし姿は見えない。

渡「どっ、どこ!?!」

えりか「何何!?!お化け!?!」

ゆり「いえ……つぼみ!?!影を踏んで!?!」

つぼみ「はっ、はい!?!」

つぼみは自分の影を思いつきり踏んだ。

「いったああああ!?!」

なんと影から何やら異形の怪人が飛び出した。

渡「お前は!?!」

????「やべ、俺様メントルの作戦が失敗しちゃった。」

名護さん「まさかお前がつぼみの体重を操っていたのか!?!」

メントル「そうだよ、精神的苦痛が一番効果的だからな。」

いつき「許さない!?!」

しんのすけ「怒ったゾ!?!行くゾみんな!?!」

しかし

名護さん「君たちは下がりなさい!!」

渡「ここはプリキュアとしん王じゃなくて僕たちに任せて!!」

5人は驚愕した。

ゆり「どうして私たちの事を!?!」

渡「僕は色んな世界を見てきたからね。」

名護さん「メントル、覚悟しなさい!!」

そこに機械のようなコウモリ・キバットが飛んできた。

しんのすけ「うおお!!コウモリ!!」

キバット「行くぜ渡!!」

名護さんはベルトを装着、メリケンのような物のボタンを押した。

「ready」

渡はキバットに手を噛ませエネルギーを送ると赤いベルトが現れた。

渡、名護さん「変身!!」

「BEAST・ON」

すると渡は吸血鬼のような仮面ライダー、キバに変身し名護さんは

白い装甲の仮面ライダー、イクサに変身した。

キバ「ハッ!!」

イクサ「その命、神に返しなさい。」

しんのすけ「うおお!!アナゴさんとわた君は仮面ライダーだったのか!!」

イクサ「名護啓介だ!!」

いつき「まさか仮面ライダーだったなんて。」

えりか「ていうか本当にほっとけないし!!」

つぼみ「やっぱり行きます!!」

「プリキュア!!オープンマイハート!!」

しんのすけ「オラも行くゾ!!変・・・体!!」

5人も変身し仮面ライダーに並ぶ。

メントル「無駄さ、ほい!!」

メントルはキュアサンシャインの影に入り込んだ。

サンシャイン「きゃあ!？」

キバ「何を!？」

するとサンシャインはいきなり苦しみました。

サンシャイン「あああああ!?!」

ブロッサム「どっ、どうしたんですかサンシャイン!?!」

イクサ「離れなさい!?!」

一同はサンシャインと距離をとる、かなり苦しんでいる。

サンシャイン「誰か・・・」

(お前は兄さんを傷つけた。)

(お前はプリキュアになるべきではなかった。)

(お前の強さは他のプリキュアに妬まれている。)

サンシャイン「そんな・・・そんな事・・・」

サンシャインは頭を抑える。

しん王「いつきちゃん苦しんでるゾ!?!」

ムーンライト「まさか幻聴を!?!」

キバット「そうか、メントルは取り憑いた奴に精神的苦痛を与えられる・・・ブロッサムには間接的に苦痛を与えていたけど!?!」

キバ「サンシャインには直接的に苦痛を!？」

イクサ「急がないと彼女の精神が破壊されてしまう!？」

イクサはイクサカリバーを構える。

イクサ「・・・ダメだ、彼女の体と影が重なっていて狙えない!！」

マリ「サンシャイン!！」

マリがサンシャインに向かって走り出した。

ブロッサム「マリ!！」

するとメントルは飛び出しマリンの影に入り込んだ。

マリ「あっ!？」

メントル（お前の影つまそうだな、食ってやる。）

マリ「きゃああああ!？」

なんとマリンの影が消えてしまいマリンは倒れてしまった。

ムーンライト「マリが!？」

キバ「あいつ、マリンの影を食べやがった!？」

キバ「でもそしたらメントルが入る影が無くなるんじゃない？」

イクサ「いや渡、みなさい、サンシャインの影が近くにある、恐らく近くの影に入りながら影を食べたんだ。」

ブロッサム「影が無いとどうなるんですか!?!」

ムーンライト「恐らく倒れたまま一度と目を覚まさない。」

メントルがサンシャインの影から飛び出した。

メントル「その通り、俺を倒さない限り影は戻らん。」

マリ「……………」

サンシャイン「私は……………ああ……………」

ブロッサム「何とかしないと!?!」

ムーンライトがメントルに飛びかかり蹴り殴りを連打する。

ムーンライト「はっ!?!たあ!?!」

メントル「うっ!?!やるな!?!」

メントルはムーンライトの影に入り込もうとしたがムーンライトの攻撃に阻まれる。

メントル「チッ!?!こうなれば!?!」

メントルはなんとブロッサムの影に入り込んだ。

ブロッサム「きゃあ!?!」

キバ「まずい!?!」

イクサ「影に攻撃を!?!」

しかし先ほどのように影を踏んだりするがメントルは出てこない。

メントル（残念だったな、先ほどみたいには行かないよ!?!）

ムーンライト「このままじゃブロッサムが!?!」

するとブロッサムの足の影が無くなっていた。

ブロッサム「あっ、足が動きません!?!」

メントル（ははは!?!じっくり味わってやる!?!）

キバ「キバット!?!どうにかならないの!?!」

キバット「うう・・・ブロッサム!?!手貸せ!?!」

ブロッサム「えっ!?!」

キバットはなんとブロッサムの手に噛みついた。

キバ「キバット!?!」

キバット「大丈夫死にはしない!?!これでブロッサムは影に攻撃で
きる!?!」

メントル（何だと！？おのれえ！！）

メントルは影から光弾を放ち、イクサ、キバ、ムーンライトを吹き飛ばした。

ムーンライト「きゃ！あ？」

キバ「うわあ！？」

イクサ「ぐあ！？ブロッサム！！イクササイズを使いなさい！！」

ブロッサム「こんな時に何を！？」

しかしブロッサムの影は既に下半身が無くなっていた。

ムーンライト「ブロッサム！！名護さんを信じるしかないわ！！」

キバ「ブロッサム！！」

ブロッサム「ああああ！！もうどうにでもなれです！！」

ブロッサムは腕を構える。

（叩きなさい、叩きなさい、悪い奴らを叩きなさい！！）

ブロッサム「叩きなさい！！叩きなさい！！悪い奴らを叩きなさい！！」

メントル（ええ！？ちよつと！！なんだこれ！？）

メントルは慌てて光弾を連写するが

(避けなさい、避けなさい、敵の攻撃避けなさい!!)

ブロッサム「避けなさい!!避けなさい!!敵の攻撃避けなさい!!」

イクサ「うまい!!」

ムーンライト「全部避けきったわ!!」

ブロッサムは再び叩きなさいを使う、耐えなくなり影から飛び出しました。

メントル「このやろう!!」

メントルはブロッサムに飛び付いた、しかし

(巻きなさい、巻きなさい、変身ベルトを巻きなさい。)

ブロッサム「巻きなさい!!巻きなさい!!変身ベルトを巻きなさい!!」

ブロッサムが腕を振ることによってメントルをなぎはらった。

メントル「ぎゃあ!!」

キバ「凄いや!!」

メントルはブロッサムの下半身の影を吐き出した。

ブロッサム「足が動きます!!!」

イクサ「よし!!!これならイクササイズを全て使える!!!応用しなさい!!!」

ブロッサム「はい!!!」

ブロッサムはメントルに近づいた。

(蹴りなさい、蹴りなさい、悪い奴らを蹴りなさい!!!)

ブロッサム「蹴りなさい!!!蹴りなさい!!!悪い奴らを蹴りなさい!!!」

メントル「ぐあ!?!?ぐほ!?!?このやろう!!!」

メントルは体にトゲトゲをはった。

メントル「これで奴の足はトゲトゲの餌食に・・・なっ!?!?」

ブロッサムは蹴りを使わず蹴りの体勢で止まっている。

(止めなさい、止めなさい、私の暴走止めなさい。)

ブロッサム「止めなさい、止めなさい、私の暴走止めなさい!!!」

メントルは攻撃を繰り返すがブロッサムはしゃがみこんだ。

メントル「あっ!?!」

(休みなさい、休みなさい、パワーチャージだ休みなさい!!)

ブロッサム「休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!休みなさい!!」

メントル「ちくしょう!?!」

メントルは建物から飛び出し逃げ出した。

イクサ「待ちなさい!?!」

ブロッサムは走って追いかける。

(走りなさい、走りなさい、未来に向かって走りなさい!!)

ブロッサムはメントルを追いかける。

ブロッサム「走りなさい!!走りなさい!!走りなさい!!未来に向かって走りなさい!?!」

メントル「来るなああ!?!」

ブロッサムはメントルの前に回りこんだ。

(腕振りなさい、振りなさい、速くしなさい飛びなさい!!)

ブロッサム「腕振りなさい!!振りなさい!!速くしなさい!?!」

ブロッサムは腕振りにはメントルの溝に直撃する。

メントル「だあ!?!くそお!?!」

メントルはブロッサムに殴りかかるが

(跳びなさい!?!)

ブロッサム「跳びなさい!?!」

ブロッサムは跳びあがり攻撃をかわす。

メントル「なっ!」

ブロッサム「はあ!?!」

ブロッサムはメントルの顔面を蹴る。

メントル「ぐあ!?!」

しん王「つぼみちゃん強いゾ!?!よおし!?!」

「フルチャージ!?!」

しん王はしん王ソードを構え回転しながらメントルに突っ込んだ。

しん王「しん王大回ええええ〜ん!?!」

しん王は回転斬りをメントルに与えた。

メントル「ぐあ!?!」

ムーンライト「プリキュア!?!シルバーフォルテウエーブ!?!」

ムーンライトのフォルテウエーブはメントルを直撃した。

メントル「ぎゃあ!?!」

キバ「名護さん!?!」

イクサ「任せなさい!?!」

キバット「ウエイク・アップ!?!」

「イ・ク・サ・カ・リ・バ・ー・ラ・イ・ズ・アツ・プ」

風景がなんと夜になった、キバットは高く飛び上がりダークネスムーンブレイクを繰り出し、イクサはイクサジャッジメントを繰り出し見事メントルを消滅させた。

メントル「ぎゃあああああ……」

……

えりか「うん……」

いつき「あれ?」

しんのすけ「おお!?!起きたゾ!?!」

しんのすけはいつきに飛び付いた。

いつき「し、しんちゃん？僕達は……」

名護さん「渡、説明しなさい。」

事情説明……

えりか「そんな事が……」

つぼみ「でもイクササイズのおかげで何とかなりました。」

ゆり「イクササイズが役に立つとはね。」

名護さん「私に間違いはない。」

渡「さつすが名護さん!!」

えりか「そういえばつぼみ体重は？」

つぼみ「さつき計ったら5キロ減ってました。」

いつき「凄いね、イクササイズ。」

名護さん「当たり前です、つぼみ受け取りなさい。」

名護さんはDVDを渡した。

つぼみ「これは？」

名護さん「イクササイズDVD、いつでもやりなさい。」

つぼみ「ありがとうございます!!」

渡「じゃあ僕達の役目は終わりだね。」

名護さん「ああ、再会を楽しみにしなさい。」

ゆり「さようなら。」

つぼみ「ありがとうございました!」

.....

しんのすけの家

「腕振りなさい!!振りなさい!!速くしなさい!!跳びなさい!!」
「!」

蒼牙「な、何で!?!?!俺達まで!?!」

ラブ「はあはあ...わかんない!?!」

しんのすけ「十回連続は疲れるゾ...」

つぼみ「まだまだです!!」

のぞみ「りんちゃん...助けて...」

りん「あたしに...言うな...」

「走りなさい！！走りなさい！！未来に向かって走りなさい！！」

一同（つぼみ以外）「ひいやあああああああ！？」

つぼみ「名護さんは最高です！！」

つ
く
く

第22話 イクササイズを使いなさい（後書き）

ターザン「そういえば何でメントルは最初踏んづけられたんだ？」

いつき「笑いすぎて影から出てきてしまったんだよ。」

蒼牙「なるほど。」

次回予告！！

?????1「日向咲か？」

咲「えっ？はい、そうですけど。」

?????2「君を殺人容疑で逮捕する。」

舞「ええ！？」

アイリ「咲が殺人！？」

?????2「ああ！？」

蒼牙「刑事さん、不器用なんですね。」

?????2「そ、そんなはずがない。」

?????1「振り切るぜ！！」

次回、お楽しみに！！

第23話 咲が殺人！？

ある夜

酔っぱらいが夜道を歩いていた。

「ヒック・・・おっ？」

道の真ん中にある女の子が立っていた。

「君かわいいねえ・・・名前なんて言うの？」

酔っぱらいが女の子に近づいた、その時酔っぱらいは腹に激痛を感じた。

酔っぱらい「がっ!?!?・・・お前・・・」

酔っぱらいの腹にはナイフが刺さっていた、血が酔っぱらいの服に広がり倒れた。

???「私は・・・日向咲よ。」

酔っぱらい「あ・・・」

酔っぱらいはピクリとも動かなくなった、ただ死ぬ直前に地面に咲の名前を書いていた。

.....

翌朝、しんのすけの家、龍一は新聞を見ていた。

龍一「おいおい、この近くで殺人事件だってよ。」

つぼみ「殺人事件!？」

かれん「物騒ね。」

アイリ「見せて。」

アイリは龍一から新聞を見せてもらう。

アイリ「被害者男性は地面に犯人の名前らしき名前を書いていたんだって。」

なぎさ「どんな名前？」

龍一「そこまでは書いてないな・・・」

すると

奏「ねえみんな、咲と舞見なかった？」

りん「さつき蒼牙さんと一緒に買い物に行ったよ?どうしたの?」

せつな「あの三人財布忘れてるんだって。」

タクヤ「買い物で財布忘れるとか、万引きでもするつもりかよ。」

しんのすけ「割引?」

祈里「万引きね。」

アイリ「呆れた、私が届けてくるわ。」

奏「お願いします。」

.....

蒼牙「いやぁゴメンアイリ、わざわざ。」

アイリ「まったく、財布忘れるなんて有り得ないよ？」

アイリは蒼牙達を見つけ出し財布を渡した。

舞「良いじゃないですか。」

咲「解決したんですし。」

アイリ「はぁ、まあ良いわ、心配だから私も買い物付き合っわ。」

蒼牙「おっ！！助かるよ！！」

咲「蒼牙さんは荷物持ちね。」

蒼牙「ええ・・・」

するとそこに赤い服を着た男と黒い服を着た男が話しかけてきた。

?????「少し良いか？」

舞「えっ?」

どうやらその男達は警察のようだ。

???2「少し調査にご協力をお願いします、この紙に指を押し付けてほしいんです。」

アイリ「警察か・・・わかりました。」

4人は差し出された紙に指を押し付けた。

???2「ご協力ありがとうございます。」

蒼牙「いえいえ。」

4人は警察と別れ買い物に行こうとしたが、またさっきの警察に呼び止められた。

蒼牙「今度はなんですか?」

赤い服の警察が咲に話しかけた。

???1「その茶髪の女、名前は?」

咲「名前?日向咲ですけど。」

???2「日向咲!??」

警察は驚き少し話し合った後

舞「どうしたんですか？」

すると赤い服の警察は咲の腕を掴みだした。

咲「痛っ！！」

????1「日向咲、殺人容疑で逮捕する。」

咲はいきなり手錠をかけられてしまった。

舞「ええ！？」

蒼牙「ちよつと！！何を証拠に！？」

????2「あなた達はこの辺りで起こった殺人事件をご存知ですか？」

黒い服の警察が問いだした。

アイリ「今朝新聞で見ましたけど・・・」

????1「遺体に凶器があつてな、指紋がついていた、今取った指紋を調べた結果、こいつと完全に一致した。」

舞「そんな・・・何かの間違いですよ！！」

しかし

????1「被害者の残したダイニング・メッセージには血でかかれ

ていた、日向咲とな。」

咲「そんな、私知らない!!！」

????2「あなた達も署までご同行を願います。」

蒼牙「わかりました。」

咲「みんな・・・私・・・」

するとアイリが

アイリ「大丈夫、私達はあなたを信じてるから。」

舞「安心して。」

するとアイリはしんのすけの家に戻ったそして一同は警察署に向かった。

春日部警察署

????1「俺は照井竜、この事件の担当をするために風都からやってきた。」

????2「僕は氷川誠です。」

咲「私本当に知りません!!！」

咲は容疑を否定する、すると照井が写真を数枚取り出す。

竜「無理に見るとは言わない。」

咲「!?!?」

咲はすぐに目をそらした、残酷な遺体の写真だったからだ。

咲「うう・・・」

誠「気分を悪くしてしまったかな？」

咲「だ、大丈夫です。」

竜「これにはダイニング・メッセージしか写っていないから安心しろ。」

咲はその写真を見た、確かに血で日向咲と書かれていた。

咲「そんな・・・」

竜「先ほどの指紋も一致した、どうする？言い逃れできるか？」

誠「照井さん、そんなに追い込まなくても。」

竜「まあ良い、とりあえず今日はここで大人しくしてもらおう。」

・・・

咲は1日牢屋で過ごす事になった。

警察「少しだけだぞ。」

舞と蒼牙が面談に来たのだ。

舞「咲。」

咲「舞に蒼牙さん・・・私本当にやってないよ。」

蒼牙「そんなのわかってるよ、咲はそんな事しない。」

蒼牙は咲を慰める。

咲「ありがとう蒼牙さん。」

すると氷川が咲の所に何かを持ってきた。

誠「すいません、照井さん結構きつい人なんで。」

咲「あつ、いえ。」

舞「すぐに帰ります!!」

誠「まだ大丈夫ですよ、良かったらカツ丼食べていきませんか？照井さんどっか行っちゃって余ってしまつて。」

蒼牙「え・・・じゃあ、お言葉に甘えて・・・」

咲と舞と蒼牙は割り箸を綺麗に真っ二つに割る、しかし

誠「あつ・・・」

氷川の割り箸は真つ二つどころか片方だけ折れてしまった。

蒼牙「氷川さん、不器用なんですね（汗）。」

すると氷川の眉毛がピクリと動いた。

誠「不器用？・・・そんなはずありません、今は単なる練習です
！！」

氷川はもう一膳の割り箸を割ろうとするが今度は両方折れてしまっ
た。

誠「あ・・・」

蒼牙「・・・」

舞「・・・」

咲「・・・」

・・・

その一方、照井はバイクを走らせ殺人現場に訪れた。

竜「妙だな・・・わざわざダイニング・メッセージをフルネームで
書くだろうか？ただでさえ絶命寸前に・・・」

ふと後ろを見るとそこに咲がいた。

竜「！！？お前、脱獄したか！？」

咲? 「ここにいるならそうなんじゃない?」

咲? は手をかざすと辺りが炎に包まれた。

竜 「なんだこれは!？」

咲? 「ふふっ、どうする?」

照井は何やらバイクのハンドルのようなベルトを装着し、赤いAのインシヤルがかかれたメモリを取り出した。

竜 「どうやら言ってもわからないみたいだな、手加減はしないで。」

咲 「ご自由に」

竜 「さあ思い切り、振り切るぜ。」

「アクセル!!」

じじく

第24話 正体（前書き）

前話を少し編集しました。

第24話 正体

「アクセル!!」

竜「変・・・身!!」

照井はメモリをベルトに入れると赤い装甲に青いゴーグルの仮面ライダー、アクセルに変身した。

咲? 「へえ、仮面ライダーアクセルかあ、面白い。」

アクセル「お前ドーパントか!？」

咲? 「あんな下等な奴らと一緒にしないでよ。」

咲? は手をかざし爆発を起こす、アクセルはそれをかわし灰色のメモリをエンジンブレードに差し込んだ。

「エンジン!!」

咲? は次は火球を連射する、アクセルはエンジンブレードの引き金をひいた。

「エレクトリック!!」

エンジンブレードから電気が発せられ火球を打ち消した。

アクセル「はああああ!!」

アクセルは咲？の前まで走り出しエンジンブレードを振り下ろすが顔の寸前で止める。

アクセル「どうやって脱獄した！？何故あの男を殺した！？」

すると咲？はとんでもない事を言った。

咲？「あんな男1人死んだところで誰も悲しまないでしょ？」

アクセル「きつ、貴様あ！！」

すると咲？はアクセルの腹部に手をかざし爆発を起こし吹き飛ばされた。

アクセル「ぐあああああ！！？」

.....

咲が捕まっている牢屋

蒼牙「結局スプーンとフォークで・・・」

誠「問題ありません！！」

咲「あはは・・・」

舞「じゃあ私達はそろそろ・・・」

すると氷川の携帯電話が鳴った。

誠「すみません、はい氷川です・・・照井さん!？」

電話の主は照井だった、とても焦っている声をしていた。

竜『日向咲に襲われている!脱獄したんだ!!』

誠「えっ?・・・そんな事ありません!僕はずっと咲さんと話をしていました、脱獄なんてできるはずが!？」

竜『何!??ぐああ!??』

竜の声が途絶えてしまった。

誠「照井さん!？」

蒼牙「どうしたんですか?」

誠「照井さんが・・・咲さんにやられたと・・・」

一同はワケが分からなかった。

舞「どういう事ですか!?!咲はずっとここで・・・」

誠「僕も信じられません、今調べてきます!!」

すると

蒼牙「俺も行かせてください!!」

誠「ダメです!!市民を危険なめにあわせるのは・・・」

舞「大丈夫です！！行かせてください！！」

氷川は2人の熱意についに折れた。

誠「わかりました、しっかりついてきてください。」

.....

三人は犯行現場にたどり着いた、そこにはアクセルと咲？がいた。

誠「照井さん！！」

蒼牙「えっ！？照井さんって仮面ライダーだったの！？」

舞「さっ、咲！？」

咲？「あああ、来たんだ。」

アクセル「日向咲は牢屋にいたのか？」

誠「はい、あれは偽物です！！」

蒼牙「正体を現せ！！」

咲？「はいはい。」

すると咲？の姿は何やらスライムのようになりとてもスマートな体型の怪人になった。

「私はコピランと言います。」

舞「コピラン？」

アクセル「擬態していたか!？」

そう、殺人を行った犯人は咲に擬態した怪人・コピランだった。

コピラン「私これから用事あるからじゃあね。」

蒼牙「待て!？」

しかしコピランは姿を消してしまった。

蒼牙「くそっ!！」

.....

咲「あたしに化けてた!？」

蒼牙「メデューサの怪人だ、擬態能力を持ってた。」

誠「本当にすいません、冤罪のような形になってしまい.....」

竜「また俺は.....別の人を.....」

しかし咲は慌てて言った。

咲「良いんですよ!!--悪いのはコピコピだから!!--」

舞「コピランね？」

咲「あつ、うん。」

蒼牙「にしても擬態とは厄介だな。」

誠「確かに・・・」

すると一人の警察官が

警察官「氷川さん、例の物が届きました!!」

誠「本当に!？」

氷川は歓喜の喜びを感じた。

竜「何だ？例の物とは？」

誠「後で教えます、咲さんはもう釈放して大丈夫ですよね？」

竜「ああ、本当にすまない。」

咲は牢屋から出た。

咲「本当に大丈夫ですからね!？」

蒼牙「まずは帰るか。」

.....

辺りはすっかり暗くなっていた、蒼牙達はしんのすけの家に帰った。

蒼牙「ただいま帰りましたよお。」

アイリが出迎えた。

蒼牙「アイリ、みんな何て？」

アイリ「うん、咲が殺人容疑って事伝えたらみんなかなり驚いてたわ、あれ？咲大丈夫なの？」

三人は今までの経緯を話した。

アイリ「犯人は咲に擬態してた!？」

しんのすけ「咲ちゃん!」

なぎさ「大丈夫!？」

咲「うん、心配かけてごめんなさい・・・コピコピ許せない!」

蒼牙「コピランな。。」

咲「あつ、はい。」

.....

翌日、咲、舞、蒼牙の3人は殺人現場に行った。

舞「何でここに？」

蒼牙「犯人は現場に戻るって言っし・・・いや、もういるみたいだ。」

咲「えっ!?!」

辺りを見渡すが電柱、ゴミ箱以外は見つからない。

舞「どこにいるんですか?」

蒼牙「これこれ、こんなの昨日なかった・・・よ!?!」

蒼牙はゴミ箱を思い切り蹴り飛ばした、するとゴミ箱がスライム状になりコピランの姿になった。

コピラン「痛っ!?!蹴り飛ばしたなあ!?!」

蒼牙「蹴り飛ばしたさ、変身!?!」

蒼牙はヤイバに変身し剣を構える。

咲「舞!?!」

舞「うん!?!」

「デュアル・スピリチュアルパワー!?!」

2人は手を繋ぎクリスタルコミュニケーションで変身した。

ブルーム「輝く金の花!?!キュアブルーム!?!」

イーグレット「煌めく銀の翼！！キュアイーグレット！！」

「ふたりはプリキュア！！」

イーグレット「聖なる泉を汚す者よ！！」

ブルーム「悪戯な真似はお止めなさい！！」

コピラン「覚悟しな！！」

コピランは3人に飛びかかる。

ヤイバ「お前がな！！」

ヤイバはコピランの攻撃を受け流し剣で斬りつける、そしてそれに続きブルームとイーグレットがコピランを蹴り飛ばした。

コピラン「うわぁ！？」

ヤイバ「何だよ、大した事ないな。」

ブルーム「あなたには恨みがあるから覚悟してよコピコピ……」

イーグレット「コピランね。」

するとコピランは立ち上がり、3人に向かい合う。

ブルーム「うりゃあ！！」

ブルームがコピランに殴りかかった、しかし

コピラン「コピーー!?!」

コピランはなんとあの金融会社のCMに出てきそうな犬に変身したのだ。

ブルーム「えっ!?!」

ブルームは拳を止める、犬に擬態したコピランが輝かしい瞳でブルームを見つめる。

ブルーム（え〜・・・可愛い!?!いやっ、でも敵よ!?!倒さないと・・・でも可愛い〜）

ブルームは既に輝かしい瞳に精神をやられてしまいほわほわになっていた。

イーグレット「ブ、ブルーム!?!」

ヤイバ「おいおいまじかよ。」

するとコピランは犬からキントレスキーに擬態しほわほわになったブルームを殴り飛ばした。

ブルーム「きゃあ!?!」

ヤイバ「ああ咲!?!」

すると何やらバイクが現れた、そしてなんとアクセルに変形し咲を

受け止めた。

コピラン「お前は!?!」

アクセル「悪いな、振り切らせてもらっつ。」

ヤイバ「照井さん!?!バイクに変形できるんすか!?!」

イーグレット「ブルーム!!大丈夫!?!」

ブルーム「うう、あんなに可愛かったのにあんなのになるなんて」
(涙)

コピラン「ふん、馬鹿ね、このまま死んでもらっつよ!」

しかし、何やらサイレンが鳴り響く。

イーグレット「何?」

アクセル「どうやら死ぬのはお前のようだな。」

サイレンの音はパトカーのようなバイクであり、そこには青い装甲でオレンジの複眼のごつい体のライダーが乗っていた。

????「遅れました。」

コピラン「何だあんたは!?!」

ブルーム「その声……まさか氷川さん!?!」

そう、そのライダーは氷川誠が変身、いや正確にはライダーをモチーフに人口的に作られた装着ライダーシステム、G3-Xだ。

G3「みなさん、協力してください!!」

ヤイバ「もちろん!!」

G3-Xはバイクに積んである四角い物を取り出しボタン入力をする。

「バンゴウガチガイマス」

G3「あつ、違うこつだ。」

一同「(汗)」

「カイジヨシマス」

四角い物は何とガトリングガンに変形した、アクセルは信号機のようなランプがついた青いメモリを取り出しベルトに差し込んだ。

「トリアルル!」

すると赤いアクセルは黄色へとかわりそしてごつい装甲が無くなりスマートな姿で複眼がオレンジの仮面ライダーアクセルトリアルへと姿を変えた。

ヤイバ「おお、よし俺も!!」

ヤイバは赤い不死鳥のような形の物をベルトに取り付けた。

「change SUN!!」

するとヤイバの赤い複眼は黄色にかわり緑色の装甲は赤になり仮面は赤い翼のような物に変わった、これが太陽の力を得た仮面ライダーヤイバ・サンモードだ。

ブルーム「行くよイーグレット!!」

イーグレット「うん!!」

ブルームとイーグレットは月の光の戦士キュアブライト、大地の風の戦士キュアウィンディに姿を変えた。

G3-Xはガトリングガンをコピランに向けて連射する。

コピラン「うわわわ!?!」

コピランは慌ててかわすがヤイバが炎の剣でコピランを切り捨てた。

ヤイバ「はあ!!」

コピラン「ぐあ!?!」

そしてブライトとウィンディは光弾を飛ばした。

コピラン「ぎゃあ!?!おのれえ!!」

コピランはヤイバを殴り飛ばし、ブライト、ウィンディを蹴り飛ばし、G3-Xとアクセルを爪で斬りつけた。

「うわあああ!?!」

コピラン「終わりだあ!?!」

G3「まだだ!?!」

G3-Xはガトリングガンにミサイルのような物を取り付け発射しコピランを吹き飛ばした。

コピラン「ぎゃあ!?!このお!?!」

するとアクセルはトリアルメモリを外し変形させボタンを押す、メモリのタイマーが動き出したと同時にメモリを上空に投げ瞬間的にコピランの目の前まで移動し連続蹴りを繰り返す。

アクセル「終わりはお前だ!?!」

コピラン「ふん、こんな蹴りなんとも・・・」

アクセル「どうかな!?!」

アクセルの蹴りは徐々にスピードを増していき目ではついていけない速さにまで達する。

ヤイバ「うえええ!?!」

ブライト「なっ、何が!?!」

ウィンディ「起こってるの!?!」

二人はバイクに乗り去って行った。

.....

翌日、榊原がしんのすけの家に来て来た。

龍一「榊原じゃん!？」

つぼみ「お久しぶりです!!」

榊原「久しぶり、あれ?初めてなのもいるな。」

響「はい、北条響です。」

奏「南野奏です。」

蒼牙「榊原さん、他の所の時間はどうですか?」

榊原「ああ、確かにここ以外は時間が止まってる。」

こまち「そうですか.....」

龍一「しかしメデューサアジトが見つからない.....これじゃあしんのすけの父さんも母さんも友達の親も助けられない。」

榊原「どういう事だ?」

蒼牙達は榊原に経緯を話した。

榊原「そうか.....俺もしばらく春日部市で過ごす事になった。」

のぞみ「ええ！？でももう部屋無いですよ!？」

榊原「ああ、またずれ荘ってところ借りたから大丈夫だ。」

しんのすけ（あそこを借りたの!？）

しんのすけが珍しく心の中で突っ込んだ。

ひかり「とにかく、今はアジトがわかるまで待ちましょう。」

龍「だな。」

すると

しんのすけ「榊原おじさん!!明日これに連れて行って!!」

榊原「おじさん!?!?!まあ良いや、アクション仮面ショー?」

アイリ「また!?!」

しんのすけ「ねえ良いでしょ?」

子供の要望は何故か断れない榊原。

榊原「わかったよ。」

しんのすけ「ほっほい!!」

するとゆりが

ゆり「私達も明日は少し留守にするわ。」

龍「何でだ？」

美希「ちよつと事情がね。」

ラブ「心配しないで。」

蒼牙「わかった。」

.....

その翌日、空は不気味な空気が広がりそこから大量のメデューサの物ではない怪獣達が現れた、アイリはしんのすけの家で待機している。

ヤイバ「はあああああ！！！」

ケン「でやああああ！！！」

その怪獣達と死闘を繰り広げる二人、そして別世界では違う存在の戦士たちが同じように戦い、また別世界では違う存在のプリキュアと女戦士達が最悪の存在・ヤマタノオロチと戦っていた、全世界を守るために。

UJU

第24話 正体（後書き）

次回のお話はヤマタノオロチとの戦いの後の話になります。

ヤマタノオロチについてはプリキュアオールスターズDX2 TH

E LAST をご覧ください。

第25話 発見！メデューサアジト！！（前書き）

今回で歴代ライダー派遣計画は終了です、ですがご希望のライダーは次回作に登場させる予定です！

第25話 発見！メデューサアジト！！

メデューサアジト

ビョーザ「ついにバレンシステムが完成した！！」

アバタ「ちゃんと人間に扱えるよう調整してるだろうな？」

メデューサはついに野原ひろしを操り変身させている仮面ライダーバレンのシステムを完成させたのだ。

ビョーザ「大丈夫、私に間違いはない。」

アバタ「任せたぞ。」

.....

馬のしり公園

しんのすけ「うーん、やっぱりチョコビは格別ですな。」

祈里「あたしもチョコビ好き。」

美希「私は食感が苦手だなあ。」

せつな「はい、ラブあーん。」

ラブ「あーん、ん〜せつなに食べさせてもらって幸せゲット！...」

「???? いちやいちやするな!」

と???? はハリセンでラブとせつなをひっぱたく。

せつな「痛っ!」

ラブ「うっ! ? もう勇奈さんひどい。」

彼女は星川勇奈、ある世界からしばらくの間こちらの世界に滞在している20歳の女、彼女はキュアコスミック、数少ない大人のプリキュアである。

祈里「それよりこれからどうする?」

ラブ「うくん、なんだかんだでしんちゃんとかアクション仮面のシヨ
ーを見て今にいたるからねえ・・・」

するとせつなの足になにかがぶつかった。

せつな「ん?」

せつなはなにかを拾い上げる、銀色のメダルだ。

勇奈「何それ?」

美希「メダル・・・よね?」

せつな「うん。」

するとミルク缶のような物をしよった男が現れた。

「???」ああと、「ごめんごめんそれ俺のなんだよね。」

せつな「あ、はい。」

せつなは????にメダルを渡す。

「???」ごめんね、じゃあ!!

「???」が去ろうとすると勇奈が

勇奈「ちよつとあんた!!

「???」えっ?

しんのすけ「どうしたの勇奈ちゃん?

勇奈は????を指差した。

勇奈「あんた・・・仮面ライダーでしょ?

一同は驚愕した、勇奈は????の発するオーラを感じ仮面ライダーだと確信したのだ。

「???」あちやく、バレた?

祈里「あなたは一体・・・」

「???」俺は伊達明。」

しんのすけ「伊達巻きラー？」

????「誰が伊達巻きだよ!?!?伊達明!?!?!」

ラブ「あなたも仮面ライダーって・・・」

明「も?・・・お仲間には仮面ライダーがいるのかい？」

美希「はい。」

するとしんのすけが凄く偉そうに

しんのすけ「オラだゾ!」

明「マジ!?!」

ラブ「仮面ライダーならメデューサのアジトを知ってるんじゃない?」

明「面倒だ?」

勇奈「しんちゃんと同じ事言ってるし!?!」

明「とりあえずここじゃ難だからさ、ついてきてよ。」

一同「?」

一同は言われるがままに明についていく。

.....

おでん屋

しんのすけ「おお、おでんだゾ!!」

せつな「何でおでん?」

明「好物だからさ、とりあえず話をしよう。」

ラブ達と明は互いに事情を話し合った。

明「へえ、大変だねえ。」

美希「ていうか一億稼ぐのも大変ですよ。」

すると明は

明「アジトかどうかはわからないけど怪しい施設なら見たことある
ぜ、案内するよ?」

勇奈「本当に!?!」

しんのすけ「やったあ!!ありがとうだてまくらさん!!」

明「だから伊達明だつて!」

一同は明の案内である広場にやって来た。

せつな「何にも無いですよ?」

明「まあ見てなつて。」

すると明はベルトを巻き銀色のメダルを指で弾き飛ばしキャッチする。

明「変身。」

明はメダルをベルトに入れベルトについているしぼりを回すと気の抜けるような音と共にその姿はメタリックな姿になった。

明「仮面ライダー・・・え〜と・・・バースだっけな？」

勇奈「聞かれても（汗）」

バースは銀色のメダルをベルトに入れしぼりを回す。

「ドリル・アーム」

するとバースの腕にドリルが装着された。

一同「おお！！！」

バース「よつと！！！」

バースはドリルで穴を掘る。

バース「よし、これでアジトっぽい所に行けるよ、報酬ってある？」

祈里「ほ、報酬？」

ラブ「ま、まずい・・・」

バース「ええ！？ただ働き！？」

すると突然数体の怪人・ヤミーが現れた。

勇奈「怪人！？」

しんのすけ「おお！？」

バース「よし、これが報酬って事で！！」

バースはドリルでヤミーを攻撃する、ヤミーから出てきたメダルが磁石のようにドリルに吸い尽く。

バース「よし、最後！！」

バースはメダルを一枚ベルトに入れた。

「ブレスト・キャノン」

バースにキャノン砲が装着されさらに二枚のメダルをベルトに入れた。

「セル・バースト」

そしてキャノン砲が発射されヤミーを全滅させた。

バース「大量大量！！」

バースはメダルをベルトに入れた。

「クレーン・アーム」

装着されたクレーンにメダルが吸い付きバースはミルク缶に入れた。

バース「じゃあな。」

バースはそのままミルク缶を担ぎ去って行った。

しんのすけ「行っちゃったゾ。」

祈里「とりあえずメデューサアジトがわかったならみんなに・・・」

すると突然地震が起きた。

せつな「なっ、何!?!」

すると地面からモグラのような怪人が現れた。

モグラ怪人「せつかくの眠りを妨げるとは、いい度胸だ!?!」

勇奈「何よあんた!?!」

モグラ怪人「俺はホッサーだ、死んでもらう!?!」

ホッサーは数体の怪人を呼び出し一同に襲いかかった。

ラブ「うわあ!?!」

勇奈「くっ、みんな!！」

ラブ達「うん!！」

しんのすけ「ほい!！」

「チェインジ!！プリキュア!！ビィイイト・アアアップ!！」

しんのすけ「変・・・体!！」

勇奈「プリキュア!！コズミックチャージ!！」

勇奈は眩い光に包まれて輝かしい流星をイメージさせる姿に変わった。

「平和を守護する星の輝き!！キュアコズミック!！」

しんのすけは紫色のスーツに身を包んだ。

しん王「オラ!！参上!！」

ラブ達は光に包まれて姿を変えた。

ピーチ「ピンクのハートは愛あるしるし、もぎたてフレッシュ!！
キュアピーチ!！」

ベリー「ブルーのハートは希望のしるし、摘みたてフレッシュ!！
キュアベリー!！」

パイン「イエローハートは祈りのしるし、とれたてフレッシュ!！」

キュアパイン！！」

パッション「真つ赤なハートは幸せの証、熟れたてフレッシュ！！
キュアパッション！！」

ピーチ「レッツ！！」

「プリキュア！！」

コズミック「モグラはまかせて怪人達をお願い！！」

ピーチ「わかった！！」

ベリー「行くわよ！！」

パイン「手加減はしない！！」

パッション「覚悟しなさい！！」

しん王「レッツおしんこお！！キュウリのぬか漬けええ！！」

つづく

第25話 発見！メデューサアジト！！（後書き）

次回、戦いそして・・・ついに奴が姿を現す。

第26話 最強の敵

ピーチ「はあ!!」

ベリー「やあ!!」

パイン「だあ!!」

パッション「たあ!!」

しん王「ほっほあい!!」

5人はホッサーの怪人をなぎ倒していく、しかし怪人も反撃にでる、
実力は互角といったところだ。

ベリー「なかなか手強いわね!!」

パッション「でも私達が力を合わせれば!!」

しん王「勝てるゾ!!」

パイン「頑張ろう!!」

ピーチ「うん!!みんなで幸せゲットだよ!!」

プリキュア達は徐々に怪人達を圧倒していった。

ピーチ「プリキュア!!ラブサンシャイイン・・・」

ベリー「プリキュア!!! エスポワールシャワア・・・」

パイン「プリキュア!!! ヒーリングプレアア・・・」

パッション「プリキュア!!! ハピネス!!!」

ピーチ、ベリー、パイン「フレエエエツシュ!!!!!!!」

パッション「ハリケエエエン!!!!!!!」

プリキュアのエネルギーが怪人達を包み込み消滅させた。

しん王「行くゾ!!!」

「フルチャージ!!!」

しん王は高く飛び上がりキックをするかと思いきや怪人に虹色輝くおりを向け突っ込んできた。

しん王「しん王けっだけアアアアアツク!!!!!!!」

その下品さとは裏腹にかなりの力があり怪人を消滅させた。

ホッサー「貴様見たことないな。」

コズミック「この世界じゃ実戦は初めてだからね。」

ホッサーは爪を立てコズミックを斬りつけようとするがコズミックはそれをかわす、ホッサーはすかさず連続攻撃を仕掛けるが全てかわされてしまう。

ホッサー「逃げてばかりか!？」

コズミック「いえ?ただ体を温めてるだけよ、あなたこそ本気?あ
くびがでるわね。」

ホッサー「この!?!」

ホッサーは渾身の一撃を繰り出すがコズミックにあっさりかわされ
てしまい懐を思い切り殴られてしまった。

ホッサー「がはっ!?!」

コズミック「まずは一発」

その後も同じ展開を繰り返した、それを見ていたピーチ達は啞
然としていた。

パッション「す、凄い。」

ピーチ「メデューサの怪人をあんなにあっさりと追い詰めてる。」

しん王「勇奈ちゃんかつちよいい」

ホッサー「おのれ……」

コズミック「もう終わり?」

ホッサー「だまれえ!?!」

ホッサーはコズミックに飛びかかってきた、コズミックは拳に輝かしい光のエネルギーを集める。

コズミック「プリキュア！！コズモブレイカー！！」

コズミックの光の拳がホッサーの体を貫いた。

ホッサー「ぎゃあああ！？」

ホッサーは消滅した。

ベリー「これは心強い助っ人ね。」

ピーチ「凄いよコズミック〜！！」

ピーチはコズミックに抱きつく。

コズミック「ち、ちよっとピーチ・・・！！！！」

ピーチ「どうしたの？」

コズミック「・・・何か来る！？」

すると気がつけば目の前にはしんのすけの父親、ひろしが立っていた。

しん王「父ちゃん！？」

パッション「あれがしんちゃんのお父さん？」

ひろしは緑のベルトを取り出した。

ひろし「変身。」

「ggreen collar」

ひろしはベルトを装着すると緑色の光に包まれ仮面ライダーバレンに変身した。

ベリー「確か操られてるのよね?」

ピーチ「だったら何とかしないと。」

コズミック「行くわよ!」

しん王「父ちゃんをお助けするゾ!」

6人は一斉にバレンに飛びかかった、しかしバレンは手を振り上げるとまるで竜巻の中にいるような風が起こり吹き飛ばされてしまった。

一同「きゃあああ!?!」

バレン「全てはメデューサのために、死んでもらう。」

コズミック「そうはいかないわ!!パイーン!!」

パイーン「はい!」

コズミックとパイーンはバレンに向かって連続攻撃を仕掛ける。

コズミック「はあああああ!!」

パイン「てやあああああ!!」

しかしバレンは二人の攻撃を片手で受け止めていた。

ピーチ「全部受け止めてる!?!」

ベリー「そんな!?!」

コズミック（なっ、何で!?!どこを攻撃しても当たらない!?!）

パイン（しかも二人で攻撃してるのに!?!）

バレン「身のほど知らずが。」

バレンは手にエネルギーをためる。

コズミック「まずい!?!パイン避けて!?!」

パイン「えっ!?!」

しかし遅かった、バレンは手を突き出しパインの腹に突き刺したのだ。

パイン「がつ……!?!」

パッション「パイン!?!」

しん王「祈里ちゃん!？」

バレンが手を抜くとパインは血を吐き出して倒れた。

コズミック「プリキュア!!!コズモブレイカー!!!」

しかしバレンはコズミックの技をかわす、コズミックはその隙にパインを抱きかかえる。

コズミック「パイン!!!しっかりして!!!パイン!!!」

パイン「あ・・・ああ・・・」

バレン「急所は外した、感謝しろ。」

するとベリーが

ベリー「感謝ですって・・・ふざけないで!!!」

ベリーはベリーソードを構えバレンに飛びかかった。

ベリー「プリキュア!!!エスポワールシャワーアフレエエエッシユ!!!」

ベリーはエスポワールシャワーフレッシュを放ったがバレンは片手でそれを叩き落とした。

ベリー「そんな!？」

バレンは手を振り上げかまいたちを起こしベリーを切り裂いた。

ベリー「ああああ!?!」

ピーチ「ベリー!?!」

ピーチとしん王とパッションがベリーに駆け寄り、ベリーは様々な箇所から血を流し苦しんでいた。

バレン「終わりにしよう。」

バレンは紫色のベルトに巻き変えた。

「purple collar」

バレンは紫色の体にかわり毒煙を放った。

しん王「毒だゾ!?!」

パッション「プリキュア!!!ハピネスハリケエエエエ!!!」

パッションはハピネスハリケーンで毒煙を払いのけた。

バレン「ほう。」

しん王はしん王ソードの治癒力でパイン、ベリーの傷を完全までではないがふさいだ。

しん王「オラにはここまでしか・・・」

パイン「大丈夫よ・・・しんちゃん。」

ベリー「完璧・・・よ。」

するとピーチが

ピーチ「みんな！！グラウンドファイナールで行こう！！」

ベリー、パイン、パッション「わかった！！」

しん王「オラがお助けするゾー！！」

しん王はベルトのバックルを顔につけはな　ずをバレンの足に飛ばし動きを拘束した。

バレン「！？」

ピーチ「行くよ！！クローバーボックスよ、私達に力を貸して！！プリキュアフォーメーション！！」

ピーチ達は一斉に体勢を整える。

ピーチ「レディ・・・ゴー！！」

ピーチ達は一斉に走り出した。

パッション「ハピネスリーフ！！セット！！パイン！！」

パッションは赤いハートをパインに投げ渡す。

パイン「プラスワン！！プレアアリーフ！！ベリー！！」

ベリー「プラスワン！！エスポワールリーフ！！ピーチ！！」

ピーチ「プラスワン！！ラブリーリーフ！！」

すると巨大な四つ葉が完成しピーチ達はそれぞれの立ち位置に立ち、バレンを囲むとバレンはクリスタルに包み込まれた。

「ラッキークローバー！！グランドファイナーレ！！」

プリキュアはクリスタルに力を込める、しかし

ピーチ「はあああああ！！！」

ベリー「はあああああ・・・！！！」

パッション「はあああああ！！！」

パイン「はあああ・・・うつ・・・ああ！？」

パインとベリーが体勢を崩してしまった、傷口が開いてしまったのだ、クリスタルは砕けてしまいバレンを拘束している物も消滅してしまった。

ピーチ「ベリー！！パイン！！！」

バレン「愚かな、まだ力の半分も出していない。」

パインに駆け寄り一同は驚愕した。

コズミック「力の……」

ベリー「半分も……」

パッション「出していない!？」

バレンは見たことの無い色のベルトを取り出した。

バレン「見せてやろう、力の半分を。」

「ORANGE collar」

バレンは橙色のベルトを巻くと橙色の体に変わった。

ピーチ「オ、オレンジ色？」

バレンはバルカン砲のような銃を取り出しオレンジ色の弾丸を打ち出した、それはピーチの肩を貫いき血をだしながら倒れた。

ピーチ「きゃあ!？」

コズミック「ピーチ!？」

バレン「これが私の武器・バレガンだ、終わりにしよう。」

バレンはバックルから謎のチップを取り出しバレガンに差し込んだ、すると太陽のような熱を帯びた光弾が銃口に現れ徐々に大きくなっていく。

しん王「父ちゃんやめて!?!」

コズミック「くっ!!!」

コズミックは星のように輝くバリアをはった。

バレン「無駄だ。」

バレンは光弾を打ち出した、そしてコズミックのバリアはそれに触れる前に熱で溶けてしまった。

コズミック「あっ・・・」

そして光弾は巨大な爆発を起こし消滅した。

バレン「ふん。」

バレンはそう言って消えた、しかしバレンは気づいていた緑色の鋼鉄がプリキユア達をかばっていたのを。

つづく

第26話 最強の敵（後書き）

次回、あのロボット登場！！

第27話 いざ、アジトへ！！

バレンの必殺技で起こった砂煙が徐々にはれていく。

コズミック「う．．．あれ？」

しん王「オラ達助かってるゾ？」

パッション「どうして．．．あつ！？」

砂煙からコズミック達をかばうように立っている巨大が見えた、ロボットのようだ。

????「大丈夫かい？」

パッション「あなたは？」

するとしん王は

しん王「おお！？？カンタムロボ！！！」

しん王はカンタムロボと呼ばれるロボットにしがみついた。

カンタム「やあしんのすけ君。」

コズミック「カンタムロボ？」

そう、緑色の鋼鉄の巨大の正体はカンタムロボというロボットだった。

しん王「カンタムロボはアクション仮面と同じオラ達の味方だゾ！
！守ってくれてありがとう！！」

カンタム「うん、だがかなり力を使ってしまった、すこし回復させないと、それにその子達も。」

ピーチ、ベリーは傷口を抑え苦しんでいたがパインは特にまずい状況にあった。

パッション「しんちゃん！！」

しん王「ほっほい！！」

しん王の力で何とか傷口をふさいだ三人、すこし安静にさせるためにしん王達は家に向かった。

.....

メデューサアジト

アバタ「バレン、どうだ完成した力は？」

バレン「力の半分で奴らを倒した。」

ビョーザ「なるほど、まだインディゴカラーは使ってないんですね？」

バレン「さすがにあの力は使う時ではないからな。」

アバタ「だが奴らが来るのも時間の問題だな。」

バレン「安心しろ。」

.....

しんのすけの家

蒼牙「そんな事が・・・」

しんのすけ達は家に戻り事情を説明した。

勇奈「バレン・・・恐ろしかったわ、手も足も出なかった。」

かれん「しんちゃんの治療力が無かったら危なかったわ、特に祈里は。」

タクヤ「絶対安静だな・・・ていうかよ、カンタムさん。」

カンタム「なんだい？」

タクヤはカンタムの肩に手をのせる。

タクヤ「固いしデカいな。」

カンタム「ロボットだからね。」

のぞみ「カンタムさん！！もし体が良くなったら、一緒にメデューサアジトに行ってくださいませんか！？」

のぞみはカンタムに頭を下げた。

アイリ「私からも頼みます。」

アイリも頭を下げた。

カンタム「もちろんさ。」

しんのすけ「わあい！！ありがとうカンタムロボ！！」

.....

数日後、勇奈以外の一同はアジトへつづく穴へ向かった。

りん「勇奈さんは？」

龍「やることあるってどっか行ったぜ？」

カンタム「仕方ない、私達だけで行こう。」

ラブ「はい！！行くよみんな！！」

「デュアル・オーロラウェーブ！！」

「ルミナス！！シャイニングストリーム！！」

「デュアル・スピリチュアルパワー！！」

「プリキュア！！メタモルフォーゼ！！」

「スカイローズ・トランススレイト!!」

「チェインジ!!プリキュア・ビートアップ!!」

「プリキュア!!オープンマイハート!!」

「レッツプレイ!!プリキュア・モジュレーション!!」

「プリキュア!!スキヤニング・チェンジ!!」

「変身!!」

「変・・・体!!」

一同は光に包まれ変身した。

ブラック「光の使者!!キュアブラック!!」

ホワイト「光の使者!!キュアホワイト!!」

「2人はプリキュア!!」

ホワイト「邪悪な力の僕達よ!!」

ブラック「とつととお家に帰りなさい!!」

ルミナス「輝く命!!シャイニールミナス!!光の心と光の意志、
全てをひとつにするために!!」

ブルーム「輝く金の花!!キュアブルーム!!」

イーグレット「煌めく銀の翼！！キュアイーグレット！！」

「2人はプリキュア！！」

イーグレット「聖なる泉を汚す者よ！！」

ブルーム「阿漕な真似は、お止めなさい！！」

ドリーム「大いなる希望の力！！キュアドリーム！！」

ルージュ「情熱の赤い炎！！キュアルージュ！！」

レモネード「はじけるレモンの香り！！キュアレモネード！！」

ミント「安らぎの緑の大地！！キュアミント！！」

アクア「知性の青き泉！！キュアアクア！！」

「希望の力と未来の光！！華麗に羽ばたく5つの心！！YES！！
プリキュア5！！」

ピーチ「ピンクのハートは愛あるしるし！！もぎたてフレッシュ！！
キュアピーチ！！」

ベリー「ブルーのハートは希望のしるし！！摘みたてフレッシュ！！
キュアベリー！！」

パイン「イエローハートは祈りのしるし！！とれたてフレッシュ！！
キュアパイン！！」

パッション「真つ赤なハートは幸せのあかし!! 熟れたてフレッシュ!! キュアパッション!!」

ピーチ「レッツ!!」

「プリキュア!!」

ブロッサム「大地に咲く一輪の花!! キュアブロッサム!!」

マリン「海風に揺れる一輪の花!! キュアマリン!!」

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花!! キュアサンシャイン!!」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト!!」

「ハートキャッチ!! プリキュア!!」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ!! キュアメロディー!!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!! キュアリズム!!」

「届け!! 2人の組曲!! スイートプリキュア!!」

デイリー「全ての光の集大成!! キュアデイリー!!」

ヤイバ「よし!!」

ケン「燃えてきたぜ!!」

シャイバ「はしゃぐな。」

しん王「オラも変体完了だゾー!!」

カンナム「行くぞ!」

一同は穴に入りアジトへ向かった。

.....

その頃、勇奈はキュアコズミックになりある建物の前に立っていた。

PRECURE HOUSE

建物の中からある男が出てきた。

「お前か。」

コズミック「デイリーの新しい力、完成した?」

「もう少し待ってくれ。」

コズミック「早くしてね、こっちはかなりの強敵がいるんだから。」

「出来たら連絡するからそれまでどこかで身を隠していてくれ、まだここに入れるわけにはいかん。」

コズミック「はいはい。」

^UJ U

第28話 対バレン

一同はついにアジトに到着した、その大きさは以前より倍の大きさだった。

ヤイバ「うわ、でか〜（汗）」

レモネード「あつ、みてください！扉がありません!？」

一同はその一言に驚いた確かに中に入れるような所が無かった。

ルミナス「どうやってはいりますか？」

するとカンタムが前にでる。

カンタム「私に任せてくれ、カンタムパンチ!！」

カンタムの両腕のロケットパンチでアジトに穴をあけた。

シャイバ「さすがはカンタムだな。」

しん王「カンタムロボ最高お!！」

ドリーム「よし、行こう!！」

一同はアジトに乗り込んだ、進むにつれ戦闘員や怪人達が攻めてくるが次々となぎ倒していく。

ヤイバ「はあ!！」

ディリー「てやつ!!」

アクア「たあ!!」

ムーンライト「ふっ!!」

すると何やら不気味な扉にたどり着いた。

ホワイト「これは？」

ブルーム「なんか嫌に存在感あるね。」

ケン「だから何だよ、立ちふさがる物は全部ぶち壊す!!」

ケンは扉を殴り飛ばした。

ブラック「たまに思うんだ、龍一さんって本当に警察なのかな？つて」(小声)

ルージユ「わかるわかる」(小声)

リズム「聞こえちゃうよ!!」(小声)

そして一同は奥に進んでいく、すると緑色のライダーがいた、戦いを受けた戦士は少し後ずさりをしてしまった。

バレン「来たか。」

メロディー「仮面ライダー・・・バレン!!」

カンタム「やはり凄い殺気だ。」

するとミントがバレンに問いだした。

ミント「あなたはしんちゃんのお父さんのひろしさん何ですよね？」

バレン「？、何の事だ。」

ローズ「やはり操られてるのね。」

ベリー「なんとか助けないと!!！」

パッション「私達ならできるわ!!！」

しん王「父ちゃんを助けるゾ!!！」

バレン「来るか・・・」

ヤイバ「当たり前だ!!！行くぞ!!!!！」

まずヤイバは剣を構えバレンを斬りつけるが片手で受け止められる、しかしドリームがクリスタルフルーレで攻撃を仕掛ける。

ドリーム「たあ!!！」

バレンは攻撃をかわし2人を蹴り飛ばす、2人は剣でなんとか防ぎきる。

ブロッサム、マリリン「プリキュア!!！フローラルパワーフォルテッ

シモ！！」

ブロッサムとマリリングがフローラルパワーフォルテツシモでバレンを攻撃する、バレンは風の壁を作り出し防ぐがさらに

サンシャイン、ムーンライト「プリキュア！！フローラルパワーフォルテツシモ！！」

バレン「！！！」

サンシャインとムーンライトがフローラルパワーフォルテツシモを繰り出し4人の力のフォルテツシモで風の壁は砕け散った、バレンはジャンプしそれをかわしベルトを黄色に変え、バレガンで雷のマシンガンを連射する、ブルームとイーグレット、ルミナスがバリアをはり防ぎきる、そしてバレンの後ろから

メロディー「はあ！！！」

リズム「だあ！！！」

バレン「何！？」

バレンの後ろからメロディーとリズムがキックを繰り出した、バレンはその攻撃を受け止めるが

ケン「しゃあ！！隙あり！！！」

バレン「！！！」

ケンが火炎の拳をバレンに叩き込む。

バレン「ぐあ!?!」

バレンがひるんだ隙にディリーがカードをディリーモードで読み込ませた。

「ファイナルオリジナルライド!!!フオフオフオフオースキツク!!!」

ディリーの目の前にキュアエルス、キュアテンペスト、キュアブリズが出現し4人で一斉にバレンに蹴りを叩き込んだ。

バレン「うおっ!?!」

そしてシャイバがしん王を投げ飛ばす。

シャイバ「行け!!!」

しん王「目を覚ませ父ちゃん!!!しん王けつだけアタック!!!」

しん王の弾力性のある技で壁に叩きつけられるバレン、そして地面に崩れ落ちるが一瞬のうちにクリスタルがバレンを包み込んだ。

ピーチ、ベリー、パイン、パッション「ラッキークローバー・グラウンドファイナーレ!!!」

バレン「くっ、はあ!!!」

バレンはクリスタルを砕くがそれは4人の計算のうちだった。

レモネード「プリキュア！！プリズムチェーン！！」

レモネードの光の鎖でバレンを拘束する。

ルージュ「プリキュア！！ファイヤーストライク！！」

ミント「プリキュア！！エメラルドソーサー！！」

アクア「プリキュア！！サファイアアロー！！」

三人の攻撃をなんとかかわすバレン、しかしローズがバレンを殴りつけた。

ローズ「よそ見しない！！」

バレン「ぐう！？」

そしてブルーム、イーグレットはブライト、ウィンディになり光弾をとばす。

ブライト「はぁー！！」

ウィンディ「ええい！！」

バレンは両手で受け止めるが、上空からブラックとホワイトが

ブラック、ホワイト「プリキュア！！マーブルスクリュー！！マックスウウウ！！」

バレンはかわそうとするが背後から

カンタム「カンタムパンチ!!」

カンタムのロケットパンチによりバレンが逃げ場所を失った。

バレン「ぐああああ!!」

一同は1ヶ所に集まる。

ブラック「やった?」

ムーンライト「いえ、まだ油断は出来ないわ。」

その言葉の通りボロボロになったバレンがよろけながら歩くのが見えた。

バレン「気は・・・すんだか・・・」

シャイバ「何?」

するとピーチ、メロディーが

ピーチ「可笑しいよ、全然手応えがない・・・。」

メロディー「まさか、わざと攻撃をつけてた?」

ヤイバ「何だと!?!」

バレンは不思議な色のベルトを取り出す。

バレン「いや、全てかわすつもりだったが・・・さすがにこの人数は骨が折れる・・・見せてやるう、100%中75%の力を!!。」

バレンは不思議な色のベルトを巻いた。

「indigo collar」

すると凄まじい力がバレンから放たれた。

ミント「きゃあ!？」

デイリー「何よこの力!？」

ケン「吹き飛ばされそうだ!？」

そしてバレンの体はインディゴブルーの体になった。

ヤイバ「な、なんだあの色は？」

ムーンライト「インディゴブルー・・・」

バレン「よくわかったな、これで貴様らはおわりだ。」

バレンはバレガンを放つ、ブライト、ウィンディ、ルミナスがバリアをはるが銃弾が2発ほどバリアに当たると粉々に砕け散ってしまった。

ブライト、ウィンディ、ルミナス「きゃあああ!？」

ブラック「ブライト達のバリアが!？」

シャイバ「まずいな・・・!?!」

するとシャイバが気づいた時にはバレンが瞬間的にシャイバの懐に拳をめり込ませていた、シャイバは仮面の中で血を吐いた。

シャイバ「がはっ!?!」

ヤイバ「タクヤ!?!」

ケン「行くぞ蒼牙!?!」

ヤイバとケンは同時に殴りかかるがバレンはいつの間にか2人の背後に移動しておりバレガンから放たれたインディゴブルーの光線の餌食になってしまった。

デイリー「蒼牙!?!龍一!?!」

デイリーはカードを読み込ませた。

「アタックライド!インパクト!?!」

デイリーはバレンに近づこうとしたがバレガンに弾丸を連射された。

デイリー「なっ!くっ!きゃあああ!?!」

デイリーは体を打ち抜かれ血を流し倒れた。

しん王「アイリちゃん!?!」

しかしバレンはしん王に近づきしん王はソードで抵抗したがへし折られ蹴り飛ばされてしまった。

しん王「ああ!?!」

ピーチ「しんちゃん!」

ドリーム「許さない!!みんな必殺技で行こう!」

プリキュアメンバーは必殺技を放つ。

ブラック、ホワイト、ルミナス「エキストリーム・ルミナリオー!」

ブライト、ウィンディ「プリキュア!!スパイラルスタースプラッシュ!」

プリキュア5「プリキュア!!レインボーローズエクスペローション!」

ローズ「ミルクイローズ・メタルプリザード!」

ピーチ「プリキュア!!ラブサンシャインフレッシュ!」

ベリー「プリキュア!!エスポワールシャワーフレッシュ!」

パイン「プリキュア!!ヒーリングプレアーフレッシュ!」

パッション「プリキュア!!ハピネスハリケーン!」

ハートキャッチ「プリキュア！！フローラルパワーフォルテッシモ！！」

メロディー、リズム「プリキュア！！パッションートハーモニー！！」

しかしその必殺技は全てインディゴブルーの壁に防がれてしまった。

メロディー「そんな！！」

バレン「さすがに貴様ら全員を1人でやるのは面倒だ、特別に私の全力を見せてやろう。」

バレンはインディゴブルーのベルトを外し虹色のベルトに巻き変えた。

「rainbow collar」

するとプリキュア達は言葉を失った、1人でさえ手こずるバレンが赤、青、黄、緑、紫、橙、インディゴブルーの計7人に増えたからだ。

アクア「バ、バレンが・・・」

パッション「7人に・・・」

ブロッサム「そんな・・・」

マリ「1人でさえ・・・あんなに疲れるのに・・・」

^UJ U

第29話 脱獄

アイリは目を覚ました、そこは輝かしい光が広がる空間だった。

アイリ「なっ、何よ・・・ここ、蒼牙!? 龍一!? しんちゃん!?
ラブ!?」

すると目の前に光の粒子が集まり1人のプリキュアの姿になった。

アイリ「プリキュア? あなたは・・・」

??? 「私は救世の光、キュアセイバー。」

アイリ「キュア・・・セイバー、もしかしてあのライトって・・・」

アイリはあの時の事を思い出した。

セイバー「ああ、ミラクルライトがあなたの所に届いたのね、うふ
ふ・・・応援してくれてありがとう。」

セイバーは微笑みを浮かべていた。

アイリ（ちよっとめちやくちや可愛いじゃない・・・。）

セイバー「?、どうかした?」

アイリ「あ、いや。」

セイバー「そう・・・それよりあなた達、仮面ライダーバレンにや

られたのよね？」

アイリ「ええ、歯がたたなかつた。」

セイバー「確かにあいつは強い……」

しばらく沈黙が続いた、そしてセイバーがきりだした。

セイバー「力になれるかどうかわからないけれど……」

セイバーは4枚のカードを渡した。

アイリ「ライドカード、あなたと……黒いプリキュア？」

セイバー「それも私、私自身。」

アイリ「あなた自身？」

セイバー「うん、頑張つて。」

セイバーは後ろを向き去っていく。

アイリ「あつ、ちよつ……!!」

セイバー「それはある人があなた達のために作ってくれた物……
大切な人、守つてね。」

……

アイリ「待つて!!あつ!？」

アイリの体に激痛が走った、辺りを見渡すとそこは牢獄だった、ブ
ロツサム、ブラック、タクヤがまだ意識を失っていた。

アイリ（夢・・・ん？）

アイリは何かを手で持っていた、それはあの不思議な空間で見たカ
ードだった。

アイリ「夢じゃない・・・」

・・・

蒼牙「くそ・・・今度は俺たちが牢獄行きかよ。」

ムーンライト「バレン・・・恐ろしいわ。」

龍一「ああ、息苦しいぜ。」

パイン「また牢獄かあ。」

他の牢獄では蒼牙、ムーンライト、パイン、龍一がいた。

龍一「なあ、他の奴らは？」

ムーンライト「他の牢獄だと思っわ。」

龍一「大変だなあ。」

・・・

しかし、他のメンバーの一部は牢獄ではなかった。

怪人「ほら！！入れ！！！」

ドリーム「きゃあ！？」

ルージュ「ちよつと押すな！！！」

ウィンディ「痛い！！もうやめてよ！！！」

ピーチ「痛い痛い！！！」

リズム「ぎゅうぎゅうじゃない！！！」

一つのコンテナに無理やり押し入れられた5人。

怪人「行き先はメデューサ本部！！！」

5人「えっ！？」

コンテナに無理やり押し入れられた5人はなんとメデューサ本部に輸送されたのだ、それが悲劇の始まりだった。

.....

一方アイリ達の牢獄ではブロッサム、ブラック、タクヤが目覚ましていた。

タクヤ「まじか・・・」

ブロッサム「急がないと他の人達が・・・」

ブラック「でもどうやってここから出る？」

アイリ「この牢獄はどうやら電子ロック式ね、困ったな。」

すると何やら気配を一同は感じた。

ブロッサム「なっ、何か来ます!!」

すると壁が吹き飛び何者かが現れた、ブロッサムはそれを見て驚愕した。

ブロッサム「ダークプリキュア!？」

そう、それは前に下らない理由で呼ばれたダークプリキュアだった。

タクヤ「何だ?今度はデークロスとか言うつもりか？」

ダークプリキュア「言わん、皮肉だが少しお前たちに協力してやる。」

ブラック「本当に!？」

一同は作戦を立てた。

.....

怪人「おい!!何だ今の音は!？」

戦闘員「向ここの牢獄から・・・うわぁ!?!」

突如戦闘員と怪人を闇の閃光が貫いた。

ダークプリキュア「道をつくるか、たあいもない。」

ダークプリキュアは牢獄の見張りの敵を倒しタクヤ達に仲間の搜索の効率を上げていた。

.....

蒼牙「おお!!タクヤ!!」

タクヤ「早く来い!!」

.....

アイリ「こつちよ!!」

ホワイト「ありがとうございます!!」

しんのすけ「アイリちゃん愛してるぅ!!」

.....

こうして輸送された5人以外の全員は救出した。

アクア「ルージュとドリームがないわ!!」

メロディー「どこかに連れてかれた!？」

蒼牙「とりあえずダークプリキュアが道を開いてくれてる、行こう
!！」

一同は奥に進んでいく。

.....

一方ダークプリキュアは奥に進んでいくと何故か外に出ってしまった。

ダークプリキュア「外? どういう事だ？」

すると緑色のバレンが立っていた。

バレン「ダークプリキュアか・・・手合わせを頼もうか。」

ダークプリキュア「あいにく貴様に付き合っている暇はない、すぐに終わらせる、ダークタクト!！」

ダークプリキュアはダークタクトを出現させる。

バレン「ふん、やってみる。」

バレンはバレガンを手で回し余裕を見せる。

ダークプリキュア「はあ!！」

ダークプリキュアはタクトから闇の光弾を飛ばす、バレンはバレガンの弾丸で撃ち落とし2人は互いに飛びつき拳をぶつけ合う。

ダークプリキュア「少しはやるようだな。」

バレン「貴様もな。」

ダークプリキュアは回し蹴りを繰り返す、バレンはそれを受け止めバレガンにダークプリキュアに向けるがダークプリキュアは上半身を後ろに倒し弾丸をかわし両手を床につけ足を勢いよく上げて反撃するがバレンはそれをかわす。

バレン「グリーンの速さについていけるとはな。」

バレンは紫のベルトを巻きパープルカラーにかわり毒煙を放つ。

ダークプリキュア「下手な小細工を・・・」

ダークプリキュアはタクトから黒いバリアをはり煙を防ぐ、そして

ダークプリキュア「プリキュア・ダークパワーフォルテツシモ!!」

ダークプリキュアはフォルテツシモで自らバリアを砕きバレンに闇の力で直撃する。

バレン「ぐおっ!?!」

しかしバレンも負けじとバレガンから紫の弾丸をダークプリキュアに打ち込む。

ダークプリキュア「ぐう!!」

バレン「インディゴブルーだな。」

バレンはインディゴブルーの姿になった。

バレン「はああああ！！！！」

ダークプリキュア「はああああ！！！！」

.....

蒼牙達はアジトの奥に進んでいく、怪人達は全員倒されていた。

龍「すげえな、この数1人で始末したのかよ。」

ムーンライト「さすがね。」

レモネード「あっ、見てください！！扉です！！」

一同が扉を押し開けた、するとそこには7人のバレンに苦しむダークプリキュアがいた。

マリン「ダークプリキュア！！」

ダークプリキュア「やっと・・・来たか・・・」

バレン「なかなか骨のある奴だったぜ、だがこのレインボーカラーには無力だ。」

ダークプリキュアは膝をつく。

ミント「大丈夫!？」

ダークプリキュア「心配されるような事じゃない・・・」

サンシャイン「よくも!!」

するとバレン達はバレガンを向け七色の光線を放とうとした。

バレン「死ぬ。」

アイリ「まずいわ!？」

ブライト「またあんなのくらったらひとたまりもないよ!？」

しんのすけ「うわわあ!!」

ついに七色の光線が放たれた、しかしダークプリキュアが全力を出し闇のバリアで防ぐ。

ダークプリキュア「ぐうううう!？」

ムーンライト「ダークプリキュア!？」

ベリー「無理しちゃダメ!!」

しかしダークプリキュアはバリアをはりつづける、するとダークプリキュアが突然苦しみだした。

バレン「毒が回ったか。」

タクヤ「毒だと!?!」

メロディー「そんな!?!ダークプリキュア!?!」

しんのすけ「ダークちゃん!?!」

しかし

ダークプリキュア「安心しろ、私が・・・消えるだけだ。」

ブロッサム「そんな・・・消えるなんてダメです!?!」

ダークプリキュア「私はもともと消えた存在・・・消えるのはなれている、ぐう!?!」

バリアにだんだんと亀裂が入っていく。

バレン「終わりだああ!?!」

ダークプリキュア「ああああああ!?!」

その時、炎と雷が七色の光線を切り裂き消滅させた。

ダークプリキュア「え・・・」

バレン「何!?!」

アイリ「炎と雷、凄いよ蒼牙に龍!?!」

しかし蒼牙と龍一は戸惑っていた。

蒼牙「俺達じゃない・・・現に変身してないし・・・」

ローズ「どついう事!？」

龍一「わかんねえよ!！」

アクア「でもこの中で炎と雷を使えるのは2人だけ・・・」

タクヤ「あつ、見る!！」

タクヤが指さした場所、そこには一本の剣が突き刺さっていた。

「女の子が困ってるのに助けられないなんて先輩らしくないっすよ。」

どこからか声が響いた。

つづく

第29話 脱獄（後書き）

次回、改造人間第3号が登場する！！

第30話 後輩

「女の子が困ってるのに助けられないなんて先輩らしくないですよ。」

ある声が響いた。

バレン「誰だ!?!」

すると上空から1人の戦士が降りてきた。

????「困ってる女の子がいたら真っ先に助けろって言ったの先輩じゃないすか。」

蒼牙「おっ、お前……」

龍「何で!?!」

プリキュア「?」

その戦士は赤い仮面に青い複眼、緑色の装甲に赤い模様がついた足、緑の腕と赤の腕、そう彼は

バレン「貴様!!何者だ!!」

????「俺は仮面ライダーセツガ。」

セツガは剣を引き抜き手で華麗に回し刃先をバレン達に向けた。

セツガ「華麗に行くぜ?」

バレン「ほざけ!!」

赤のバレンはバレガンに赤いチップを差し込み紅蓮の炎を放つ。

セツガ「はあ!!」

するとセツガは剣に炎をまとわせ炎を一刀両断した。

赤のバレン「何!?!」

次に黄色のバレンが雷を飛ばすがセツガはもう一本の剣に雷をまとわせ雷をなぎはらった。

黄色のバレン「炎と雷だと!?!」

セツガ「そゆこと。」

緑色のバレンがセツガに近づき手に風をまとわせ刃のように振るう。

緑色のバレン「貴様を切り裂く。」

セツガ「出来るか?」

セツガは風の刃を二刀流の剣で受け流しながらバレンを斬りつけていく、青いバレンが水の光線を放つが炎の剣を投げつけあつという間に蒸発させ投げつけた剣がバレンを斬りつけセツガの手に戻る。

青いバレン「うお!?!」

タクヤ「すげえ・・・」

パッション「あのバレンをいとも簡単に・・・」

しんのすけ「頑張れせつちゃん!!」

セツガ「(何だせつちゃんって・・・)でやあ!!」

青と緑色のバレン「ぐあ!?!」

青いバレンは雷の剣で切り捨てられ、緑色のバレンは炎の剣で切り捨てられる。

橙色のバレン「はあ!!」

橙色のバレンはバレガンから太陽のような光弾を発射した。

アイリ「まずいわ!?!」

しかしセツガは二本の剣に雷と炎それぞれにエネルギーを送る。

セツガ「たりやあああああ!!」

そして剣をクロスに振るいなんと光弾を切り裂いたのだ。

橙色のバレン「なあ!?!」

アクア「何て力!!」

そして紫のバレンが前が出る。

紫のバレン「貴様の次の相手は私だ。」

紫のバレンは紫の弾丸を放つ、セツガはそれを切り裂くがインディゴブルーのバレンが妨害する。

インディゴブルーのバレン「私を忘れるな!!」

セツガ「邪魔すんなよ!?!」

セツガは弾丸を切り裂きながらインディゴブルーのバレンに攻撃をするがなかなか当たらない。

セツガ「どうやらあんたが一番やるみたいだな。」

インディゴブルーのバレン「ふん。」

するとセツガは片方の炎の剣を上空に投げ雷の剣でバレンに攻撃を仕掛ける。

セツガ「せい!!はあ!!」

セツガは弾丸を切り裂きその隙にインディゴブルーのバレンに剣を叩き落とされ首をつかまれた。

セツガ「ぐっ!?!」

インディゴブルーのバレン「終わりだあ!!」

紫のバレン「死ね!!」

しかし

セツガ「何てね」

インディゴブルーのバレン「何だと!？」

すると先ほど上空に投げた炎の剣が刃先を真下にして垂直の落下してきたのだ、それがバレンの虹色のベルトに突き刺さる。

インディゴブルーのバレン「ぬああ!!!」

そしてインディゴブルー以外のバレンが消えた。

バレン「ぐう!？」

バレンは急いでインディゴブルーのベルトを巻く。

ダークプリキュア「何なんだ奴は。」

メロディー「強い……でも何でバレンは消えたの？」

ホワイト「恐らくベルトがバレンの人数を増やしてたんだわ。」

するとセツガが

セツガ「それに弱体化するから案外楽だよ？」

龍一「弱体化？」

セツガ「バレンは確かに恐ろしいほど強い・・・それがあつた錯覚を
起こしたんだ。」

サンシャイン「錯覚？」

セツガ「そう、どうやらあいつはインディゴブルーになつてからじ
やないとレインボーカラーにならない、他の形態と比べてずば抜け
た強さを持つインディゴブルーになる事で弱体化したバレンの分身
をカバーしてたのさ。」

ムーンライト「なるほど、分身したバレンは本体より劣化するけど
バレンは強いという考えを持たせ分身する事でさらに恐怖心を持た
せていたのね。」

ダークプリキュア「という事は私は奴の畏にはまつてしまつていた
のか！？ぐっ！？？」

マリリン「ああ！ダークプリキュアの毒が！！」

ブロッサム「セツガさん！！解毒方法は！？？」

セツガ「大丈夫大丈夫、劣化した毒なんてすぐ消えるからさ。」

バレンは立ち上がった。

バレン「くそっ・・・」

セツガ「先輩、後輩の役目はここまでだよ。」

蒼牙「えっ・・・迅！そりゃないだろ！？？」

セツガ「すみませんね。」

セツガはいつの間にかあったバイクに乗り走り去っていった。

龍「行っちゃった。」

バレン「ぐ……」

ブライト「蒼牙さん!!今なら!!」

蒼牙「あ、ああ……ひろしさん!!目を覚ませえ!!」

蒼牙は変身しバレンのベルトを殴りつけ砕いた。

バレン「ぐああああああ!!?」

バレンはついに変身が解け倒れた、同時にヤイバの変身も解けた。

しんのすけ「父ちゃん!!」

しんのすけはひろしに近づくが

ひろし「おのれ!!」

ひろしはしんのすけを押し飛ばした。

しんのすけ「うわあ!?!」

メロディー「しんちゃん!!」

アイリ「まだ洗脳が解けてない!？」

蒼牙「そんな!？」

ひろし「すべては・・・メデューサのために!！」

龍一「あんた自分の息子になんてことを!？」

すると

しんのすけ「父ちゃん目を覚まして!！」

しんのすけはひろしに飛びついた。

ひろし「離れろ!？」

しんのすけ「父ちゃん!!思い出して!！」

ひろしはしんのすけを投げ飛ばした、タクヤが何とかしんのすけを受け止める。

タクヤ「しんのすけ!！」

しんのすけ「父ちゃん!！」

しんのすけはタクヤから飛び降りひろしに近づく。

しんのすけ「どうすれば・・・あっ!！」

その時しんのすけは倒れたひょうしに脱げたひろしの靴に気がついた。

つづく

第31話 父子(前書き)

今回は短めです

第31話 父子

ひろし「すべてはメデューサのために!!」

しんのすけ「父ちゃん!!」

しんのすけはひろしの靴を手に取りひろしの顔に押し付けた。

ひろし「うぐ!?!」

蒼牙「なっ、何やってんだ!?!」

アクア「待って!! 様子が変よ?」

ひろしの様子が可笑しかった、さっきまでの殺気が徐々に薄れていったのだ。

しんのすけ「父ちゃん・・・思い出してよ。」

ひろし「メ・・・デュー・・・!!!!」

~~~~~

(おぎゃあ!!おぎゃあ!!)

(あなた、生まれたわ!)

(俺もついにパパになったか。)

~~~~~

(キャッツキャッツ!!)

(ん? パパのおひげが好きなのかな?)

(もう、あなたったら。)

~~~~~

( しんのすけ!! 俺達のお家だぞ!! )

( お、ちゅーい )

~~~~~

(父ちゃん早く早く!!)

(わかってるわかってる!!)

~~~~~

( あなた!! しんちゃん!! )

( 生まれたか! しんのすけ!! お兄ちゃんになったぞ!! )

( かわいいオラの妹 )

~~~~~


ひろし「しんのすけ、行くのか？」

しんのすけ「うん!! オラ、面倒だが許せないから!! 父ちゃんは母ちゃん達を助けて!!」

ひろし「わかった!!」

しんのすけとひろしは拳と拳を合わせる。

タクヤ「ひろしさんには俺がついて行く。」

龍一「俺も行くぜ。」

ムーンライト「では私達は先に進みましょう。」

一同「はい!! (ああ!!)」

タクヤ、龍一はひろしと共にみさえ達を助けに行き、蒼牙達は奥に進む。

.....

アバタ「ビョーザ、奴らが来るぞ。」

ビョーザ「他愛もない。」

アバタとビョーザはそれぞれ赤と青の装甲を身にまとう。

^U^U

第32話 ビョーザとアバタ

一同は奥に進んで行く。

しんのすけ「面倒だ！許さないゾー！」

ミント「メデューサね。」

蒼牙「今度のボスは何だ！？」

するとある広い研究室にたどり着いた。

ホワイト「研究室？」

不気味な研究室だった、得体の知れない生物が水の入ったカプセルで泡をだしながら眠っていたり、得体の知れない生物の内臓が吊されてもいた。

アイリ「グロいわね。」

ブロッサム「私、めまいが・・・」

サンシャイン「大丈夫？」

するとアクアとムーンライトは何か気づいた。

アクア「誰！？」

ムーンライト「隠れてないで出てきなさい。」

するとカプセルの影からアバタとビョーザが現れた。

蒼牙「お前達がアジトのボスか!？」

ブライト「ていうか二人!？」

すると

アバタ「俺はアバタ、実は2つのアジトが統合してな。」

ビョーザ「私はビョーザ、このアジトにボスが2人できたんです。」

メロディー「じゃあこのアジトが最後なんだ。」

蒼牙「なら少し楽だな、行くぞ!」

蒼牙とアイリ、しんのすけが変身する。

ディリー「先手必勝!!」

「アタックライド!!インパクト!!」

ディリーはビョーザにインパクトを放つが

ビョーザ「残念ですが無駄ですよ。」

片手で受け止められ、蹴り飛ばされた。

ディリー「きゃあ!？」

ヤイバ「アイリ!!」

ヤイバがデイリーを受け止める。

アクア「プリキュア!! サファイアアロー!!」

ムーンライト「プリキュア!! シルバーフォルテウエーブ!!」

2人はアバタに向けて必殺技を放つ。

アバタ「ふん!!」

しかし必殺技はアバタの拳で打ち砕かれてしまった。

サンシャイン「ブロッサム!!」

ブロッサム「はい!!」

「プリキュア!! フローラルパワーフォルテッシモ!!」

ブロッサムとサンシャインはフォルテッシモでビョーザを押し倒す。

ビョーザ「おっ!!?」

そして

「Y A I B A c h a r g e!!」

ヤイバ「ライダーキック!!」

ローズ「ミルクイローズ・ブリザード!!」

ローズのブリザードの勢いに乗りヤイバがライダーキックでビョーザを吹き飛ばした。

ビョーザ「くっ、やりますね。」

しん王「へっくしょん!!」

しん王ははな ずでアバタを拘束する。

アバタ「汚い!?!」

ブラック、ホワイト「はあ!!」

メロディー「たあ!!」

ブライト「やあ!!」

三人はアバタを殴り飛ばした。

アバタ「がは!?!」

ルミナス「ルミナス!!ハーティエルアンクシオン!!」

さらにルミナスの拘束技によりビョーザとアバタが拘束される。

ミント「プリキュア!!エメラルドソーサー!!」

ベリー「プリキュア！！espoワールシャワー！！」

パイン「プリキュア！！ヒーリングプレアー！！」

パッション「プリキュア！！ハピネスハリケーン！！」

4人の必殺技によりビョーザとアバタはさらに弱る。

ヤイバ「よし！！」

しかし次の瞬間、ビョーザとアバタが不気味に笑みを浮かべた。

ミント「何を笑ってるの！？」

アバタ「今こそ！！」

ビョーザ「解放だ！」

するといくつかのカプセルから得体の知れない生物がカプセルを破り飛び出てきた。

デイリー「なに！？」

その生物は巨大な口と爪を持った生物だった。

ビョーザ「行け！！」

その何体もの生物は一同に襲いかかる。

ヤイバ「なんだこいつら！！わぁ！？」

ヤイバは爪で斬られてしまった、ヤイバの装甲に爪跡がしっかりと残っていた。

他の者もそうだった、爪で斬られて刺され血を流す者がほとんどだった。

パッション「このままじゃ！！」

ルミナス「みなさんこちらに！！」

ルミナスは一同を集めバリアをはる。

ビョーザ「私達はあまり戦闘に向いてなくてね。」

アバタ「こうやって怪物を作る技術でボスになったのだ、この装甲ですこしだけ力を上げたがな。」

アバタは研究室の装置のボタンを押した、すると今戦っている生物を巨大化させた形の生物が出てきた。

ブライト「悪夢じゃん！！」

巨大生物は爪でルミナスのバリアを斬り裂いた。

ルミナス「そんな！？」

そして何体もの生物がさらに一同を襲いかかり巨大生物も爪で一同を斬り裂いた。

「うわあああああ!?!」

デイリー（ピンチよ……このままじゃ……あっ）

デイリーは2枚のカードを取り出した。

デイリー「一か八か!?!」

「アタックライド!!!イリユージョン!?!」

デイリーはイリユージョンで分身を作る。

ローズ「何する気!?!」

デイリーは2枚のカードを読み込ませた。

「キュアライド!!!セイバー!!!リベリオン!?!」

つづく

第32話 ビョーザとアバタ（後書き）

次回、救世の光！！

第33話 救世と完全（前書き）

前話にブラックを入れ忘れたので入れときました。

第33話 救世と完全

「キュアライド！！セイバー！！リベリオン！！」

するとディリーは輝かしい救世主をイメージさせる衣装と漆黒の闇をイメージさせる衣装に変わった。

ベリー「み、見た事ないプリキュア？」

ヤイバ「凄い力を感じる・・・」

そう、ディリーは異世界のプリキュア、キュアセイバー、キュアリベリオンにキュアライドしたのだ。

ビョーザ「まぶしいな・・・」

アバタ「うるたえるな、やれ！！」

何体もの生物はディリーに飛びかかってきたがディリーは二手にわかれセイバーディリーはカードを読み込ませた。

「アタックライド！！シンバル！！」

セイバーディリーは必殺武器・リライフシンバルをだした、何回か叩き白色の光線を放ち生物を圧倒する、そしてリベリオンディリーもカードを読み込ませた。

「アタックライド！！サンダー！！」

リベリオンディリーは黒い雷を放ちあっという間に生物を全滅させた。

ヤイバ「すげえ・・・」

しん王「アイリちゃんかわいい」

するとビョーザとアバタの二人は

ビョーザ「このままではまずい。」

アバタ「最終手段だ。」

ビョーザとアバタは装置のスイッチを押し2つのカプセルに入った。

ビョーザ「ぐっ!?!」

アバタ「がはっ!?!」

ローズ「苦しみだしたわ!?!」

ディリー「何!?!」

するとビョーザとアバタは粒子化し巨大生物と一体化した、その生物は何ともおぞましい姿に変わった。

ヤイバ「まじか・・・」

ムーンライト「何ておぞましい姿なの・・・」

「これが完全体・・・ベルモースだ!!」

巨大生物ベルモースは二人のディリーを襲う。

セイバーディリー「はあ!!」

リベリオンディリー「だあ!!」

二人は同時にベルモースを蹴りつけるがその体は異常なくらい固かった。

ベルモース「無駄だ!!」

ベルモースの攻撃でディリーは吹き飛ばされもとの姿に戻った。

ディリー「きゃあ!?!」

ヤイバ「アイリ!?このお!!」

ヤイバは両足に雷をため飛び上がった。

ヤイバ「ライダーツインキック!!」

ヤイバは両足で雷のキックを繰り返すが弾き飛ばされてしまった。

ヤイバ「くそ!!」

ベルモース「死ねえ!!」

ベルモース巨大な手で地面を叩きつけた、凄まじい地割れが起きた。

「うわあああああ!?!」

それが原因でアジトが崩壊を始めた。

パッション「アジトが崩壊するわ!?!」

サンシャイン「逃げよう!?!」

ホワイト「駄目よ間に合わない!?!」

ルミナス「任せてください!?!」

ルミナスはバリアをはり崩れるアジトからみんなを守った。

.....

ルミナス「はあはあ...」

ヤイバ「ひかりちゃん、もう大丈夫だ。」

ルミナスはバリアを解く。

パイン「崩れちゃったね、アジト。」

しん王「父ちゃん達は!?!」

するとヤイバスパーカーから声が響いた。

『おいおい派手にやったなあ。』

「ヤイバ「タクヤ！？ヤイバスーパーカーには通信機能がついてるのか。」
声の主はタクヤだった。」

『しんのすけの家族もその友達の家族も助けたぜ、カンタムロボが来てくれてな。』

「デイリー「良かった。」

すると崩壊したアジトの瓦礫が動き出した。

「ブライト「なっ、何！？」

「レモネード「み、見てください！？」

なんと瓦礫からはベルモースが出てきたのだ。

「ヤイバ「生きてた！？」

「ベルモース「この程度では死なん、完全体と言っただろ。」

「アクア「万事休すね。」

ベルモースはまた手で地面を叩こうとした。

「マリン「うわわ！？」

「ブロッサム「来ます！！」

メロディー「くっ!?!」

その時流星のような閃光がベルモースを押し倒した。

ベルモース「ぐっ!?!」

ブロッサム「コズミック!!」

そう、キュアコズミックが戻ってきたのだ。

コズミック「ディリー!!」

コズミックは何かブレスのような物をディリーに投げ渡す。

ディリー「これは・・・」

コズミック「ある方からの差し入れよ。」

するとディリーのカードケースから一枚のカードが出てきた。

ブラック「何ですかそれ?」

ディリー「わからないわ。」

ベルモースはコズミックに襲いかかる、何とかコズミックはベルモースをかわす。

コズミック「ちょっと早く!!ブレスつけて!!カード!!」

ディリーは「ええ・・・（汗）」と戸惑いながらブレスをつけてカードをブレスに入れるがその後がわからない。

ディリー「ええと・・・」

コズミック「何のためのタッチパネルよ!？」

ディリー「ああ・・・」

ディリーはブレスのタッチパネルに適当に触れる。

「マックス!!! スプラッシュ!!! ファイブ!!! フレッシュ!!! ハート!!! スイート!!! オリジナル!!! ファイナルキュアライド!!! デイリー!!!」

するとディリーは何か凄まじい力を感じた。

ディリー（なっ、何!?! 力が満ち溢れて・・・）

するとカードケースから全てのキュアライドカードが現れディリーの体に宿っていく。

ムーンライト「全てのプリキュアの力がディリーに!?!」

コズミック「成功ね。」

ベルモース「バカな!?!」

ディリーの衣装は虹のように輝き、全てのプリキュアの衣装が組み合わさったようなデザインの衣装になった。

ヤイバ「てんこ盛りか。」

ディリー「何命名してんのよ!?!」

コズミック「それがキュアディリーの究極の力、キュアディリー・オールスターシルエットよ。」

ディリー「オールスターシルエット?」

するとベルモースはコズミックを無視しディリーを攻撃するがディリーは上手くかわしブレスに触れる。

「プリキュアルーレット!?!」

するとタッチ画面がルーレットのような画面にかわり雷のマークが表示された。

「キュアライド!!! エルス!!!」

すると目の前にキュアエルスが表示された。

エルス「ん? ええ!?! なにここ!?! ていうかディリーじゃん!?!」

ディリー「うそ! 本人を呼べるの!?!」

ブレスの力はフォースキックのようにプリキュアの分身? を出現させるのではなく本人を呼び出してしまうのだ。その頃

.....

「おい！？エルス！？」

「何故消えたんだ！？」

「あれ？タッチブレスの事説明してませんでした？」

.....

どこかの世界で混乱が起きていた。

エルス「なんかわかんないけどやるしかないわね。」

デイリー「お、お願い（汗）」

デイリーはカードを読み込ませた。

「ファイナルオリジナルライド！！エエエエルス！！」

デイリーとエルスは雷を足にためベルモースを蹴りつけて押し倒す。

ベルモース「ぐう！？」

デイリー「あと2回やっちゃおう。」

「プリキュアルーレット！！」

エルス「またやってるの！？」

「キュアライド！！コスミック！！ミラージュ！！」

コズミック「あら私？」

するとキュアミラージュが出現した。

ミラージュ「何ここ！？」

ブライト「まあ、そうなるわよね（汗）」

ディリー「ミラージュ！！手をかして！！」

ミラージュ「ええ！？状況説明なし！？」

「ファイナルオリジナルライド！！フオフオフオフォースキック！！！！」

ディリー、エルス、コズミック、ミラージュはエネルギーを帯び4人同時にベルモースを蹴りつける。

ベルモース「ぐあああああああ！！？」

ベルモースは消滅した。

.....

エルスとミラージュはもとの世界に戻った、そしてアジトのボスを倒した一同は

蒼牙「メデューサ本部に行けばいなくなった5人がどこかわかるかもな。」

勇奈「本部に輸送されたってのもあり得るかもね。」

すると

「しんのすけ!?!」

しんのすけ「えっ!?!」

何と上空からひろしとみさえがカンタムロボに乗りやってきたのだ。

.....

その頃メデューサ本部では

ピーチ「ちょっと縄ほどいて!?!」

ドリーム「ああ!?!お腹減ったあ!?!」

ルージュ「あんたね(汗)」

リズム「でもメデューサ本部に来ちゃったね。」

ウィンディ「結果オーライかな?」

すると怪人が

怪人「うるさいぞ!」

ウィンディ「だったら縄をほどいて!?!」

怪人「直に外す、お前達は死ぬからな。」

「えっ？」

つづく

第33話 救世と完全（後書き）

次回、メデューサ本部に突入！！

第34話 本部突入

カンタムロボのおかげで家に戻れた野原一家。

ひろし「しんのすけ、行くのか？」

しんのすけ「うん！！オラ面倒だをそう君達とやっつけたいゾ！！」

みさえ「・・・わかったわ、でも無茶はしないでね。」

しんのすけ「ぶ！！ラジャー！！！！」

しんのすけは蒼牙達に駆け寄る。

蒼牙「良いのか？」

しんのすけ「大丈夫だゾ！！」

蒼牙達カンタムロボに乗りメデューサ本部に向かった。
サンシャイン「カンタムロボ、本部がわかるの？」

カンタム「かすかにプリキュアの力を感じるんだ、おそらくたどり着ける。」

龍「へえ。」

.....

メデューサ本部

怪人「タイラント様！！何者かがこちらに向かっております！！」

タイラント、メデューサの真の女首領だ。

タイラント「かまわないわ、乗り込ませなさい。」

怪人「はい！！」

タイラント「うふふ、地獄のショーの始まりよ。」

.....

捕まった5人は縄をほどかれ何やら控え室のような所に移動させられていた。

ピーチ「何がはじまるんだろう？」

ウィンディ「私達は死ぬって言ってたよね。」

ルージユ「なんか嫌な予感がするなあ。」

ドリーム「大丈夫だよ！！私達なら！！」

リズム「そうですよ！！蒼牙さん達も来ますよ！！」

ルージユ「・・・そうだね、怖がってても始まらないよね。」

すると戦闘員がやって来た。

戦闘員「その扉の向こうへ行け。」

ドリーム「扉？」

5人は扉の向こうへ進んだ。

5人「えっ……」

……

タクヤ「どうだカントム？」

カントム「段々力が強くなってる……あそこだ!!」

ミント「あそこにみんなが……」

カントムはメデューサ本部の目の前に降りた。

カントム「だいぶ体力を使ってしまった。」

蒼牙「休んでいてくれ、俺達が……」

するとメデューサ本部の入り口がひとりでに開いた。

マリソ「なっ何!？」

ブロッサム「私達を……誘ってる？」

アイリ「用心して行きましょう。」

一同は入り口から本部に乗り込んだ、そこはただ狭い廊下がのびて

龍一「観客俺達以外戦闘員か怪人じゃねえか。」

メロディー「何で本部にこんな所が？」

するとアナウンスが響いた。

「さあついに始まったあ！！メデューサ幹部とプリキュアとの生死を決めるバトルオオオルロワイアアアアアアル！！！！！！！！！！」

「ワアアアアアアアア！！！！」

タクヤ「バ、バトルロワイアルだと？」

見るとさらわれた5人が会場にいた。

レモネード「助けましょう！！！！」

しかし

タクヤ「待て！！手をだしたら何されるかわからない！！！！」

アクア「じゃあどうするの！？」

アイリ「彼女達を信じましょう。」

しかしその選択が悲劇を生み出すのだ。

UJU

第34話 本部突入（後書き）

次回、悲劇の始まり

第35話 絶望

「さあ！！ルール説明だ！！このバトルロワイアルはダブルス二回とシングルス一回で行われる！！全て勝ち抜いた方のチームが勝利だ！！だがもし勝負がつかない場合はもう一度シングルスが行われるぞ！！勝負方法は相手が戦闘不能になるまで行われるぞ！！」

蒼牙「つまり本当に生死がかかってるって事か。」

ブラック「なら助けないと！！」

タクヤ「馬鹿見てみる、会場にいる怪人や戦闘員はどうみても千を越えてる、しかも雰囲気からして今までよりはるかに強い奴らだ。」

ムーンライト「私達20人程でかかってても返り討ちにされるわね。」

アクア「ここはみんなを信じましょう。」

そしてまず第1試合が始まるとしていた。

「さあ！！まずはダブルスだあ！！ダブルスは二人が戦闘不能になるまで終わらないぞお！！」

対戦選手

プリキュアチーム

キュアドリーム、キュアルージュ

ホワイト「ドリームとルージュね。」

しんのすけ「おお!!！」

龍一「だが安心はできないな。」

メデューサチーム

サガーク、メフィスト

「プリキュアチームはキュアドリームとキュアルージュ!!メデューサチームは瞬速戦士サガークに頭脳派戦士メフィストだあ!!！」

ドリーム「必ず勝つてみんなと帰ろう!!！」

ルージュ「当然よ!!！」

サガーク「へえ、なかなかかわいい奴らじゃん。」

メフィスト「まずは動きを見ますよ。」

そしてついに試合が始まった、まずドリームは高く飛び上がり回転しながらサガークに向かってかかと落としを繰り返した。

ドリーム「はあ!!！」

サガーク「おっと!!！」

サガークは攻撃をかわしレイピアを取り出した、それでドリームに攻撃を仕掛ける。

サガーク「ほらほら!!」

ドリーム「くっ!」

ドリームは攻撃をかわしながら隙をうかがう。

ルージュ「のんきね本を読んでるなんて。」

メフィスト「あなたを調べてるんですよ、ふむふむ情熱の戦士キュアルージュ、必殺技はプリキュア・ファイヤーストライクにルージュファイヤーなど……」

ルージュ「なら読み終わる前に叩く!!」

ルージュはメフィストに飛び膝蹴りを繰り出し本を蹴り飛ばしメフィストに裏拳を繰り出すがメフィストはそれを受け止める。

ルージュ（予想通り!!次は……）
すると

メフィスト「次は溝を殴りひるんだ隙に頭に蹴りを叩く、ですね?」

ルージュ「なっ!?!」

ルージュはメフィストと距離をおく。

メフィスト「図星のようですね。」

ルージュ「あんた何で・・・」

メフィスト「あなたの攻撃パターンはもう既に暗記済みです、さっきは最後の確認です。」

ルージュ「・・・ならこれならどうよ!!」

ルージュは高く飛び上がり炎の球を出現させた。

ルージュ「プリキュア!!ファイヤーストライク!!」

ルージュは火球を蹴り飛ばしメフィストに放つ。

メフィスト「ならこれですかね。」

メフィストはファイヤーストライクをかわしルージュの目の前で接近し殴り落とした。

ルージュ「きゃあ!?!」

ルージュは地面に叩きつけられた、メフィストは静かに着地する。

ドリーム「クリスタルフルーレ!!希望の光!!」

ドリームはレイピアに対抗しクリスタルフルーレで攻撃を仕掛ける。

サガーク「かわいいくせに剣使うのか!!」

ドリーム「ありがとう誉めてくれて!!」

ドリームとサガークの剣とレイピアの攻防がつづく。

サガーク（さあて、体があつたまってきた。）

するとサガークはドリームの攻撃をかわし後ろに回り込んだ。

ドリーム「あつ！？」

サガーク「はあ！！」

サガークはレイピアでドリームの肩を突き刺した。

ドリーム「ああ！？」

サガークはレイピアを抜きひるんだドリームを蹴り上げた、そしてドリームが地面に落ちる前にドリームの落下地点に回り込み再び蹴り上げる、しばらくこれがつづいた。

蒼牙「速い！？」

メロディー「ドリーム何もできないじゃない！？」

そしてサガークはドリームの腹にかかと落としを入れ地面に叩きつけた、ドリームは血を吐き出す。

ドリーム「がはっ！？」

サガーク「さあてまだまだ！！」

ルージユ「はあ！！やあ！！」

メフィスト「左、右、真ん中・・・」

ルージュは全ての攻撃をかわされてしまっ、一度全てを見たかのよう

ルージュ（当たらない！？どこへ攻撃しても当たらない！！）

メフィスト「焦ってますね。」

メフィストは手から渦巻き状の光線を放ちルージュを吹き飛ばした。

ルージュ「あああ！！」

メフィスト「まだまだこれからですよ。」

メフィストはドリームに接近しドリームの首を締め付ける。

ドリーム「なっ！？」

サガーク「きたなメフィスト！！」

メフィスト「いきますよ。」

メフィストはドリームを上空に投げ飛ばしサガークは飛び上がりレイピアを振るう、ドリームはクリスタルフルーレで受け止める。

ドリーム「うう！？」

サガーク「メフィスト！！」

するとメフィストがサガークの後ろから現れサガークがドリームから離れると何とかかと落としてクリスタルフルーレをへし折ったのだ。

ドリーム「ああ!?!」

メフィスト「終わりです。」

メフィストは渦巻き状の光線を放ちドリームを地面に叩きつけた。

ドリーム「きゃああ!?!」

サガークとメフィストは着地しサガークはドリームの髪をわし掴みにして持ち上げた。

サガーク「おるあ!?!」

ドリーム「きゃあ!?!」

メフィスト「はあ!?!」

ドリーム「ああ!?!」

ドリームは2人にリンチ状態にさらされた、すでに口や頭からも血を流し立つことすらままならなかった。

ルージュ「やつ・・・やめて!?!」

ルージュは何とか立ち上がり二人にファイヤーストライクを放つ。

サガーク「危なっ!?!」

メフィスト「やはりきましたか。」

龍一「ていうか何が戦闘不能だよ!? もうドリームは無理だろ!?!」

サンシャイン「おそらく、このバトルロワイアルの戦闘不能は死ぬ事なんだ……」

アイリ「そんな……」

サガークとメフィストはルージュに接近する、ルージュは2人の攻撃を何とかかわしドリームに駆け寄る。

ルージュ「ドリーム!! しっかりして!!」

ルージュはドリームを抱きかかえる。

ドリーム「うう……ルージュ……大丈夫だよ。」

ルージュ「ドリーム!! ……あんたら絶対に許さない!!」

ルージュは地上で三発連続でファイヤーストライクを放つ、サガーク達は高く飛び上がるが先にルージュがいた。

サガーク「何!?!」

メフィスト「遅れましたか。」

ルージュ「はあああああああ！！」

ルージュは数十発連続でファイヤーストライクを放つ、土煙でサガーク達は見えなくなった、ドリームは何とか身を起こす。

ドリーム「ルージュ凄い！！」

ルージュ「当然・・・！？」

ドリーム「えっ・・・」

それは一瞬の事だった、土煙から飛んできたレイピアがルージュの心臓を貫いたのだ、ルージュは口から血を流す。

ルージュ（なっ・・・何？何が起こったの？）

ルージュは上空から落ちた。

ドリーム「ルージュ！！」

ドリームはルージュに近づきレイピアを引き抜いた。

ミント「ル、ルージュ・・・」

蒼牙「なっ・・・」

ブロッサム「待って・・・ください・・・」

ドリーム「ルージュ！！しっかりして！！ルージュ！！」

ルージュ「油断したわ・・・」

サガークが土煙から出てきた、メフィストの姿は無かった。

サガーク「サンキューメフィスト。」

.....

ルージュがファイヤーストライクを放った時サガークはメフィストを掴み投げ飛ばした。

メフィスト「なっ！サガーク!？」

サガーク「バイバーイ。」

メフィスト「ぎゃあああ!？」

.....

サガーク「良い盾があつたよ。」

ドリーム「ルージュ!？ルージュ!？」

ルージュは胸を押さえている手でドリームの手を握る。

ルージュ「ごめんね・・・」

ルージュの目の輝きが消えた。

ドリーム「!!!!・・・りんちゃん・・・」

サガーク「そろそろ良いか？まだ終わって・・・!？」

サガークの体を桃色の閃光が貫いた、ドリームだった。

サガーク「なっ・・・」

ドリーム「はあはあ・・・」

サガークはその場で倒れた。

ドリーム「りんちゃん・・・」

ドリームはルージュのもとにふらつきながら歩いていくとサガークが突如現れた穴に落ちるのを見た。

ドリーム「えっ、まさか・・・」

ドリームはルージュの所に走っていく。

ドリーム「りんちゃん!!」

しかしルージュの亡骸は現れた穴に落ち見えなくなった。

ドリーム「りんちゃんああああああああああああん!!!!!!」

.....

タクヤ「.....」

蒼牙「そんな・・・」

メロディー「ウソだよ・・・ウソだよ!？」

マリリン「何で・・・何で・・・」

「さあて第1ダブルスはパートナーを失ってしまったがプリキュアチームの勝利だ!!盛り上がってきたぞお!!」

「ワアアアアアアアアアアア!!」

蒼牙（・・・ふざけるな・・・命を奪っておいて・・・何が・・・何が盛り上がるだ・・・）

一同は泣き崩れ、怒りを押さえていた、ドリームはしばらく動く事が出来なかった、キュアルージュという親友を死なせてしまったからだ。

第36話 苦難(前書き)

今回も悲しい結末が

第36話 苦難

ルージュが死んだ事にかんりのショックを受けたドリームはリズムとウィンディに控え室に運んでもらった。

アイリ「りんが死ぬなんて・・・」

ローズ「そんなのあんまりよ!!」

サンシャイン「りん・・・」

するとアナウンスが流れ出した。

「さあて!!盛り上がってきたバトルロワイアル!!次の対戦選手はこれだ!!」

プリキュアチーム

キュアウィンディ、キュアリズム

メデューサチーム

ムシャン

ゴラス

「プリキュアチームは風の戦士キュアウィンディにたおやかな調べのキュアリズム!!メデューサチームは伝統の侍ムシャン!!怪力のゴラスだ!!」

ムシャン「わが刀に斬れぬ物はない。」

ゴラス「うおおおお!!」

ウィンディ「絶対に負けられない!!」

リズム「絶対勝つ!!」

「試合開始だあ!!」

ウィンディは突風を起こしゴラス、ムシヤンの動きを封じる。

ウィンディ「風の力!!」

ゴラス「ぐおお!!」

ムシャン「・・・斬る!!」

ムシヤンは刀で突風を切り裂いた。

リズム「えっ!?!」

ウィンディ「風が・・・」

そしてゴラスが腕をブンブンと振り回しながら接近してきた。

ウィンディ「かわそう!!」

リズム「うん!!」

ウィンディとリズムは高く飛び上がりゴラスの後ろに回り込み同時に蹴りを叩き込んだ。

ウィンディ、リズム「はあ!！」

ゴラス「ぐはっ!？」

そして2人はムシャンに向かって走り出す。

リズム「刀には注意ね!！」

ウィンディ「わかった!！」

リズムはムシャンに飛びかかる、ウィンディは光弾を放つ。

ムシャン「せい!！」

ムシャンは光弾を叩き斬り、再び鞘に戻しリズムを蹴り飛ばす。

リズム「きゃあ!？」

ウィンディ「リズム!！」

ウィンディはリズムを受け止める。

ムシャン「隙が多い・・・今もな。」

ウィンディ、リズム「えっ・・・!？」

2人は後ろから接近していたゴラスに気がつかず殴りとばされてしまった。

ウィンディ、リズム「きゃああ!?!」

龍一「ゴラスの奴、2人を殴る事しか考えてねえ。」

ホワイト「ムシャンが上手く2人を誘導してる。」

2人はゴラスを蹴り飛ばそうとするがゴラスに受け止められムシャンに向かって投げ飛ばされたのだ。

リズム「ああ!?!」

ウィンディ「まずいわ!?!」

ムシャン「居合い!?!」

ムシャンは鞘から刀を抜くと同時に2人を斬りつけた。

ウィンディ、リズム「きゃああ!?!」

ピーチ「まずい……このままじゃ……」

「ピーチ……」

控え室からドリームが戻ってきた。

ピーチ「ドリーム、大丈夫なの?」

ドリーム「何とか・・・でも2人が・・・」

するとムシャンが2人に飛びかかり刀を振り下ろす、2人は何とか
かわし体勢を立て直す。

リズム「私まだ単独の必殺技使えないのに・・・」

ウィンディ「はあ!!」

ウィンディが光弾を放ちムシャンの気をひかせる、その隙にリズム
がムシャンに飛びかかり蹴りを入れる。

リズム「やあ!!」

ムシャン「むう!?!」

ムシャンは後退する、しかしすぐさま体勢を立て直しリズムを斬り
つけた。

リズム「きゃあ!?!」

ウィンディ「リズム!!」

ウィンディはリズムに駆け寄るがゴラスに殴り飛ばされた。

ウィンディ「きゃあ!?!」

ウィンディは壁に叩きつけられる。

リズム「くう・・・」

リズムは斬られた個所を押さえる、しかしかなり血が流れていた。

ウィンディ「ああ……」

ウィンディは口から血を流していた。

メロディー「もうやめてよ!? 2人が死んじゃう!」

ブライト「お願いやめて!」

しんのすけ「そう君、どうすれば良いの?」

蒼牙「……」

ウィンディは何とか立ち上がり拳を握る。

ウィンディ（こうなったら奥の手、光弾を拳にまわせてあたる瞬間に爆発させる……かなり効くはず!）

ウィンディは光弾を拳にためる。

ウィンディ「はああああ!」

ゴラスが邪魔をしようとするがリズムに蹴り飛ばされる。

リズム「ウィンディ!」

ウィンディ「うん!」

ゴラスは2人で協力すれば何とかなる、ムシヤンを倒せば勝機は見えるとふみウインディはムシヤンに飛びかかる。

ウインディ「おわりよ!!」

ドリーム「ムシヤンは刀をしまつて座つてるだけ!!」

ピーチ「いける!!」

しかし

龍一「やめろ!!近づくな!!」

一同は龍一の言葉に戸惑った。

タクヤ「しまった!!」

しかし遅かった、ウインディは一瞬のうちにムシヤンの刀に斬られてしまった。

ウインディ「!?!」

リズム「ウインディ!?!」

アイリ「なっ、何!?!」

アクア「今のは一体!?!」

するとサンシャインが

サンシャイン「居合い斬り……」

龍一「刀の技で最高の速さを持つ技。」

ブラック「でもさっきまで普通にかわせてたじゃん!？」

蒼牙「あんな技を持つなんて……手を抜いてたんだ。」

ブライト「ウィンディ!？」

ウィンディは腹部から大量の血を流しながら倒れた。

ウィンディ（そんな……そんな……）

するとムシャンが近づく。

ムシャン「これが拙者の力、その力にひれ伏せ。」

ウィンディ「な……」

そしてムシャンはウィンディに刀を突き刺した、既に動けないにもかかわらず。

ウィンディ「!……」

ウィンディは目の輝きを失った。

リズム「そんな……!？」

ゴラスはリズムの首を掴み壁に何度も叩きつけた。

第36話 苦難（後書き）

果たしてどうなるか

「おい、まだか？」

「ちょっと待ってよマーベラス!!」

「直につくだろ。」

「ていうかあんた本当にあたし達行っているの？」

ターザン「まだ時間はかかるがゲストなら大丈夫だ、それにある方がお前達を送り込んだからな。」

「わたくしもその方達を助けたいですわ。」

ターザン「まあ、もう少し待っててくれ。」

第37話 友達

・ ルージュ、ウィンディ、リズムが犠牲になってしまった、その頃・

「見えてきたぞ。」

「あれが本部か。」

「ねえ本当に行くの!?!」

「じゃああんたここにいたら?」

「そう言わずに、あの方達を助けましょう。」

5人の若者が巨大な船艦でメデューサ本部に向かっていた。

.....

「さあついに始まったシングルス!!! 対戦選手はこれだ!!!」

プリキュアチーム

キュアピーチ

メデューサチーム

ファルケン

「プリキュアチームからは愛の戦士キュアピーチ！！メデューサチームからはクールな鳥人ファルケン！！」

ピーチ「絶対に・・・絶対に勝つ！！」

ファルケン「華麗に行くよ。」

そしてついにシングルス戦の戦いが始まった。

ピーチ「はあ！！」

ファルケン「たあ！！」

ピーチの拳とファルケンの蹴りがぶつかり合った。

ピーチ「プリキュア！！ラブサンシャイン！！」

ピーチは至近距離からラブサンシャインを放つがファルケンはそれをかわし自分の羽を抜くとそれは剣のようになった。

ファルケン「しゃあ！！」

ピーチ「きゃあ！？」

ピーチは腕を斬られた、傷口から流れる血を押さえて反撃する。

ファルケン「くっ！！」

ピーチ「だああああ！！」

ピーチは連続蹴りを繰り返す、しかしファルケンはそれをすべてかわしピーチの後ろに回り込んだ。

ピーチ「あ!?!」

ファルケン「はあ!?!」

ファルケンはピーチを上空に投げ飛ばし頭から落下するピーチを掴み地面に頭から叩きつけた。

ピーチ「!?!」

ファルケン「ふん。」

ファルケンが離れるとピーチは動かなくなった、だが息はしている。

ピーチ（頭が……ぐらぐらする……うう!?!）

ピーチは何とか身を起こし立ち上がる、しかし視界がかすかにぼやける。

ピーチ「上手く見えない……うう……」

ファルケン「限界か?」

ピーチ「誰が!?!」

龍「ラブの奴、視界がぼやけてるな。」

ホワイト「頭から叩きつけたられたらやっぱりひとたまりも無いですよね。」

パッション「頑張っつてピーチ!!」

ピーチはふらつきながらもファルケンに攻撃をする。

ピーチ「プリキュア!!ラブサンシャインフレッシュ!!」

ファルケン「ぐお!?!」

ファルケンは愛のエネルギーに包まれる。

ピーチ「はあああああ!!」

ファルケン「ちっ!ふん!!」

ファルケンは羽を飛ばしピーチの腹に突き刺した。

ピーチ「あっ!?!」

ピーチは羽を抜き傷口から流れる血を押さえる。

ファルケン「たくっ、面倒な奴だ。」

ピーチは何とか立ち上がる。

ピーチ「みんなのために・・・あんたを倒す!!」

ファルケン「ならやってみろ!!」

ファルケンは羽の剣で攻撃を繰り返す、ピーチはピーチロッドで受け止める。

ベリー「頑張っつてピーチ!!」

パイン「必ず勝っつて!!」

ピーチ「やあ!!」

ピーチはファルケンの懐を蹴りつけた。

ファルケン「ぐっ!!?」

ピーチ「だあ!!」

そして飛び上がりかかと落としてファルケンを地面に叩きつける。

ファルケン「ぐおっ!!」

ピーチ「はあ!!」

そして顔を殴り吹き飛ばした。

ファルケン「ぐはっ!?!」

ピーチ「とどめ!!」

ピーチはラブサンシャインフレッシュを繰り返す。

ピーチ「おわりよ!!」

しかし

ファルケン「はっ!!」

ファルケンをハート型のエネルギーを羽の剣で真っ二つにしたのだ。

ピーチ「なっ!」

ドリーム「!!!」

ファルケン「しゃ!!」

ファルケンはピーチを投げ飛ばし再び頭から地面に叩きつける。

ピーチ「がっ・・・は!?!」

ファルケン「面白い戦いだっただよ。」

ファルケンはピーチから離れる、そして羽の剣を構える。

ドリーム「このままじゃピーチが・・・」

ピーチは身を起こす、完全に視界がぼやけていた。

ピーチ「うう・・・まずい・・・」

ファルケン「終わりだ。」

ファルケンが剣を突き出した、ピーチは目をつぶった、しかし痛みがなかった。

ピーチ（あれ・・・なんで・・・!?!?）

ピーチが目を開けるとそこにはドリームが立っていた、衣装が血にまみれたドリームが。

「おおと!?! キュアドリームが乱入したぞ!?! これは反則だあ!?! よって勝者はメデューサチームだあ!?!」

「ワアアアアア!?!」

ファルケンは剣を引き抜いた、ドリームは血を吐き出し倒れた。

ピーチ「ドリーム!?!?」

ピーチがふらふらになりながらもドリームを抱きかかえる。

ピーチ「ドリーム・・・どうして!?!?」

ドリーム「ダメだよ・・・諦めたら・・・死んじゃったらダメだよ・・・」

ドリームは段々と声が小さくなっていく。

ピーチ「のぞみちゃん・・・あなたも死んじゃったらダメだよ!?!」

ドリーム「・・・ごめんね・・・ラブちゃん・・・でも私・・・安心してるんだ。」

ピーチ「えっ？」

ドリーム「友達のこと……ちゃんと……守れたか……ら……」

ドリームは一筋の涙を流し目の輝きを失った。

ピーチ「のぞみちゃん……のぞみちゃん!!」

すると

ファルケン「死んだ者は落とされる。」

ピーチ「!!!」

ファルケンはピーチを蹴り飛ばした。

ピーチ「きゃあ!?!」

ファルケン「さらばだ、プリキュアよ。」

ドリームは穴の中に消えた。

蒼牙「……畜生!!」

アクア「のぞみまで……」

すると観客席にいた怪人や戦闘員が会場に降りた。

ピーチ「!?!」

龍「なんだ!?!」

ブロッサム「なんでみんな降りてるんですか!?!」

タクヤ「ピーチを殺すつもりだな。」

マリ「させない!!」

一同は会場に降りた、蒼牙達は変身した。

しん王「ラブちゃん!!お助けするゾ!!」

ピーチ「みんな・・・」

ヤイバ「うおおおおお!!」

しかし

「お待ちなさい。」

一同「!?!」

すると目の前には恐ろしい姿をした女が現れた。

ヤイバ「何だお前は!?!」

タイラント「私はタイラント、メデューサの首領です。」

ケン「てめえが・・・」

ヤイバ「やあ!!」

ヤイバは剣を振り下ろすがタイラントの指二本で受け止められた。

ヤイバ「何!？」

タイラント「おろかな、しかし面白い人ですね、遊んであげましよう。」

するとヤイバとタイラントは謎の次元に吸い込まれた。

ピーチ「蒼牙さん!!」

しん王「そう君!!!!」

なんとピーチとしん王も次元に入っていった。

シャイバ「仕方ない、俺達で何とかするしかないな。」

ディリー「ムシャンやゴラスもいるじゃない!？」

メロディー「仲間の仇!!」

ブライト「絶対にとる!!」

一同「うおおおお!!」

.....

その頃、地下室では死んだプリキュアの亡骸が放置されていた、そこに5人の若者が現れた。

「こいつらがプリキュアか。」

「でも死んでるよ?。」

「間に合いませんでしたね。」

「どうするマーベラス?。」

「どうしようも出来ないよね?。」

するとマーベラスと呼ばれた男が答えた。

マーベラス「そういえばどっかの世界のプリキュアがスーパー戦隊と協力したって聞いたな、俺達の力打ち込めば蘇生できたりしてな。」

「待って、スーパー戦隊の力を打ち込むと……可能だ!!。」

「じゃあやるか。」

「やっっちゃおう!!。」

「良いですね。」

5人はたちまち姿を変えプリキュアの亡骸に銃をむけた。

「ゴーカイブラスト。」

UNU

第37話 友達（後書き）

次回、派手に行くぜ！！

第38話 海賊

シャイバ「でやあ!!!」

ピーチ「はあ!!!」

ブロッサム「たあ!!!」

ケン「おるあ!!!」

一同は闘技場の怪人を倒していくが

ゴラス「うおおお!!!」

ムシャン「遅い!!!」

ファルケン「しゃっ!!!」

「うわあああああ!?!」

バトルロワイアルに出場したゴラス、ムシャン、ファルケンに苦戦していた。

ムシャン「我々に勝つなど不可能。」

ファルケン「諦めな。」

ディリー「っ、強い……」

メロディー「万事休すだよ……」

ローズ「このままじゃ……」

そして3人は一同にとどめをさそうとしたその時、3人の攻撃は謎のバリアに防がれた。

ムシャン「!?!」

3人はバリアから離れる。

????「大丈夫!?!」

シャイバ「お前ら、なんで……」

シャイバ達は気を失ってしまった、そのバリアでシャイバ達を守ったのは死んだはずのルージユ達だった。

ルージユ「どうしよう。」

ファルケン「なんでお前ら!?!」

すると5人の若者が現れた。

????「そいつら避難させとけ。」

ウィンディ「あつ、はい!?!」

????「4人で大丈夫?」

リズム「何とか!！」

ドリーム「よいしょ!！」

ルージユ達はシャイバ達を闘技場からだした。

????「これで安心ですね。」

ファルケン「何だお前らは!？」

????「名前聞かれてるよ?」

????「へっ、特別に教えてやる。」

すると5人の若者は携帯電話を開き、鍵をさした。

????達「ゴーカイチェンジ!！」

すると携帯電話から音声が響き若者は姿を変えた。

「ゴーカイジャー!！」

「ゴーカイレッド!！」

「ゴーカイブルー!！」

「ゴーカイイエロー!！」

「ゴーカイグリーン!！」

「ゴークaipink!」

「海賊戦隊!!!ゴークaijya!!!」

ムシャン「ゴークaijya?」

ファルケン「なんだか知らんがやれ!!!」

怪人「うおお!!!」

怪人達はゴークaijyaを襲う、ゴークaireddは拳銃を手で回す。

ゴークairedd「派手に行くぜ。」

ゴークaireddは拳銃を連射し怪人を打ち抜いていく、そして片手で持つ剣で怪人達を切り倒していく。

怪人「ぎゃあ!?!」

ゴークaiblue「はあ!!!」

ゴークaigreen「やあ!!!」

ゴークaiero「せい!!!」

ゴークaipink「たあ!!!」

ゴークaijyaは拳銃で打ち抜きながら剣で切り倒していき

ゴークaiblue「マーベラス!!!」

ゴークイレッド「ああ！！ハカセ！！」

ゴークイグリーン「うん！！」

ゴークイレッドは剣をゴークイブルーに向かって投げ、ゴークイブルーは拳銃をゴークイグリーンに投げ、そしてゴークイグリーンは剣をゴークイレッドに投げ渡す。

ゴークイレッド「よおし！！」

ゴークイブルー「はっ！！」

2人は次々と怪人達を切り倒していく。

ゴークイグリーン「うわああああ！！？」

ゴークイグリーンは怪人達に投げ飛ばされたが運良く怪人達を押し倒した。

ゴークイグリーン「あっ！！凄い偶然！！はあ！！」

そして怪人達を打ち抜いていく。

ゴークイイエロー「せい！！はあ！！アイム！！」

ゴークイピンク「承りました！！」

ゴークイイエローは拳銃をゴークイピンクは剣を互いに投げ渡した。

ゴーカイピンク「はあ!!」

ゴーカイピンクは次々に怪人達を打ち抜いていく。

ゴーカイイエロー「こっからが本番!!」

ゴーカイイエローはロープのような物に剣をつけヌンチャクのように振り回し怪人達を切り倒していく。

怪人達「奴らを倒せ!!」

ゴーカイイエロー「ああもう!!うじゃうじゃと。」

ゴーカイレッド「あれやるか?」

ゴーカイブルー「やるか。」

するとゴーカイジャーはある人形を鍵に変形させ携帯電話にさした。

「ゴーカイチェンジ!!」

「ゴーレンジャー!!」

するとゴーカイジャーは秘密戦隊ゴレンジャーに変わったのだ。

ムシャン「何と!?!」

モモレンジャー「ゴレンジャーハリケーン!!参ります!!」

アカレンジャー「ゴレンジャーハリケーン!!宇宙船!!」

ゴレンジャーは一斉に走り出しモモレンジャーがラグビーボールを取り出しミドレンジャーに投げ渡した。

モモレンジャー「ハカセさん!!」

ミドレンジャー「わかった!!おっと!!お願い!!」

キレンジャー「はいよ!!ジョー!!」

それぞれリフティングしながら受け渡していきアオレンジャーがキヤッチし構える。

アオレンジャー「マーベラス!!」

アカレンジャー「ああ!!エンドボール!!」

アカレンジャーはラグビーボールを蹴り飛ばすとそれは宇宙船に変わった。

怪人達「?」

すると怪人達は宇宙船に吸い込まれ宇宙の彼方に飛んでいった。

ゴラス「うおおお!!」

ゴラスがアカレンジャーを殴り飛ばした。

アカレンジャー「ぐあ!?!やりやがったな!?!」

アオレンジャー「サムライはオレと八カセでやる!!」

ミドレンジャー「わかった!!」

キレンジャー「じゃあ鳥は私とアィムね。」

モモレンジャー「はい!!」

アカレンジャー「じゃあ怪力はおれか!!」

5人はそれぞれ鍵を携帯にさす。

5人「ゴーカイチェンジ!!」

「シンケンジャー!!」

「ジエートマン!!」

「ダイレンジャー!!」

するとアカレンジャーはリュウレンジャー、アオレンジャーとミドレンジャーはシンケンブルーとグリーン、モモレンジャーとキレンジャーはホワイトスワン、イエローオウルに変わった。

ホワイトスワン「スワニーアタック!!」

イエローオウル「必殺つっぱり!!」

ファルケン「ぐお!?!」

シンケンブルー「水流の舞！！」

シンケングリーン「木枯らしの舞！！」

ムシャン「ぐぬ！？」

リュウレンジャー「天火星稲妻炎上破！！！！」

ゴラス「ぐはっ！？」

シャイバ達が苦戦した怪人をいとも簡単に追い詰めるゴーカイジャ
ー。

ゴーカイレッド「とどめだな。」

ゴーカイジャーは鍵を剣にさした。

「ファイナルウェイブ！！！！」

ゴーカイジャー「だあああ！！！！」

エネルギーを帯びた剣が怪人を襲うがムシャンがゴラス、ファルケ
ンを盾にして逃げ出した。

ゴラス、ファルケン「ぐあああああ！？」

ゴラスとファルケンは爆散した。

ゴーカイレッド「一匹逃げたか。」

ゴーカイブルー「とりあえず俺達の役目は終わりだ。」

ゴーカイグリーン「だね。」

ゴーカイイエロー「あとはプリキュアにヤイバ、しんちゃんに任せよう。」

ゴーカイピンク「ご無事をお祈りします。」

「ゴーカイガレオン!!」

ゴーカイジャーはゴーカイガレオンに乗り込み大砲でアジトを破壊した。

.....

ルージュ達はシャイバ達をアジト外に避難させていた。

シャイバ「ゴーカイジャーか・・・」

メロディー「良かったよ!!!リズム!!!リズム!!!」

リズム「ちよつとメロディー!?!痛い!?!」

デイリー「良かった、みんな。」

ルージュ「ありがとう、ゴーカイジャー。」

U, U, U

第39話 正々堂々

ヤイバ「ぐあああああ!?!」

ピーチ「きゃあああああ!?!」

しん王「うわああああ!?!」

3人はタイラントとの戦いで苦戦していた。

ヤイバ「やば、手も足も出ない……」

ピーチ「何とかしないと……」

しん王「頑張るゾ!?!」

タイラント「無駄よ、頑張るなんて。」

ヤイバ「残念だな……俺達は諦めるって言葉知らなくてね。」

ピーチ「絶対にあなたを倒す!?!」

しん王「行くゾ!?!」

ヤイバは剣で斬りかかるが何かに受け止められた、ムシヤンだった。

ヤイバ「なっ!?!」

タイラント「ムシヤンか……」

ムシャン「ここは・・・拙者に・・・」

タイラント「まかせた。」

タイラントは空の彼方に飛んでいった。

ピーチ「あつ待て!!」

しん王「そう君!」

ムシャン「拙者を倒してから・・・行け。」

ムシャンは体中傷だらけだった。

ヤイバ「体中傷だらけじゃないか。」

ムシャン「関係ない!!」

するとヤイバはベルトを外し変身を解きピーチに渡した。

ピーチ「えっ!?!」

蒼牙「正々堂々勝負だな。」

ムシャン「その言葉を待っていた。」

ムシャンは二本ある自分の刀の一本を蒼牙に投げ渡した。

ムシャン「いざ尋常に・・・」

蒼牙「勝負!!」

ムシャンと蒼牙は刀を抜き見合う。

しん王「ラブちゃ ピーチ「しゃべったらダメ!!」!!」

蒼牙「……」

ムシャン「……」

……!!

蒼牙とムシャンは同時に斬りかかり刀から火花がちる。

蒼牙「ぐっ（力は奴が上か!?!?!）」

ムシャン「ぬう!!」

蒼牙は体を回し刀を受け流す。

ムシャン「ふん!!」

蒼牙「はっ!!」

攻撃を受け止め反撃も受け止め、互いに一步も譲らない攻防戦だった。

蒼牙「やあ!!」

蒼牙が刀を突き出す、ムシヤンはそれをかわし蒼牙の顔めがけて刀を突き出す、間一髪かわすが頬にかすっていた。

蒼牙「ちっ！！！」

蒼牙はムシヤンを蹴り飛ばす、ムシヤンは体勢を立て直す。

ムシヤン「はあ！！！」

ムシヤンは刀を横に振った、蒼牙はそれを飛び上がり空中回転しながらかわす。

ムシヤン「馬鹿者！！！」

ムシヤンはすかさず振り向き振りかぶった、しかし蒼牙は素早く刀を持ち替え振り向かずにムシヤンの腹に突き刺した。

ムシヤン「がはっ！？！」

ピーチ、しん王「！！！！！」

蒼牙「はあ．．．はあ．．．」

．．．．．

ムシヤン「見事な太刀筋だ．．．お主達ならタイラント様を．．．お助けできる。」

ピーチ「タイラントを？」

しん王「どゆこと?」

ムシヤンはある事実を話した。

.....

タイラント様は本当は人間、優しい心を持った美しい少女だった。
・あの日までは・・・タイラント様は勉強も運動も完璧にこなせ、
憧れの的だった・・・しかし

「あいつ、うざくね?」

「調子のってるよな。」

「ちょっと罰を与えようぜ。」

.....

少女「止めて!!止めて!!」

「調子のんじゃねえよ!!」

タイラント様は羽交い締めになれ・・・熱せられた鉄パイプを体中に焼き付けられた・・・嫌というほど・・・そしてついには学校の生徒、教師も家族もタイラント様の出来すぎた才能をねたみ、無視体罰を与えた、そしてついにタイラント様は人を信じられず、恨みの欲望に飲み込まれた・・・

.....

ムシャン「これがタイラント様が話してくれた唯一の過去だ・・・
タイラント様を・・・頼む・・・」

ムシャンはそう言い残し消滅した。

ピーチ「そんな・・・」

しん王「ねえラブちゃん、そう君、運動もお勉強も出来たら何でダメなの？」

蒼牙「ダメじゃない・・・周りの奴が腐りきっていたんだ・・・仲間を殺した奴の言う事を聞くのは難だけど・・・」

蒼牙は拳を握りしめる。

蒼牙「助けよう！！・・・タイラントを恨みの欲望から！！」

ピーチ「・・・うん！！」

しん王「賛成だゾ！！」

つづく

第40話 集合!! (前書き)

ついに全員集合!!

第40話 集合!!

ムシャンから事実を知った蒼牙達はタイラントを追う体勢を整える。

蒼牙「・・・ん?」

ピーチ「どうしたの?」

しん王「何かいるの?」

蒼牙は何かを感じ取った、そして空間がねじれ怪人の大群が現れた。

蒼牙「げっ!?!」

ピーチ「多すぎる!?!」

しん王「あわわあゝ!?!」

すると蒼牙達の背後の空間もねじれそこからなんとシャイバ達出现在了。

シャイバ「おそくなつたな。」

ケン「悪い。」

蒼牙「タクヤ!?!それにりんに奏達まで!?!」

ピーチ「何で!?!」

ルージュ「手短に話すと助っ人が来て生き返らせてくれたって感じ。」

蒼牙「本当に短いな。」

しん王「うわあ〜い！！りんちゃん奏ちゃん！！」

しん王はリズムに飛びついた。

リズム「よしよし。」

ドリーム「私達もいるんだけどな（汗）」

すると

怪人「貴様らいつまで話してるつもりだ!？」

蒼牙「あつ、やべえ。」

ディリー「でもあの数私達だけじゃ・・・」

しかしコズミックが

コズミック「いや、大丈夫みたい。」

ムーンライト「どういう事?」

「!?!?!?」

謎の音が響くと空間がガラスのように割れ中から多数のプリキュア

が現れた。

サンシャイン「あれは!?!」

「全てを希望へ導く救世の光!?!キュアセイバー!?!」

「救済と新生を司りし閃光!?!キュアエルス!?!」

「希望司る風と雷の戦士!?!キュアテンペスト!?!」

「勇気司る炎と氷の戦士!?!キュアブレイズ!?!」

「溢れ出す熱き魂!?!キュアスピリット!?!」

「穢れなき光映すは純真な心!?!キュアミラージュ!?!」

「希望照らす勇気の火!?!キュアバースト!?!」

一同「えええええ!?!」

そう、それは様々な異世界に存在するプリキュアだった。

蒼牙「エルス!?!来てくれたのか!?!」

エルス「当たり前、仲間でしょ?」

ブレイズ「でもこの人数であの大群きつくはない?」

テンペスト「確かにねえ。」

セイバー「せめてあの子がいれば・・・でも・・・」

その時、セイバーの金の剣が輝きだした。

(真夜・・・)

セイバー「えっ!?!」

(私に・・・力を分けて。)

ミラージュ「セイバー? どうしたの?」

セイバー「来てくれるのね・・・また会えるのね・・・わかった!」

セイバーは金の剣を取り出し上空に投げその真下にエネルギーを発した。

ケン「なんだあ!?!」

そして金の剣が地面に突き刺さるかと思いきや何者かが受け止めた。

????「ちよつと投げるなんて危ないじゃない、真夜。」

セイバー「ごめんなさいね、真夜。」

バースト「えっ!?! セイバーまさかその子!?!」

スピリット「また会えるなんてね・・・」

怪人達は戸惑っていた。

怪人「何だ貴様!?!」

セイバー「聞いてるよ真夜?」

????「そうね、教えてあげる・・・私の名は・・・」

????は前へ出る。

「全てを無へ誘う漆黒の堕天使!!!キュアリベリオン!!!」

それはかつて世界を破壊しようとした悪のプリキュア、キュアリベリオンだった。

怪人「悪のプリキュアか、なら一緒にこの世界を破壊しないか?」

リベリオン「ばっかじゃないの!?!」

一同「!?!」

リベリオンの迫力ある言葉に一同は驚いた。

リベリオン「まあ確かにどっかの誰かさんは私の事虫けらとか言うてたけどさ・・・」

蒼牙「うっ (汗)。」

リベリオン「でもね、私は真夜と一緒に世界を見ると決めたの、そして私は真夜自身・・・真夜がこの世界を守ると言うなら、私もこ

の世界を守る!!」

セイバー「真夜……」

怪人「ほざけ!! ええいやれえ!!」

と怪人達が一同に向かって走りだした。

しん王「うわああ来たあ!?!」

すると

バースト「エルス、早く渡しなさいよ。」

エルス「えっ?」

テンペスト「忘れたの!?!」

ミラージュ「私達が力を込めて作った!?!」

スピリット「最後の切り札!?!」

エルス「……ああ!! 忘れてた!?!」

セイバー、リベリオン「はあ。」

エルスはカードを取り出した。

エルス「デイリー!! 受け取って!!」

エルスはディリーにカードを投げ渡した。

ディリー「このカードは……」

リベリオン「私達が熱意を込めて作ったのよ！！早く使って！！」

ディリーはカードを読み込ませる。

「ファイナルキュアライド！！オオオオルスススターズ！！」

すると背後から一同は虹色の光に包まれた。

ブラック「うわああ！？」

ブライト「ていうか力が！？」

ドリーム「力が……溢れる！？」

ピーチ「ああ！？」

ブロッサム「私達の姿も！？」

メロディー「変わってく！？」

ヤイバ「って俺いつ変身したんだ！？」

そしてプリキュアメンバーはそれぞれ最強形態へ姿を変えた。

ホワイト「スーパープリキュアだわ！？」

ウィンディイーグレット「レインボージュエルの時と同じ!!」

ルージュ「メロディーとリズムもスーパープリキュアに!!これなら勝てる!!」

シャイニングドリーム「あれ?エルス達・・・」

エンジェルピーチ「あれれ!？」

スーパースブロッサム「姿が!？」

スーパーメロディー「変わってる!？」

そう、エルス達も姿が変わったのだ、これはエルス達にも予想外だった。

エルス「ウソでしょ!?!私達も!？」

スピリット「あ、テンペストとブレイズ・・・」

ミラージュ「とりあえず名乗るよ!!」

コズミック「あ、うん・・・神聖なる光の流星!!スターライトコズミック!!」

エルス「悲しみを照らす救済の光!!ライジングエルス!!」

ミラージュ「神聖なる鏡の戦士!!ナイトミラージュ!!」

バースト「神聖なる火!!グレンバースト!!」

スピリット「神聖なる魂！！ハイパースピリット！！」

「未来を繋ぐ奇跡の聖者！！キュアセイント！！」

「世界を紡ぐ幻影の使徒！！キュアファントム！！」

そして

テンペスト（ちょっとブレイズどう名乗るのよ！？）

ブレイズ（わかんないよ、とりあえず息を合わせて・・・なんてのは？）

テンペスト（・・・わかった、せーの！！）

「希望と勇気の心と体！！キュアダブル！！」

テンペスト、ブレイズ（やっぱり心と体がひとつになるなんて慣れないいい！？）

なんとテンペストとブレイズは心も体もひとつになったキュアダブルに変わったのだ。

ケン「まあなんだかんだあるが・・・蒼牙達はタイラントを追え！！！」

シャイニングドリーム「お願いします！！！」

ヤイバ「わかった！！！」

エンジェルピーチ「任せて!!」

しん王「ぶ!!ラジャー!!」

しん王はブリブリざえもんをモチーフにしたエンジン付き三輪車を出した。

ヤイバ「行くぞ!」

ヤイバ、しん王は怪人を走り抜け、エンジェルピーチは羽で飛びながら怪人達を通り抜けた。
今、最終決戦が始まるうとしていた。

つづく

第40話 集合!! (後書き)

次回、パワーアップしたけどセイント、ファントム、ダブル以外は通常の名前で台詞を書きます。

第41話 戦士VS怪人軍団

デイリーの力でパワーアップを果たした一同、今怪人達との戦いが
繰り広げられる。

ブラック「行くよみんな!!」

ブライト「わかった!!」

ドリーム「準備完了!!」

ブロッサム「頑張ります!!」

メロディー「おりゃああ!!」

シャイバ「俺達も行くぜ。」

ケン「おう!!」

一同は怪人軍団に向かっていく。

怪人「スーパー光線!!」

ルミナス「させません!!」

ルミナスが怪人の放った光線を防ぐ。

スピリット「バースト!!行くよ!!」

バースト「わかった！！ルージュ！！3人で炎よ！！」

ルージュ「はい！！」

ケン「待て！！炎なら俺もいるぜ！！」

ケンはリングを上空に投げると炎の龍が宿りメダルに変わった、それをバツクルに付けケンはドラゴニカフォームに変わった。

ケン「とお！！」

ルージュ「はあ！！」

スピリット「たあ！！」

バースト「やあ！！」

4人は空高く飛び上がった。

「フォースキック！！炎バージョン！！」

怪人達は炎を上げて消滅した。

セイント「はあ！！ファントム！！」

ファントム「たあ！！Ok！！」

セイントとファントムは互いに剣を投げ渡し、セイントは金の剣、ファントムは銀の剣を持った。

セイント「プリキュア！！ファントムセイバー！！」

するとセイントの黒い分身がいくつも現れ怪人達を一掃する。

ファントム「プリキュア！！セイントダークネス！！」

ファントムは白い光を出現させ、その光で怪人達を飲み込み消滅させた。

ファントム「セイント返すよ。」

セイント「うん！！」

レモネード「プリキュア！！プリズムチェーン！！」

レモネードは光の鎖で怪人達を捕らえぶんぶんと振り回す。

「SYAIBA charge！！」

シャイバ「はあ！！」

シャイバは黒い雷を剣に集めレモネードが振り回す怪人達を斬りつける、振り回す勢いもありかたい装甲の怪人も難なく切り捨てる。

デイリー「コズミック！！」

コズミック「OK！！」

デイリーはカードを読み込ませる。

「ファイナルアタックライド！！ディディディディ！！」

コズミック「合体技よ！！」

ディリー「うん！！」

「プリキュア！！マゼンタシューティング！！」

マゼンタ色の流星が降り注ぎ怪人達を襲う。

怪人達「うわああ！？」

ディリー、コズミック「20歳の力、なめんじゃないわよ！！」

エルス「プリキュア！！ライジングクラッシュ！！」

エルスは雷の蹴りを地面に叩きつけ地割れを起こす、そして

怪人達「おのれええ！！俺達も光線だ！！」

怪人達も負けじと光線を放つが

ミラージュ「残念ね、返すわ・・・プリキュア！！ナイトミラージュウォール！！」

ミラージュは鏡の壁を作り出し光線を跳ね返した。

怪人達「うわああ！？」

ダブル「てい！！やあ！！」

テンペスト（息を合わせるの難しいわね!?)

ブレイズ（ちよっと動きづらい!?!）

怪人達「あいつらなら行けるぞ!?!行けええ!?!」

怪人達はダブルに向かって攻撃を仕掛ける。

ダブル「きゃあ!?!」

テンペスト（もう!?!うざったい!?!）

ブレイズ（息を合わせて必殺技よ!?!）

ダブルは両手をあげ前に下ろし円を描くと魔法陣が現れる。

テンペスト、ブレイズ（せーの!?!）

ダブル「プリキュア!?!フォースマテリアル!?!」

4色の光線が怪人達を消滅させた。

怪人達「ぎゃあああ!?!」

ブラック「おりゃあ!?!」

ホワイト「たあ!?!」

ブラックとホワイトは怪人達を殴り倒していく、すると後ろから怪

人達が飛びかかる。

ブラック「あつ!?!」

ホワイト「しまった!?!」

しかし

ブライト「はああ!?!」

ウィンディ「だああ!?!」

ブライトとウィンディが光弾で怪人達を吹き飛ばした。

ウィンディ「大丈夫!?!」

ブラック「ありがとう!?!」

ホワイト「ごめんなさい!?!」

ブライト「良いって良いって!?!」

ブロッサム「みなさん!?!一気にやりましょう!?!」

マリリン「それ賛成!?!サクサクつとやるっしゅ!?!」

サンシャイン「わかったわ!?!」

ムーンライト「行きましょう!?!」

するとその途中で怪人達がブロッサム達に遅いかかる。

怪人達「隙あり!!!」

ブロッサム「!!!!」

しかし二本の剣が怪人達を斬りつける。

怪人達「ぎゃああ!?!」

マリン「ああ!?!あんたは!?!」

サンシャイン「仮面ライダー……」

ムーンライト「セツガ!?!」

セツガ「加勢するよ。」

セツガは剣を二本とも投げる、その剣はブーメランのように旋回しながら怪人達を斬りつけていく、そして剣を掴み格闘技で怪人達を倒す。

セツガ「格闘も得意なのさ!」

マリン「相変わらず強いといつかなんといつか……」

ムーンライト「感心している場合ではないわよ。」

ブロッサム「あっ、はい!?!」

マリン「今度こそやるっしゅー!!」

サンシャイン「うん!!」

「プリキュア!!ハートキャッチオーケストラ!!」

女神の鉄拳制裁が怪人達を消滅させた。

アクア「行くわよ!!ローズ!!」

ローズ「わかったわ!!ミルクィローズ・ブリザード!!」

アクア「プリキュア!!サファイアアロー!!」

アクアの連射したサファイアアローはローズのブリザードによって氷の矢となり怪人達を貫いていく。

怪人達「くそお!!」

メロディー「この!!リズム!!」

リズム「OK!!メロディー!!」

2人は手を繋ぐ。

「プリキュア!!パッションナートハーモニー!!」

怪人達「ぐわああ!?!」

すると上空から怪人達が2人を掴みかかる。

メロディー「うわあ!?!」

リズム「きゃあ!?!」

しかし

ミント「プリキュア!!エメラルドソーサー!!」

ミントの必殺技により難を逃れる2人。

ミント「大丈夫!?!」

メロディー「ありがとう!?!」

パイン「たあ!?!」

ベリー「はあ!?!」

パッション「てえい!?!」

ベリー、パイン、パッションは空中旋回し怪人達を突き抜けていく。

怪人達「うわああ!?!」

パッション「プリキュア!!ハピネスハリケーン!!」

赤い竜巻により怪人達は吹き飛ばされた、そして怪人軍団は全滅した。

.....

シャイバ「なんかなくなったな。」

ケン「一瞬ひやひやしたぜ。」

マリ「そういうえばセツガは？」

サンシャイン「またいなくなっちゃった。」

ケン「いなくなるの好きだな、あいつ。」

するこ

リベリオン「みんな、私そろそろ・・・行くね？」

デイリー「そうか・・・リベリオンは真夜と一心同体だったわね。」

セイバー「どうしてもいなくなるの？」

リベリオン「いなくならない、私はあなたといつも一緒よ。」

セイバー「・・・だよ、そうだよね!!」

リベリオン「うん、じゃあみんな・・・またね。」

リベリオンは光の粒子となりセイバーの中に戻っていった。

エルス「私達も行くのか。」

ケン「ありがとうな、来てくれて。」

ドリーム「すごい助かったよ!!!」

ローズ「テンペストとブレイズなんかひとつになってね。」

テンペスト「本当にあれは驚いた。」

ブレイズ「でも面白かったよ、またなれるかな?」

デイリー「彼に頼めばダブルドライバー作ってもらえるんじゃないかしら、プリキュアメモリ持ってるし。」

エルス「なるほど。」

ミラージュ「じゃあ私達も神殿の守護があるから。」

スピリット「また会いましょう。」

バースト「じゃあ行きますか?」

セイバー「私も、いや私達も世界を希望に導かなきゃいけないから。」

「またね。」

エルス達は光に包まれ消えた。

デイリー「じゃあ私達は……」

ブライト「うん…！」

ケン「早いとこあいつの所駆けつけなきゃな！」

シャイバ「行くぜ…！」

シャイバ達は蒼牙達のもとに向かった。

つづく

第41話 戦士VS怪人軍団（後書き）

次回、最終決戦！！

第42話 友達

タイラントは翼を広げて飛びながら何かを振り切るうとしていた。

タイラント「しつこい奴らだ。」

タイラントは何者か達に光弾を放ち爆発を起こすが

ヤイバ、ピーチ、しん王「逃がすかあああああ！！！」

その何者か達はヤイバ、ピーチ、しん王だった、3人は爆風を突き抜ける。

タイラント「おのれ死に損ないが！！！」

タイラントは手の指から光線を放つ、3人はそれをかわす。

ピーチ「待ちなさい！！！」

しん王「待てええ！！！」

ヤイバ「待ちやがれ！！！」

ヤイバはバイクを急加速させ、その勢いでジャンプした。

タイラント「馬鹿が！！！」

タイラントはバイクごとヤイバを叩き落とした。

ピーチ「蒼牙さん!？」

しん王「そう君!？」

しかしどこからかヤイバのサーフィンが現れバイクと合体した、ヤイバはなんとかバイクに乗る。

ヤイバ「これで飛べるぜ!！」

ヤイバはバイクで空を飛ぶ。

しん王「ほい!！ほい!！ほい!！ほい!！」

しん王はバイクのボタンを押しバイクに付いているブリブリざえもんの顔の鼻からはな ずを連射する。

タイラント「なめるなあ!！」

タイラントは全てかわした。

しん王「はやいゾ!？」

ピーチ「おりゃあああ!！」

ピーチはタイラントに殴りかかるが叩き落とされた。

ピーチ「きゃあ!？」

ヤイバ「ラブ!？」

ヤイバはなんとかバイクでピーチを受け止める。

タイラント「いい加減諦めなあ!!」

ヤイバ、ピーチ、しん王「諦めるか!!」

ヤイバ「憎しみに支配されたお前を!!」

ピーチ「救い出すまで!!」

しん王「絶対諦めないゾ!!」

ヤイバはライティングステイクをベルトに装着した。

「change lightning!!」

ヤイバはライティングモードに変わった、そしてしん王のベルトが虹色に輝き出した。

しん王「おお!!」

しん王はパスをベルトにかざす。

「ARASII form!!」

するとしん王のもとにゴウを含むSIHN・MENメンバーが現れた。

しん王「おお!?!何でゴウも!?!」

ゴウ「話は後だゾ!!」

ニヨキ「今は一緒に戦うYO!!」

ヒュー「さあ!!俺達の力を見せるんだ!!」

スイ「行くぞスイ!!」

カン「燃えてきたぜ!!」

するとSHIN・MEN達はイメージのようにしん王に乗り移った、そしてしん王の姿は両足はゴウ、右手はスイ、左手はニヨキ、装甲はカン、ヒューのマント、顔のハート型?のゴーグルが逆さまになり割れた桃のよう形に変わった、これがSHIN・MENとしん王の力が組み合わせあった、仮面ライダーしん王・アラシフォームだ。

しん王「行くゾ!!みんな!!(おう!!)」

ヤイバ「ラブ、飛べるか?」

ピーチ「当然!!」

ヤイバ「俺が何とか奴に近づくと、そしてお前があいつに攻撃してくれ!!」

ピーチ「うん!!みんなで幸せゲットしなきゃ!!」

ヤイバはバイクでタイラントの攻撃をかわしながら近づく。

タイラント「小癩な真似を!!」

ヤイバ「今だ!!」

ピーチ「たあああ!!」

ピーチはタイラントに飛びかかる、しかしタイラントは衝撃波を放ち吹き飛ばした。

ピーチ「きゃあ!？」

ヤイバ「おらあ!」

ヤイバは剣を投げつける、しかしタイラントはそれを片手で受け止め刃を粉々に握りつぶした。

ヤイバ「なっ!？」

タイラント「残念だ・・・「スキヤキ!」っ!？」

タイラントが前を向くて目の前にしん王がいたのだ、ヒューの力で飛行をしたのだ。

しん王「ほい!!」

しん王のニョキの手は成長したかのようにのびタイラントの体に巻きついた。

タイラント「なっ!？」

しん王「ほっほおおおい!!」

しん王はタイラントを投げ飛ばしスイの手から水の光線を放ち地面に叩きつけた。

タイラント「ぐあ!？」

3人は着地する。

ヤイバ「ナイスだしんちゃん!!」

ピーチ「お手柄だよ!!」

しん王「いや〜。」

しかしタイラントは立ち上がった。

タイラント「ムシャンから聞いたか、私の過去を・・・」

ヤイバ「聞いたよ、あんたずっと辛さを閉じ込めてたんだな。」

タイラント「ええ、そうよ・・・私はただやれと言われた事をこなしただけ・・・スポーツもテストも全部!!なのにそれを妬まれたついに私を産んだ家族すら私を見捨てた!!・・・だからこんな世界・・・滅ぼして新しい世界を作って ヤイバ「馬鹿か!？」っ!？」

ヤイバはタイラントの言葉を遮った。

ヤイバ「お前の辛い気持ちはよく伝わったよ、痛いぐらいな・・・だが、今のお前はお前を傷つけた奴らと同じ事をしてるんだぞ!!」

タイラント「なん・・・だと？」

ピーチ、しん王「・・・」

ヤイバ「あいつが気に入らない、だから気が済むまで痛めつけよう、苦しませよう、無視しよう・・・お前はその心の痛みから逃げるために世界に八つ当たりしてるだけなんだ。」

タイラント「違う！！私は二度と私のような思いを他の人にさせないために当然の事をするだけだ！！悪い奴らは消す・・・お前も今までそうしてきただろ！！」

ヤイバ「確かに・・・俺は俺をこんな体にしたプロトが許せなかった・・・」

・・・

カーズ「あなたは人間じゃないのよ。」

モグル「プロトによって作られた兵器・・・」

マダラ「改造人間だ。」

・・・

ヤイバ「俺はあの時プロトに復讐を誓っていた、アイリがいなければ・・・俺は自分の苦しみをプロトにあじあわせようとしてた、だが変われた・・・プロトの奴らを苦しませようじゃなく、人間のために、大好きなこの世界のために戦おうって・・・誓えたんだ。」

タイラントは黙り込んでしまった。

ピーチ「そつだよ。」

ピーチが前にでる。

ピーチ「たとえどんな人でも、仲良くなれるんだよ、私達とせつなのように。」

.....

イス「私は友達なんかじゃない！！ラビリンス総統メビウス様が僕、イスだ！！」

せつな「ラブ・・・ありがとう、私精一杯頑張るわ！！」

.....

タイラント「貴様は悪人と仲間になれたとでも言うのか？」

ピーチ「悪人じゃないよ、もともと友達だったから。」

そしてしん王が前にでた。

しん王「オラもおじちゃんと友達になれたゾ、もう会う事はできないけど・・・」

.....

「しんのすけ……これをお前にやろう……持っていてくれ……」

しんのすけ「……きんちょう……」

……

しん王「昔の人でも、ちゃんと仲良くなれるゾ。」

タイラント「……何故だ……」

しん王「？」

タイラントは震えていた。

タイラント「何故貴様らはそんなに前向きでいられるんだ？何故絶望のふちに落とされても立ち上がれるんだ？」

ヤイバ「なんだ、そんな事か……」

ピーチ「それはね……」

しん王「オラ達は……」

「みんなと友達になりたいから。」

3人はタイラントに手を差し出した。

タイラント「！？（こんな恐ろしい姿をした私を受け入れた？……こんな、こんな姿をした私を……）」

タイラントが3人の手を触れようとしたその時

(何を考えている。)

タイラント「!?!」

突如タイラントが頭をおさえて苦しみます。

ヤイバ「何っ、どうした!?!」

ヤイバがタイラントに近寄ると

タイラント「よっ、寄るなあ!?!」

ヤイバ「!?!」

ピーチ「そんな・・・」

しん王「うわあ!?! (何だスイ!?!)」

タイラントの姿はみるみる形を変えていく。

タイラント「やめ・・・て (憎め・・・全てを憎め!!) (あああああ
あああ!?!)」

タイラントは悪魔のような姿に変わりしかも巨大化したのだ。

ピーチ「なんなの!?!」

するとタイラントはしゃべりだした。

巨大タイラント「世界を滅ぼし、全てを無に!?!」

しん王「(まずいぜ!?!あいつは世界の憎しみでいっぱいだ!?!)
でも何で!?!」

ヤイバ「タイラントの憎しみは心に悪魔を生み出したんだ、タイラントの力は多分全部あいつが!?!」

ピーチ「危ない!?!」

巨大タイラント「死ねえ!?!」

タイラントは光弾を連射し3人を襲った。

ヤイバ「うわあああ!?!」

ピーチ「きゃああああ!?!」

しん王「うわわわああ!?!(ニヨキ!?!力を貸せ!?!)(わかった
YO!?!ゴウ!?!)」

タイラント「はははははははははははははははは!?!」

タイラントはまだまだ光弾を連射する、しかし

タイラント「はははは・・・!?!」

タイラントは目を疑った、なぜなら

しん王「ほっほい!!」

しん王はニヨキの力でブリブリソードを伸ばしムチのようにし、さらにゴウの力でムチは炎のムチになり光弾を全て弾き返していた。

タイラント「馬鹿な!?!」

そして光弾によって起こった土煙からヤイバが現れタイラントの腹に剣を突き刺した。

ヤイバ「だあ!!」

タイラント「ぐっ!?!」

ヤイバはタイラントの腹を切り裂いた、すると隙間から何ら女の子が見えた。

ヤイバ「まさか彼女が!?!おわあ!?!」

ヤイバはタイラントに叩き落とされた。

ピーチ「蒼牙さん!!」

ヤイバ「ラブ!!まだタイラントを助けられるかもしれない!!」

ピーチ「本当に!?!」

しん王「何でわかったの？」

ヤイバ「話は後でわかる！！とりあえず援護頼むよ！！」

ヤイバは光弾によつて起こる爆発の中を駆け抜けていく。

ピーチ「しんちゃん！！」

しん王「ぶ！！（ラジャー！！）」

しん王は飛行しながら炎のムチと水の光線で光弾を打ち消し、ピーチはラブサンシャインで光弾を打ち消していく。

タイラント「死ね！！」

タイラントの羽が抜け針のように飛びピーチを襲う。

ピーチ「きゃあ！？」

しん王「ふんぬ！！！」

しかししん王のカンの装甲が巨大な盾に変形し針を弾き返してピーチを守る。

ピーチ「ありがとう！！！」

しん王「どういたまして〜」

ヤイバ「おりゃあああ！！！」

ヤイバは高くジャンプし腹を切り裂いた、そして手を突っ込んだ。

タイラント「やめろお!？」

ヤイバ「これは、手か!？」

ヤイバは強く引っ張った、すると腹から女の子が出てきた。

ピーチ「まさかあれがタイラントの本当の姿!？」

しん王「おお!!美人!?(お前な!?)【SHIN-MEN一同】」

ヤイバは女の子を抱えて着地した。

タイラント「貴様ああ!!」

ヤイバ「返してもらったぜ!!」

するとタイラントは急に弱りだした。

しん王「弱ってるゾ!？」

ピーチ「何で?」

ヤイバ「おそらくこの子があいつの核だったんだろっつ、今なら奴を
!?!」

ついにタイラントは暴れ出した。

ピーチ「きゃあ!?!」

ヤイバ「うわあ!?!あぶねえ!?!」

しん王「何とかするゾ!?!へつくしよおおん!?!」

しん王はバックルを鼻につけはな　ずをとばしタイラントを拘束した。

タイラント「ぐお・・・おお!?!」

ヤイバ「今だ!?!」

「lightning charge!?!」

ピーチ「クローバーボックス、私に力を貸して!?!」

しん王「行くゾ!?!」

「full charge」

ヤイバ、ピーチ、しん王はそれぞれ右足にエネルギーをため高く飛び上がった。

ヤイバ「はああああ!?!」

ピーチ「たああああ!?!」

しん王「おりゃああああ!?!」

3人のキックはタイラントに直撃する。

タイラント「ぐっ！？ふざけるなあ！！世界を・・・世界を無に！！」

その時

ヤイバ、ピーチ、しん王「ふざけるな！！」

タイラント「！？」

ヤイバ「世界を無にしたらアイリと婚約届出せないだろお！！」

ピーチ「ええ！？それ！？」

しん王「綺麗なお姉さんといっぱいお付き合いできなくなるゾ！！」

ピーチ「ええ！？え〜と・・・だ、大好きなダンスできなくなるじゃない！！」

3人のエネルギーが徐々にに大きくなっていく。

タイラント「くだらない！！そんなくだらない事を・・・」

ヤイバ「確かにふざけちゃったけど、それが俺の幸せなんだよ！！」

しん王「オラはたくさんのお姉さんといっぱいお付き合いできるモテモテな男になって幸せになるゾ！」

ピーチ「そうだよ！！私は大好きなダンスを美希たん、ブッキー、せつなと一緒にやってカオルちゃんやミュキさん、たくさんの人達に見てもらいの！！そして私達は幸せをゲットするの！！！」

タイラント「幸せっ、なんだそれはあああああ！？」

そしてタイラントは多大なエネルギーに飲み込まれて消滅した。

.....

蒼牙「君！！大丈夫か！？」

ラブ「目を覚まして！！！」

しんのすけ「お願いだゾ！！！」

女の子「.....ん？」

女の子は目を覚ました。

カン「目を覚ましたぜ？」

スイ「体が汚れてるスイ、洗い流すスイ。」

スイは水をシャワーのようにかけ汚れを洗い流す。

ゴウ「じゃあ乾かすよ。」

ゴウが炎でぬれた女の子を乾かす。

女の子「あつ、ありがとう・・・」

ラブ「ねえ、名前は？」

ラブは女の子に尋ねた。

女の子「・・・紗耶香。」

蒼牙（ええ）（震）・・・紗耶香って同じかよ・・・

しんのすけ「どしたのそう君？」

蒼牙「えっ！？いや、疲れたなあって（汗）。」

するとSHIN・MENが

ヒュー「じゃあそろそろ行くよ。」

カン「そうだな。」

しんのすけ「ゴウありがとうね」

ゴウ「うん、またね！！」

SHIN・MENはその場を去った。

紗耶香「あ・・・私、あなた達にひどい事を・・・」

ラブ「えっ？大丈夫だよ、もう大丈夫」

しんのすけ「大丈夫だゾ！！ねえ紗耶香ちゃん、ゆで卵は完熟？半熟？」

蒼牙「こらっ（汗）！！！」

紗耶香「半熟かな？」

ラブ「答えるんかい！？」

すると

「おゝい！！！」

蒼牙「おつ、みんな来たか。」

ラブ「一緒に行こう！！！」

紗耶香「良いんですか？私・・・」

しんのすけ「大丈夫！！大丈夫！！！」

蒼牙「よし、行こうぜ！！！」

4人は仲間のもとに向かった、そしてついに邪悪な存在・タイラントを倒し、世界を守ったのだ。

UNU

第42話 友達（後書き）

次回、ついに最終回！！

最終話 平和だろ。(前書き)

ついに最終回です(涙)

最終話 平和だゾ。

あの戦いから1ヶ月後・・・

アクション遊園地・・・

アイリ「ちょっと、本当にここなの？」

蒼牙「こ、ここだよ！！疑ってんの！？」

蒼牙とアイリは遊園地に来ていた、ラブから誘いの連絡が届いたのだ。

アイリ「別に？でも良かったわね、埼玉県の警察署に就職できて？」

蒼牙「あ、ああ・・・住む所は微妙だけど（またずれ荘だったよな。）でも何でお前も同じ所で働くの？」

アイリ「浮気しないか調査。」

蒼牙「ええ（汗）。」

蒼牙とアイリは埼玉県の警察署に就職したのだ、すると

「ほっほい！！そう君！！アイリちゃん！！」

アイリ「しんちゃん！！」

蒼牙「しんちゃ

しかししのすけは蒼牙に見向きもせずアイリに飛びついた。

しのすけ「アイリちゃん」

アイリ「よしよし。」

蒼牙「俺って一体……」

すると

「元気だしてください。」

蒼牙「あ……ラブにせつなに美希に祈里。」

フレッシュメンバー集合である。

蒼牙「女多いな。」

アイリ「たしかに……ん？」

「こらしんのすけ!!勝手に行くな!!」

「しのすけ君、危ないですよ。」

蒼牙「ああ、春日部防衛隊のみんな……うわあ!？」

ラブ「どっかの組長!？」

「私は園長です!!!」

風間「この人は組長じゃなくて僕達の通う幼稚園の園長先生です。」

ネネ「ちよつと人相悪いけどね。」

まさお「園長先生ズタズタですね。」

園長「うう……。」

ボ「園長先生……元気だして。」

しんのすけ「組長、オラ達そう君と行くから風間君達と遊びなよ。」

園長「……そうですね、じゃあしんのすけ君をお願いします。」

園長は風間達を連れその場を去った。

せつな「そういえばなんで園長先生と一緒に来たの？」

しんのすけ「一緒に来てくれたら奥さんに内緒でお菓子食べたの話
さないであげるって言ったら来てくれたの。」

祈里「脅迫だよね！？ねえ、それ脅迫だよね！？」

美希「大した幼稚園児なこと（汗）。」

するとラブが

ラブ「ん？アイリさん、その名札……。」

蒼牙「ていつか時間無くなるよ?」

ラブ「ああそうだ!!早く遊ぼうよ!!」

アイリ「そうね、楽しみましょう。」

一同はそれぞれ好きなアトラクションに行った。

しんのすけ「ぐるぐるぐるぐる!!」

祈里「しんちゃん回しすぎいいいい!!?」

せつな「これがコーヒーカップね。」

.....

ジェットコースター

アイリ、ラブ「ヤッホー!!」

蒼牙、美希「ぎゃああああああ!!?」

.....

蒼牙はベンチに座った。

アイリ「大丈夫?」

蒼牙「何とか.....」

ラブ「苦手だったんですね、ごめんなさい。」

蒼牙「大丈夫大丈夫・・・それにしても、あれから1ヶ月かあ。」

アイリ「早いわね。」

ラブ「あれからみんな何してるんだらう?」

蒼牙「特にタクヤと紗耶香が気になるな。」

・・・

蒼牙「旅?」

タクヤ「ああ、俺はまだ世界を知らないからとりあえず世界を旅する、あとこいつもな。」

タクヤは紗耶香の頭に手をのせる。

龍一「まさか連れてくのか?」

タクヤ「ああ、こいつも世界をまだ知らないからな、一緒に旅をする。」

紗耶香「みなさん、ありがとうございます。」

紗耶香は頭を下げた。

タクヤ「じゃあ行くぞ。」

紗耶香「あっ、うん!！」

タクヤと紗耶香は手を繋ぎその場を去った。

.....

ラブ「今どこを旅してるんですかね？」

蒼牙「まあ元気にしてるとは思うけど。」

アイリ「そういえば勇奈も元気かしら？」

.....

のぞみ「ええ!?!勇奈帰っちゃうの!?!」

勇奈「うん、もともと私はこの世界をダークエンジェルスから守るために来たけど、まだそんな様子も無いし向こうも心配だから。」

蒼牙「ダークエンジェルスか、まかせとけ。」

勇奈「当然、じゃあね。」

.....

アイリ「あっ!?!」

アイリは突然声をあげた。

蒼牙「どうした!?!」

アイリ「実はエルス達にもらったカードなんだけど・・・」

・・・

アイリ「このカードには驚いたなあ・・・ええ!？」

エルスからもらったオールスターズのライドカードが意志を持ったかのように飛んでいったのだ、しかしそれが時空を超えてある男の手に渡り再び世界を救う切り札になる事は知らなかった。

????「何だこれ？」

????「土君、どうしたんですか？」

????「えっ? いや・・・何でもない。」

・・・

アイリ「どこいったんだろっ?」

ラブ「不思議ですね。」

するとしんのすけ達がやってきた。

しんのすけ「どしたの?」

蒼牙「ん? いや、って祈里!？」

せつな「しっかりブッキー!!!」

祈里「せつなさんが3人〜？」

美希「ダメだこりゃ。」

すると何やら叫び声が響いた。

アイリ「なっ、何!?!」

ラブ「あっ!?!見て!?!」

するとそこには怪人がいた。

怪人「この野郎!!メデューサ滅ぼしやがって!?!」

蒼牙「メデューサの生き残りか。」

しんのすけ「ええ!?!またあ!?!」

蒼牙「大丈夫だよ、アイリ、美希、祈里、せつな、お客さんを頼む。」

アイリ「わかったわ!?!」

美希「まかせたわよラブ!!完璧にね!?!」

祈里「ラブちゃん!!信じてる!?!」

せつな「精一杯頑張っ!?!」

アイリ達は客の避難にまわった。

怪人「あっ!?!お前達だなメデューサを滅ぼしたのわ!?!この野郎
!?!」

蒼牙「ああ、うるせえ。」

ラブ「行くよ!?!」

しんのすけ「ぶ!?!ラジャー!?!」

3人は戦闘体勢に入る。

蒼牙「変身!?!」

ラブ「チェインジ!プリキュア・ビートアップ!?!」

しんのすけ「変・・・体!?!」

完

最終話 平和だゾ。(後書き)

さあて、次回作は・・・あれだな。

詳しくは超クロスオーバー物語で！！

応援ありがとうございました！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5235q/>

プリキュアオールスターズ～雷の仮面と嵐を呼ぶ幼稚園児!!～

2011年3月23日14時29分発行